

4 同人第 3 号

井手町宮住宅北団地 2 号棟、南団地 2 号棟耐震補強工事

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
D-01	表紙・図面リスト	D-21	南団地 2 号棟 現況平面図	S-01	構造特記仕様書	E-01	電気設備工事特記仕様書-1
D-02	建築工事特記仕様書-1	D-22	同上 現況立面図・断面図	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	E-02	電気設備工事特記仕様書-2
D-03	建築工事特記仕様書-2	D-23	同上 改修平面図	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	E-03	北団地 2 号棟 外灯設備図(改修)
D-04	建築工事特記仕様書-3	D-24	同上 改修立面図・断面図	S-04	北団地 2 号棟 ソイルセメント併用羽根付き鋼管杭 回転埋込み工法 特記仕様書	E-04	同上 外灯設備図(現況・撤去)
D-05	建築工事特記仕様書-4	D-25	同上 現況・撤去詳細図	S-05	同上 現況・撤去伏図	E-05	同上 動力幹線・電灯設備図
D-06	建築工事特記仕様書-5	D-26	同上 改修詳細図	S-06	同上 現況・撤去軸組図	E-06	同上 弱電・集中検針設備図
D-07	建築工事特記仕様書-6			S-07	同上 PCa外フレーム工事特記仕様書	E-07	同上 TV共視聴設備図
D-08	建築工事特記仕様書-7			S-08	同上 PCa外フレーム平面配置図・軸組図	E-08	南団地 2 号棟 TV共視聴設備図
D-09	附近見取図			S-09	同上 PCa外フレーム断面リスト		
D-10	改修仕上表			S-10	同上 PCa外フレーム架構図		
D-11	北団地 2 号棟 配置図・仮設計画図			S-11	同上 アンカー配置要領図・各部配筋要領図	M-01	機械設備工事特記仕様書-1
D-12	同上 現況平面図			S-12	南団地 2 号棟 現況・撤去伏図	M-02	機械設備工事特記仕様書-2
D-13	同上 現況立面図・断面図			S-13	同上 現況・撤去軸組図	M-03	北団地 2 号棟 衛生設備 配置図及び現況屋外配管図
D-14	同上 改修平面図			S-14	同上 改修伏図・軸組図	M-04	同上 衛生設備 現況・撤去・改修平面図
D-15	同上 改修立面図・断面図			S-15	同上 補強詳細図	M-05	同上 衛生設備 現況・撤去・改修平面・立面図
D-16	同上 現況・撤去詳細図						
D-17	同上 改修詳細図						
D-18	同上 屋外 撤去・改修詳細図						
D-19	同上 仮設駐車場整備図						
D-20	南団地 2 号棟 配置図・仮設計画図						



建築改修工事特記仕様書

【1】 工事概要

1. 工事場所 北団地2号棟 京都府綴喜郡井手町大字井手小学段ノ下2番地
南2団地号棟 京都府綴喜郡井手町大字井手小学段ノ下56番地

2. 敷地面積 m²

Table with 5 columns: 棟名, 構造, 階数, 建築面積(m²), 延べ面積(m²), 備考. Rows include 北団地2号棟 and 南団地2号棟.

4. その他

【2】 適用範囲

現場説明書(質疑回答書を含む)、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。
すべての設計図書は相互に補充するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。

【3】 工事区分

設計図書による。
別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】 工事仕様

- 1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修仕様」のほか別記の適用基準による。
2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。
4. 項目及び特記事項に記載の()内表示番号は「改修仕様」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

Main specification table with columns: 章項目, 特記事項. Includes sections for ① 適用基準等, ② 建築材料等, ③ 特別な材料の工法.

1 一般共通事項

- ④ 風圧力及び積雪に対する性能
⑤ 現場代理人
⑥ 工事工程報告
⑦ 工事実績情報の登録 (1.1.4)
⑧ 施工体制台帳等の作成・提出 (1.1.5)
⑨ 設備工事との取合い
⑩ 施工図等の取扱い (1.2.3)
⑪ 工事写真 (1.2.4)

12 電気保安技術者

⑬ 施工条件 (1.3.5)

⑭ 発生材の処理等 (1.3.8)

Table with columns: 特記事項. Contains detailed technical specifications, safety measures, and material handling procedures.

1 一般共通事項

- 15 調査のための破壊部分の補修 (1.5.3)
⑮ 技能士 (1.6.2)

17 施工の検査等 (1.6.5)

18 化学物質の濃度測定 (1.6.9)

⑯ 完成図 (1.8.2)

⑰ 保全に関する資料 (1.8.3)

2 仮設工事

① 足場その他 (2.2.1)

② 既存部分の養生 (2.3.1)

Table with columns: 特記事項. Contains detailed specifications for construction methods, safety measures, and material handling.

2 仮設工事

- 3 仮設間仕切り (2.3.2)
④ 監督職員事務所 (2.4.1)
⑤ 工事用水
⑥ 工事用電力
7 仮囲い等
8 設計G.L.

2 土・鉄筋・コンクリート工事

① 埋め戻し及び盛土 (3.2.3)

② 建設発生土の処理 (3.2.5)

③ 鉄筋の種類 (5.2.1)

4 溶接金網 (5.2.2)

⑤ コンクリートの強度 (6.1.4)

⑥ レディーミクストコンクリートの類別等 (6.1.5)

⑦ セメントの類別 (6.3.2)

Table with columns: 特記事項. Contains detailed specifications for materials, construction methods, and safety measures.

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
2) 土・鉄筋・コンクリート工事	⑧ 骨材 (6.3.3)	粗骨材 ※砂利(JIS A5308)、砕石(JIS A5005) ○電気炉酸化スラグ ○再生骨材H 細骨材 ※砂(JIS A5308)、砕砂(JIS A5005) ○高炉スラグ ○電気炉酸化スラグ ○鋼スラグ ○珪石スラグ ○再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※A(無害) ○	3) 防水改修工事	アスファルトの種類 ※3種 アスファルトルーフィング ※1500 ○ ○粘着層付アスファルトルーフィング 厚さ(mm) ○ mm 種別 ※非露出複層防水層R種 ○ ○改質アスファルトルーフィングシート 厚さ(mm) ○ mm 種別 ※露出単層防水用R種 ○	3) 防水改修工事	4) 塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3)	種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P O X 工 法 ※ X-1 表3.6.1 ○ L 4 X 工 法 ※ X-2
	⑨ 混和材料 (6.3.5)	混和剤 ※AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤の1種(JIS A6204) 混和材 ※フライアッシュ(JIS A6201) I 種又はII種		断熱材(保護防水断熱工法) 厚さ(mm) ○ mm 材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bのスキン層付(ただし、特定フロンを含まないものとする。) 断熱材(露出防水断熱工法) 厚さ(mm) ○ mm 材質 ※ルーフィング類製造所の仕様による		5) 漏水試験	脱気装置 ○ 設ける 材種 () 設置数量(1箇所/ m) 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○
	⑩ 構造体強度補正值 (6.4.5)	※気温による構造体強度補正值(S) (表6.4.1) 予想平均気温(°C) 補正值 期 間 (打 設 日) 普通 早強 (T) 南部地域 中部地域 北部地域 8以上 5以上 3 3/6 ~ 6/30 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10 N/mm2 9/11 ~ 11/15 9/1 ~ 11/5 9/1 ~ 10/31 0以上 0以上 6 11/16 ~ 3/5 11/6 ~ 3/10 11/1 ~ 3/10 8未満 5未満 N/mm2 南部地域(京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域(宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域(上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む)		断熱用シート ※ポリエチレンフィルム厚0.15(保護防水工法) ※フラットヤーンクロス(70g/m程度)(保護防水断熱工法) ○		6) 保証書	保護層 ○ 設ける ○ 設けない ※水張り試験を行う (○屋内 ○屋外)
	11 暑中におけるコンクリートの扱い (6.8.2)	※暑中における構造体強度補正值(S) 地 域 日平均気温が25度を超える期間(打設日) 補 正 値 北 部 地 域 7月11日~8月31日 ※6N/mm2 中 部 地 域 7月21日~8月31日 南 部 地 域 7月1日~9月10日 ○3N/mm2		押え金物 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ 立上がり部 保護コンクリート ○適用する() ○適用しない ※レング押え(JIS) ○コンクリート押え ○砂利押え ○乾式保護材() 保護層 平場のコンクリート厚さ ○ mm ○こて仕上げ mm ○床タイル張り等仕上げ mm		7) 施工確認	※請負業者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限は工事目的物引渡しより10年間以上とする。)
	12 寒中コンクリート	※予想平均気温が表6.4.1に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第12節(寒中コンクリート)による。		伸縮調整目地 ※成形伸縮目地材 ○ 成形緩衝材 ※ルーフィング類製造所の指定品 ○		8) シーリング (3.7.2) ~ (3.7.8)	工事後後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 ※真鍮製エッチング仕上げ150×100 ○ 設置数量 () 箇所 シーリング材の種類 ※改修標仕表3.7.11による
3) 防水改修工事	⑬ コンクリートの試験 (6.10.2) ~ (6.10.6)	※フレッシュコンクリートの試験 ※コンクリートの強度試験 ○材料試験 レディーミクストコンクリート施工の品質管理 ※スランプ試験、圧縮強度試験、空気量測定については、少なくとも一回以上、監督職員立会の上、実施しなければならない。ただし、やむを得ない場合は監督職員の承認を受けた上で、請負者のみで実施してもよい。	2) 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)	○ シーリング改修工法及び施工箇所 改 修 工 法 の 種 別 施 工 箇 所 ○ シーリング充填工法 ○ シーリング再充填工法 ○ 拡張シーリング再充填工法 ○ プリッジ工法			
	⑭ コンクリートミサ車の過積載防止対策等	請負者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる集計表を検査時に提出しなければならない。	○ 露出防水密着工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 4 A S 工 法 ○ AS-1 ○ AS-2 表3.4.1 ○ AS-3	○ シーリングの試験 ※簡易接着性試験 (部位) ○ 引張接着性試験 (部位)			
	15 軽量コンクリート (6.11.1)	種別 ○1種 ○2種 施工箇所	○ 露出防水絶縁工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6	○ 露出防水絶縁断熱工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S I 工 法 ○ ASI-1 ○ M 4 A S I 工 法 ○ ASI-2 表3.4.3 ○ P O A S I 工 法			
1) アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○保護防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B I 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B I 工 法 ○ P 2 A I 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○露出防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 4 C 工 法 ○ C-1 ※ C-2 表3.3.7 ○ M 3 D 工 法 ○ D-1 ※ D-2 表3.3.8 ○ P O D 工 法 ○露出防水絶縁断熱工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P O D I 工 法 ○ M 3 D I 工 法 ○ DI-1 ※ DI-2 表3.3.9 ○ M 4 D I 工 法 ○屋内防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法	3) 合成高分子ルーフィングシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	断熱材(露出防水絶縁断熱工法) 厚さ(mm) ○ mm 材質 ※改質アスファルトシート製造所の仕様による ○ 仕上げ塗料 ○カ- () ○シパ- 脱気装置 ※設ける 材種 () 設置数量(1箇所/ m) 防湿層 ○ 設ける ○ 設けない 改質アスファルトシート下地に部分的に溶着又は接着させる場合 ○ 施工法 () 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P O S 工 法 ○ S(I)-F1(t- ※1.2 ○) ○ S 4 S 工 法 PC部材入層増強 (※有り ○無し) ○ P O S I 工 法 ○ S(I)-F2(t- ※2.0 ○) ○ S 4 S I 工 法 ○ S(I)-M1(t- ※1.5 ○) ○ S(I)-M2(t- ※1.5 ○) ○ S(I)-M3(t- ※1.2 ○) 表3.5.1 ○ S 3 S 工 法 ○ S(I)-F1(t- ※1.2 ○) ○ S 3 S I 工 法 PC部材入層増強 (※有り ○無し) ○ S(I)-F2(t- ※2.0 ○) ○ M 4 S 工 法 ○ S(I)-M1(t- ※1.5 ○) ○ M 4 S I 工 法 ○ S(I)-M2(t- ※1.5 ○) ○ S(I)-M3(t- ※1.2 ○) 断熱材 ○用いる (厚さ(mm) 種類) PCコンクリート部材下地の場合の目地処理 ○ 絶縁用シート ※発泡ポリエチレンシート ○ 仕上げ塗料 ○カ- () ○シパ- 脱気装置 ○ 設ける 材種 () 設置数量(1箇所/ m) ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。	9) とい(雨水) (3.8.2) ~ (3.8.3)	○内とい(VP管は使用しない) 種 別 材 質 其 他 たてとい及び横走り管 ※SGP 径 75mm とい受け金物 ※ 亜鉛メッキ鋼板 防露巻き ※ 改修標仕表3.8.3による ※F☆☆☆☆ ※ 掃除口を設ける(開放性のある自転車置き場のといを除く) ○養生鉄管を設ける (径 厚さ 長さ) ●既存といの撤去及び養生 (図示) ○鋼管製といの防露巻 (※表3.8.4 ○) ●たてとい受け金物 (※ 亜鉛メッキ鋼板) (表3.9.1) 種 類 板厚(mm) 表面処理 固定間隔 備 考 ●250形 1.6 ●A-1種(無着色) ※1.3 m程度 隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。 ○300形 1.8 ○A-2種(着色) ○ ○350形 2.0 ○B-1種 ○ ○B-2種 ○曲げ材 ※2.0 ○ ○		
4) 施工数量調査 (1.5.2)	※行う(○ひび割れ ○欠損 ○浮き ○) ※施工に先立ち、建築士上診断技術者(BELGA)による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承認を得ること。 ○行わない	4) 外壁改修工事	○コンクリート打ち放し仕上げ 工 法 材 料 施 工 箇 所 ※樹脂注入工法 ※硬質形エポキシ樹脂 ○軟質形エポキシ樹脂 ○Uカットシール ※可とう性エポキシ樹脂 材充填工法 ○シーリング材(PU-2) ○ポリマーセメントモルタル ○シール工法 ※パチ状エポキシ樹脂 ○可とう性エポキシ樹脂	5) モルタル塗り仕上げ (4.4.5) ~ (4.4.7)	工 法 材 料 施 工 箇 所 ※樹脂注入工法 ※硬質形エポキシ樹脂 ○軟質形エポキシ樹脂 ○Uカットシール ※可とう性エポキシ樹脂 材充填工法 ○シーリング材(PU-2) ○ポリマーセメントモルタル ○シール工法 ※パチ状エポキシ樹脂 ○可とう性エポキシ樹脂		
2) ひび割れ部改修 (4.1.4) (4.2.2) (4.3.4) ~ (4.3.6)	○コンクリート打ち放し仕上げ 工 法 材 料 施 工 箇 所 ※樹脂注入工法 ※硬質形エポキシ樹脂 ○軟質形エポキシ樹脂 ○Uカットシール ※可とう性エポキシ樹脂 材充填工法 ○シーリング材(PU-2) ○ポリマーセメントモルタル ○シール工法 ※パチ状エポキシ樹脂 ○可とう性エポキシ樹脂	3) 欠損部改修 (4.3.7)	○コンクリート打ち放し仕上げ 工 法 材 料 施 工 箇 所 ○充填工法 ※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル	4) モルタル塗り仕上げ (4.4.8) ~ (4.4.9)	工 法 材 料 施 工 箇 所 ○充填工法 ※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル ○モルタル張替え ※改修標仕4.4.1による 工 法		
4) モルタル張り仕上げ (4.4.5) ~ (4.5.8)	○タイル張り仕上げ 工 法 材 料 施 工 箇 所 ※樹脂注入工法 ※硬質形エポキシ樹脂 ○軟質形エポキシ樹脂 ○Uカットシール ※可とう性エポキシ樹脂 材充填工法 ○シーリング材(PU-2) ○ポリマーセメントモルタル ○シール工法 ※パチ状エポキシ樹脂 ○可とう性エポキシ樹脂	○タイル張替え工法 工 法 材 料 施 工 箇 所 ○タイル部分張替え工法 ○変成シリコン樹脂 ○ウレタン樹脂	○タイル張り仕上げ 工 法 材 料 施 工 箇 所 ○タイル部分張替え工法 ○ポリマーセメントモルタル ○変成シリコン樹脂 ○ウレタン樹脂 ○タイル張替え工法				

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項		
4	外壁改修工事	4 浮き部改修工法 (4.4.10) ~ (4.4.15)	○モルタル塗り仕上げ 工法 1箇所の面積 (㎡) 浮き (mm) フカビシ (本/㎡) (箇所/㎡) 注入口 (箇所) (一般部) (指定部) 充填量 (箇所) (注入口) (一般部) (指定部) (ml) (ml) 施工箇所 ○フカビシ部分 1.0 ※16 ○ 1.0 ※25 ○ ○フカビシ全面 1.0 ※13 ○ ※12 ○ ※25 ○ ※25 ○ 1.0 ※20 ○ ※20 ○ ○ ○ ○フカビシ全面 1.0 ※13 ○ ※12 ○ ※25 ○ ※50 ○ 1.0 ※20 ○ ※20 ○ ○ ○ ○注入口付フカビシ部分 1.0 ※9 ○ ※25 ○ ○ 1.0 ※16 ○ ○ ○ ○ ○注入口付フカビシ全面 1.0 ※9 ○ ※9 ○ ※25 ○ ※25 ○ 1.0 ※16 ○ ※16 ○ ○ ○ ○注入口付フカビシ全面 1.0 ※9 ○ ※9 ○ ※25 ○ ※50 ○ 1.0 ※16 ○ ※16 ○ ○ ○	4 8 アンカーピン注入工法 (4.2.2) アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼(SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒 ○ 9 注入口付アンカーピン注入工法 (4.2.2) 注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼(SUS304)、呼び径6mm ○ 10 モルタル塗替え工法 (4.2.2) (4.4.9) 既製目地材 ○使用する(形状 _____) 仕上げ厚又は全塗膜厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 ○ 11 目地部分張替工法及び目地張替工法 (4.2.2) (4.5.8) 施工箇所及びタイルの種別 形状寸法(mm) 生地 釉薬 役物 色 耐凍害性 工法 その他 ○磁器 ○無釉 ○有り ※標準 ○有り ○せつ器 ○施釉 ○無し ○特注 ○無し ○陶器 タイルの試験張り ※行わない ○行う タイルの見本焼き ※行わない ○行う 窓回りの固定 ※する ○しない 施工後の確認及び試験 浮きの確認 ※全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※接着力試験機による接着力試験を行う ○行わない 目地張替用材料 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○ ○モルタル塗り仕上げ 以上 ※改修標準4.4.11による	4 外壁改修工事	15 部分改修工法 (4.6.6)	⑭ 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.6.3) (4.6.4) 既存塗膜の除去方法 ※試験施工実施 ●サンダー工法 ○サンダー工法(試験施工実施) (加圧力 ○50~100pa ○30~50pa) ○塗膜はく離工法(製造所: _____) ○水洗い工法 (○デッキブラシ ○高圧ホース10~15pa) 既存塗膜の除去範囲 ※既存仕上げ面全体 ○既存壁面の(____%) ●別図に示す範囲 下地処理 下地調整剤 ※セメント系下地調整剤(JIS A6916) ○ポリマーセメントモルタル ○防水形主材(JIS A6910(複層仕上塗材)) 仕上げ塗材の種類 ○薄付け仕上塗材 ○厚付け仕上塗材又は複層仕上塗材 ○防水形複層仕上塗材 ○マステック塗材 施工箇所 ○別図に示す範囲 ○	15 部分改修工法 (4.6.6)	1 性能 2 施工数量調査 (1.5.2) 3 改修工法 (5.1.3) 4 防火戸 (5.1.4) 5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6) 6 防犯建物部品 (5.1.7) 7 アルミニウム製建具 (5.2.2) ~ (5.2.5)	15 部分改修工法 (4.6.6)	1 性能 2 施工数量調査 (1.5.2) 3 改修工法 (5.1.3) 4 防火戸 (5.1.4) 5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6) 6 防犯建物部品 (5.1.7) 7 アルミニウム製建具 (5.2.2) ~ (5.2.5)	9 鋼製建具 (5.3.2) ~ (5.3.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1) 簡易気密層の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1) ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) JISただし書き建具の寸法許容差(これ以外は標準による) ※製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板 めっきの付着量(JIS G3302) ※Z12又はF12を満足させる ○ 厚さ(mm) ※表5.3.2(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm 10 鋼製軽量建具 (5.4.2) ~ (5.4.4) 簡易気密層の性能値 ※適用する(A-3) ○適用しない ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) 戸の鋼板 ※表面処理亜鉛メッキ鋼板 ○ビニル被覆鋼板 めっきの付着量(JIS G3302) ※Z12又はF12を満足させる ○ 厚さ(mm) ※表5.4.1(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm 11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1) 簡易気密層の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1) ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) ステンレス鋼板 ※JIS G 4305 ステンレス鋼板(屋外) ※SUS304 ○SUS430JIL ステンレス鋼板(屋内) ※SUS304 ○SUS430JIL ○SUS430 JISただし書き建具の寸法許容差 ※製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※H.L仕上げ ○鏡面仕上げ 曲げ加工 ※普通曲げ ○角出し曲げ 12 建具用金物 (5.6.2) ~ (5.6.4) マスターキーの製作 ※作成する(____グループ、各グループ____個) ○作成しない 開き戸 (表5.6.1)	9 鋼製建具 (5.3.2) ~ (5.3.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1) 簡易気密層の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1) ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) JISただし書き建具の寸法許容差(これ以外は標準による) ※製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板 めっきの付着量(JIS G3302) ※Z12又はF12を満足させる ○ 厚さ(mm) ※表5.3.2(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm 10 鋼製軽量建具 (5.4.2) ~ (5.4.4) 簡易気密層の性能値 ※適用する(A-3) ○適用しない ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) 戸の鋼板 ※表面処理亜鉛メッキ鋼板 ○ビニル被覆鋼板 めっきの付着量(JIS G3302) ※Z12又はF12を満足させる ○ 厚さ(mm) ※表5.4.1(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm 11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1) 簡易気密層の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1) ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) ステンレス鋼板 ※JIS G 4305 ステンレス鋼板(屋外) ※SUS304 ○SUS430JIL ステンレス鋼板(屋内) ※SUS304 ○SUS430JIL ○SUS430 JISただし書き建具の寸法許容差 ※製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※H.L仕上げ ○鏡面仕上げ 曲げ加工 ※普通曲げ ○角出し曲げ 12 建具用金物 (5.6.2) ~ (5.6.4) マスターキーの製作 ※作成する(____グループ、各グループ____個) ○作成しない 開き戸 (表5.6.1)
		5 目地改修工法 (4.1.4) (4.5.16)	目地張り仕上げ ○目地ひび割れ改修工法 ○伸縮目地改修工法 位置 ※改修標準4.5.11による ○図示 寸法(幅×深さ) コンクリート打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※20mm以上×10mm以上 ○ その他 ※10mm以上×10mm以上 ○	12 窓下人研面台の補修 (4.1.4) (4.2.2) (4.6.5) ○シール工法(※仕上塗材は外壁仕上塗材の上塗り材とする。) ※塗膜防水(※弾性ウレタン系 ○エポキシ系) ●薄付け仕上塗材(JIS A6909) 種類(呼び名) 仕上げ 工法 備考 ○外装薄塗材Si ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○可とう型外装薄塗材Si ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ●外装薄塗材E ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ●ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○着色骨材砂壁状 ○こて ○吹付け ○砂壁状 ○ゆず肌状 吹付け ○可とう型外装薄塗材E ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○防水型外装薄塗材E(○増塗材) ○ゆず肌状 ○さざ波状 ローラー ○凹凸状 吹付け ○外装薄塗材S 砂壁状 吹付け ○厚付け仕上塗材(JIS A6909) 種類(呼び名) 仕上げ 工法 備考 ○外装厚塗材C ○吹放し ○凸部処理 吹付け ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 ○ひき起し ○かき落とし ○外装厚塗材Si ○吹放し ○凸部処理 吹付け ○外装厚塗材E ○平たん状 ○凹凸状 こて塗 (○上塗材) ○ひき起し ○ローラー ○複層仕上塗材(JIS A6909) 種類(呼び名) 仕上げ 工法 備考 ○複層塗材CE ○凸部処理 吹付け ○複層塗材Si ○凹凸模様 吹付け ○複層塗材E ●ゆず肌状 ローラー ○複層塗材RE ○ゆず肌状 ローラー ○可とう型複層塗材CE ○凸部処理 ○凹凸模様 吹付け ○ゆず肌状 ローラー ○複層塗材RS ○凸部処理 ○凹凸模様 吹付け ○ゆず肌状 ローラー ○防水形複層塗材CE ○凸部処理 吹付け ●防水形複層塗材E ○凹凸模様(○増塗材) ○吹放し ○ゆず肌状 ローラー ○防水形複層塗材RS ●ゆず肌状 ローラー ○防水形複層塗材RE ○吹放し ○ゆず肌状 ローラー 複層仕上塗材の耐水性 ※3種 ○ 複層仕上塗材の上塗材 溶媒 ※水系 ○弱溶剤系 ○溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ○ 外観 ※つや有 ○つやなし ○メタリック ※行わない ○行う ○可とう形改修用仕上塗材(JIS A6909) 種類(呼び名) 仕上げ 工法 備考 ○可とう形改修塗材E ○平たん状 ローラー ○可とう形改修塗材RE ○さざ波状 ローラー ○可とう形改修塗材CE ○ゆず肌状 吹付け	6 樹脂注入工法 (4.2.2) (4.3.4) 建築補修用注入エポキシ樹脂 ※低粘度形 ○高粘度形 ひび割れの幅 (mm) 0.2~0.3未満 0.3~0.5未満 0.5~1.0以下 注入孔の間隔 (mm) 200程度 300程度 300程度 注入量 (CC/mm) ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○手動式エポキシ樹脂注入工法 ○機械式エポキシ樹脂注入工法 コア抜きによるひび割れ部の注入状況の検査 ※行わない ○行う(抜取り個数 ※改修標準4.3.4(f)(1)による ○ (抜取り部分の補修方法 _____))	8 網戸 (16.2.3) ※公共建築工事標準仕様書(H22年版)による。 防虫網 網の種類 ※合成樹脂材 ○ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ステンレス製(SUS316) 形式 ※外部可動式 ○固定式 線径、網目 ※0.25mm以上、16~18メッシュ ○	5 目地改修工法 (4.1.4) (4.5.16) 目地張り仕上げ ○目地ひび割れ改修工法 ○伸縮目地改修工法 位置 ※改修標準4.5.11による ○図示 寸法(幅×深さ) コンクリート打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※20mm以上×10mm以上 ○ その他 ※10mm以上×10mm以上 ○	6 樹脂注入工法 (4.2.2) (4.3.4) 建築補修用注入エポキシ樹脂 ※低粘度形 ○高粘度形 ひび割れの幅 (mm) 0.2~0.3未満 0.3~0.5未満 0.5~1.0以下 注入孔の間隔 (mm) 200程度 300程度 300程度 注入量 (CC/mm) ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○手動式エポキシ樹脂注入工法 ○機械式エポキシ樹脂注入工法 コア抜きによるひび割れ部の注入状況の検査 ※行わない ○行う(抜取り個数 ※改修標準4.3.4(f)(1)による ○ (抜取り部分の補修方法 _____))	8 網戸 (16.2.3) ※公共建築工事標準仕様書(H22年版)による。 防虫網 網の種類 ※合成樹脂材 ○ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ステンレス製(SUS316) 形式 ※外部可動式 ○固定式 線径、網目 ※0.25mm以上、16~18メッシュ ○	9 鋼製建具 (5.3.2) ~ (5.3.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1) 簡易気密層の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1) ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) JISただし書き建具の寸法許容差(これ以外は標準による) ※製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板 めっきの付着量(JIS G3302) ※Z12又はF12を満足させる ○ 厚さ(mm) ※表5.3.2(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm 10 鋼製軽量建具 (5.4.2) ~ (5.4.4) 簡易気密層の性能値 ※適用する(A-3) ○適用しない ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) 戸の鋼板 ※表面処理亜鉛メッキ鋼板 ○ビニル被覆鋼板 めっきの付着量(JIS G3302) ※Z12又はF12を満足させる ○ 厚さ(mm) ※表5.4.1(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm 11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1) 簡易気密層の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1) ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) ステンレス鋼板 ※JIS G 4305 ステンレス鋼板(屋外) ※SUS304 ○SUS430JIL ステンレス鋼板(屋内) ※SUS304 ○SUS430JIL ○SUS430 JISただし書き建具の寸法許容差 ※製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※H.L仕上げ ○鏡面仕上げ 曲げ加工 ※普通曲げ ○角出し曲げ 12 建具用金物 (5.6.2) ~ (5.6.4) マスターキーの製作 ※作成する(____グループ、各グループ____個) ○作成しない 開き戸 (表5.6.1)	9 鋼製建具 (5.3.2) ~ (5.3.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1) 簡易気密層の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1) ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) JISただし書き建具の寸法許容差(これ以外は標準による) ※製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板 めっきの付着量(JIS G3302) ※Z12又はF12を満足させる ○ 厚さ(mm) ※表5.3.2(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm 10 鋼製軽量建具 (5.4.2) ~ (5.4.4) 簡易気密層の性能値 ※適用する(A-3) ○適用しない ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) 戸の鋼板 ※表面処理亜鉛メッキ鋼板 ○ビニル被覆鋼板 めっきの付着量(JIS G3302) ※Z12又はF12を満足させる ○ 厚さ(mm) ※表5.4.1(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ mm 11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4) 外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1) 簡易気密層の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1) ○防音ドアセット、防音サッシの適用(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3) ○断熱ドアセット、断熱サッシの適用(断熱性の等級 ○H-2 ○H-3) ○耐震ドアセットの適用(面内変形追随性の等級 ○D-1 ○D-2) ステンレス鋼板 ※JIS G 4305 ステンレス鋼板(屋外) ※SUS304 ○SUS430JIL ステンレス鋼板(屋内) ※SUS304 ○SUS430JIL ○SUS430 JISただし書き建具の寸法許容差 ※製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※H.L仕上げ ○鏡面仕上げ 曲げ加工 ※普通曲げ ○角出し曲げ 12 建具用金物 (5.6.2) ~ (5.6.4) マスターキーの製作 ※作成する(____グループ、各グループ____個) ○作成しない 開き戸 (表5.6.1)		
		7	Uカットシール材充填工法 (4.3.5)	シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○行う	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5) シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○行う	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5) シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○行う	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5) シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○行う	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5) シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○行う	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5) シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○行う	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5) シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○行う	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5) シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○行う	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5) シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○行う	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5) シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○行う

6	内装改修工事	11 フローリング張り (6.11.2) ~ (6.11.8)	単層フローリング (表6.11.1) (表6.11.2) 種別 樹種 厚さ(mm) 下張り 工法 備考 ○フローリング ※なら ※15 ※あり ○釘留め工法 ボード ○ ○ ○ なし ○接着工法 ○フローリング ※なら ※15 ○モルタル工法 ○防水処理足金物付 ブロック ○ ○ ○ ○接着工法 ○モザイク ○ ○ ○ ○接着工法 パーケット ○ ○ ○ ○	6	内装改修工事	15 天井廻り縁	材質 ○アルミニウム製 ○塩化ビニル製	7	塗装改修工事	5 塗装工程 (7.4.2) ~ (7.14.2)	工程の種類 (表7.4.1)~(表7.14.1) 記号 名称 種別 SOP 合成樹脂塗料 木部 新規外部 ※A種 ○B種 ○C種 バインド塗り 新規内部 ○A種 ※B種 ○C種 塗替え ○A種 ※B種 (外部の場合工程2、工程4は行わない) ○C種 鉄鋼面 ○A種 ※B種 ○C種 亜鉛めっき面 鋼製建具 ※A種 ○B種 ○C種 塗替え ○A種 ※B種 ○C種 その他塗替え・新規 ○A種 ※B種 ○C種 CL ｸﾘｱｺｰﾀｰ塗り ○A種 ※B種 FE ﾌﾞﾗｼﾞﾙ樹脂ｺｰﾀｰ塗り 木部 表7.6.1 鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面 表7.6.2 NAD ｱｸﾘﾙ樹脂系 ○A種 ※B種 非水分散型塗料塗り DP 耐水性塗料塗り 鉄鋼面 ○A種 ○B種 ○C種 亜鉛めっき鋼面 ○A種 ○B種 ○C種 上塗り塗料等級 ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び ○A-1種 ○B-1種 ○C-1種 ○ () 押出成形ｼｰﾄﾞ板面 ○A-2種 ○B-2種 ○C-2種 EP-G つや有合成樹脂 ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾌﾗｯｼｰ面、 ○A種 ※B種 ○C種 ｲﾝｼﾞﾝﾊﾞｲﾝﾄ塗り ｲﾝｼﾞﾝﾊﾞｲﾝﾄ面、石ｺｰﾀｰ面、しみ止め ○ その他ｶｰﾄﾞ面 ※しみ止めｼｰﾀｰ (B種及びC種の場合) 木部 新規 ※A種 ○B種 ○C種 塗替え ○A種 ※B種 ○C種 鉄鋼面 ○A種 ※B種 ○C種 亜鉛めっき鋼面 ○A種 ※B種 ○C種 EP 合成樹脂 ｲﾝｼﾞﾝﾊﾞｲﾝﾄ塗り ○A種 ※B種 ○C種 しみ止め ○ ※しみ止めｼｰﾀｰ (B種及びC種の場合) EP-G 合成樹脂 ｲﾝｼﾞﾝﾊﾞｲﾝﾄ塗り ○A種 ※B種 ○C種 模様塗料塗り UC ｸﾗｲﾝ樹脂ﾌﾗｯｼｰ塗り ○A種 ※B種 OS ｵｲﾙｽﾀｲﾝ塗り 表7.13.1 WP 木材保護塗料塗り ○A種 ※B種 (表7.15.1) 仕上塗りの種別 ○A種 ※つや有合成樹脂エマルションペイント ○B種 ○ 保証年限 ※7年(鉄面を除く)、3年(鉄面) ○ 年 ※請負業者と塗装施工業者又は事業協同組合の連名による保証書を提出すること。	① コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4)	レディーミクストコンクリートの類別 ※I類 ○II類 設計基準強度 (F _c) ○普通コンクリート 打設部位 F _c (N/mm ²) スランプ (cm) 備考 構造体 基礎 ※21 ○ ※15 ○18 上部 ※21 ○ ○15 ※18 ○軽量コンクリート 打設部位 F _c (N/mm ²) スランプ (cm) 備考 構造体 基礎 ※21 ○ ※15 ○18 上部 ※21 ○ ○15 ※18 ※構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [F _c +構造体強度補正值(S)] N/mm ² (標仕6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない) ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○高炉セメントのB種(施工箇所 _____) ○シリカセメント ○フライアッシュセメントのB種(施工箇所 _____) 骨材 粗骨材 ※砂利(JIS A5308)、砕石(JIS A5005) ○高炉ｽﾗｸﾞ ○電気炉酸化ｽﾗｸﾞ ○再生骨材H 細骨材 ※砂(JIS A5308)、砕砂(JIS A5005) ○高炉ｽﾗｸﾞ ○電気炉酸化ｽﾗｸﾞ ○銅ｽﾗｸﾞ ○ﾌｪﾛｸﾞﾙｽﾗｸﾞ ○再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※A(無害) ○ 混和材料 混和剤 ※AE剤、AE減水剤又は高性能AE剤の1種 (JIS 6204) 混和材 ※フライアッシュ (JIS A6201) 1種又は2種 ③ 型枠(せき板) (8.1.4) (8.2.6) 合板の規格 ※「合板の日本農林規格」の「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板の規格」による合板 合板の材種 ※広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 ○ 厚さ(mm) ※12 ○ 打直し仕上げのせき板 ※合板せき板を用いる場合 (表8.1.3) 種別 板面の品質 施工箇所 ○A種 ※8.2.6(b)(1) ○ ○B種 ※8.2.6(b)(2) ○ ○C種 ※8.2.6(b)(2) ○ ○合板せき板を用いない場合 せき板の種別 ｺﾝｸﾘｰﾄ面の仕上げり程度 ※8.1.4(d)(2)(i)② ○ 外部に面する打直し仕上げの打増し厚さ ※図示 ○20 シアコネクタとセパレーターの兼用 ○可 ○不可 スリーブに用いる材料 ○鋼管 ○硬質ポリ塩化ビニル管 ○溶融亜鉛めっき鋼板 ○つば付き鋼管 ④ 構造体強度補正值 (8.5.5) (表8.5.1) ※気温による構造体強度補正值(S) 予想平均気温(°C) 補正值(T) 期間(打設日) 普通 早強 南部地域 中部地域 北部地域 8以上 5以上 3 3/6~6/31 3/11~7/20 3/11~7/10 0以上 0以上 6 9/11~11/15 9/1~11/5 9/1~10/31 8未満 5未満 6 11/16~3/5 11/6~3/10 11/1~3/10 南部地域(京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域(宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域(上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む) 室内の工事における温度補正 ○行わない(適用箇所 _____) ○行う
		12 畳敷き (6.12.2)	種別 ○A種 ○B種 ○C種 ○D種 (表6.12.1)			16 モルタル塗り (6.15.2) ~ (6.15.6)	既製目地材 ○適用する (形状 _____) 床の目地 ○敷ける (工法 ※改修標仕6.15.6(b)(3)による ○ _____)			17 タイル張り (6.16.2) ~ (6.16.5)	伸縮調整目地等 外壁及び床面 ※図示による ○ 屋内壁面 ※図示による ○ 施工後の確認及び試験 浮きの確認 ※全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※接着力試験機による接着力試験を行う ○行わない	6 マスチック塗料塗り (7.15.2)	② 普通ｺﾝｸﾘｰﾄの材料 (8.2.5)
13 せつこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2) ~ (6.13.3)	種別 ※表6.13.1によるJIS規格品とする (表6.13.1) 種別 規格、厚さ(mm) 等 ○せつこうボード(GB-R) ※12.5(不燃) ○9.5(不燃) ○化粧せつこうボード(GB-D) ○杉根模様 ○12.5(不燃) ○トラバーチン模様 (経路下地は専用のものとする) ○不燃積層せつこうボード(GB-NC) ○トラバーチン模様 ※9.5(不燃) ○模様無し ○シージングせつこうボード(GB-S) ○15(不燃) ○12.5(準不燃) ※9.5(準不燃) ○強化せつこうボード(GB-F) ○21(不燃) ○15(不燃) ○12.5(不燃) ○ロックウール吸音ボード(RW-B) ※25 ○ ○グラスウール吸音ボード(GW-B) ※25 ○ ○吸音あなあきせつこうボード(GB-P) ○9.5(準不燃) ○ロックウール化粧吸音板(DR) 内部用 フラット ○12(不燃) ※9(不燃) 立体模様 ○15(不燃) ※12(不燃) 軒天用 フラット ○12(不燃) ※9(不燃) 立体模様 ○15(不燃) ※12(不燃)	7	塗装改修工事	1 塗装業者	○日本塗装工業会の会員 ○監督職員の承諾する塗装業者	2 塗装材料 (7.1.3)	塗料のホルムアルデヒド等の放散量 JISで定める ※F☆☆☆☆ ○F☆☆☆ ○ 塗料のトルエン、キシレン、エチルベンゼン ※含有量の少ない規格品 (表7.2.1)~(表7.2.7)	① 鉄筋の種類 (8.2.1) (表8.2.1)	異形鉄筋 種類の記号 径(mm) 備考 ※SD295A D16以下 ※SD345 D19以上 ○ ※SD295AはF _c :21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する。	⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)	※かぶり厚さは目地底から算定する。 ※耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。		
14 壁紙張り (6.14.2) ~ (6.14.3)	軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 (表3.7.1) ※アクリル系シーリング ○ジョイントコンパウンド せつこうボードの目地処理 (表6.13.5) ○継目処理 ○突付け ○目透かし 合板類の張付け (表6.13.3) ○A種 ※B種 ﾊﾞｰﾅｸﾙｶｰﾄﾞ、MDF、合板、化粧合板等のホルムアルデヒドの放散量 JASで定める ※F☆☆☆☆ ○F☆☆☆ ○ 防火性能・品質・規格・施工箇所 ※図示による ○下表による 施行箇所 防火性能 品質・規格 壁紙のホルムアルデヒドの放散量 JISで定める ※F☆☆☆☆ ○大臣認定品 ○ 下地調整 モルタル及びプラスター面 ○RA種 ※RB種 (表7.2.4) ｺﾝｸﾘｰﾄ面 ○RA種 ※RB種 (表7.2.5) せつこうボード面 ○RA種 ※RB種 (表7.2.7)			3 下地調整 (7.2.2) ~ (7.2.7)	素地 種別 備考 木部 ○RA種 ※RB種 ○RC種 鉄鋼面 ○RA種 ※RB種 ○RC種 亜鉛めっき面 ○RA種 ※RB種 ○RC種 モルタル及びプラスター面 ○RA種 ※RB種 ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない ｺﾝｸﾘｰﾄ面及びALCパネル面 ○RA種 ※RB種 ○RC種 ○適用する ○適用しない ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｼｰﾄﾞ面 ○RA種 ○RB種 ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない 石ｺｰﾀｰ面及びその他ｶｰﾄﾞ面 ○RA種 ※RB種 ○RC種 錆止め塗料の種類 (表7.3.1)~(表7.3.4) 塗面 種別 規格名称 屋外 屋内 塗料種類 塗装工程種別 備考 鉄 ﾏｲﾂﾞﾞﾞ 鉛さび止め ○ ○ 2種 新規鉄鋼面 A種 鉛・ｶﾙｼﾞｰ-さび止め ○ ○ 1種 見え掛り部分 ※A種 ○B種 ○C種 見隠れ部分 B種 水系さび止め - ○ - ○A種 ※B種 ○C種 EP-G塗 塗替え 鉛・ｶﾙｼﾞｰ-さび止め - ○ 2種 ○A種 ○B種 ※C種 亜鉛 A種 鉛酸ｶﾙｼﾞｰさび止め ※ ※ - ○A種 ○B種 B種 変成ﾏﾙｼﾞﾝ樹脂ﾌﾗｯｼｰ ○ ○ - ○C種(塗替え) C種 水系さび止め - ○ - EP-G塗	2 溶接金網 (8.2.2)	網目の形状、寸法 鉄線の径(mm)	3 鉄筋の継手 (8.3.4) (8.4.2)	部位 接合方法 径(mm) 重ね継手の長さ ○ ※ガス圧接 ○重ね継手 D19以上 ※改修標仕 ○ ○機械式継手 8.3.4(G)による ○ ○ガス圧接 ※重ね継手 D16以下 ○別図表による ○機械式継手 種類 ○ () 工法 ○ () 品質確認方法、修正方法等 ○ () 継手位置 ※構造図による ○ () 鉄筋先組工法の柱・梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合 ※構造図による 定着長さ 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さ ※構造図による ○ () 4 柱の帯筋 (8.3.4) ○H型 ※W-I型 ○W-II型 ○図示 5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5) ※かぶり厚さは目地底から算定する。 ※耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。				
				4 錆止め塗料塗り (7.3.2) (7.3.3)	錆止め塗料の種類 (表7.3.1)~(表7.3.4) 塗面 種別 規格名称 屋外 屋内 塗料種類 塗装工程種別 備考 鉄 ﾏｲﾂﾞﾞﾞ 鉛さび止め ○ ○ 2種 新規鉄鋼面 A種 鉛・ｶﾙｼﾞｰ-さび止め ○ ○ 1種 見え掛り部分 ※A種 ○B種 ○C種 見隠れ部分 B種 水系さび止め - ○ - ○A種 ※B種 ○C種 EP-G塗 塗替え 鉛・ｶﾙｼﾞｰ-さび止め - ○ 2種 ○A種 ○B種 ※C種 亜鉛 A種 鉛酸ｶﾙｼﾞｰさび止め ※ ※ - ○A種 ○B種 B種 変成ﾏﾙｼﾞﾝ樹脂ﾌﾗｯｼｰ ○ ○ - ○C種(塗替え) C種 水系さび止め - ○ - EP-G塗	6 寒中コンクリート (8.7.8)	※暑中における構造体強度補正值(S) (表8.5.1) 地域 日平均気温が25度を超える期間(打設日) 補正值 北部地域 7月11日~8月31日 ※6N/mm ² 中部地域 7月21日~8月31日 ○3N/mm ² 南部地域 7月1日~9月10日 ※予想平均気温が表8.5.1に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第12節(寒中コンクリート)による。						

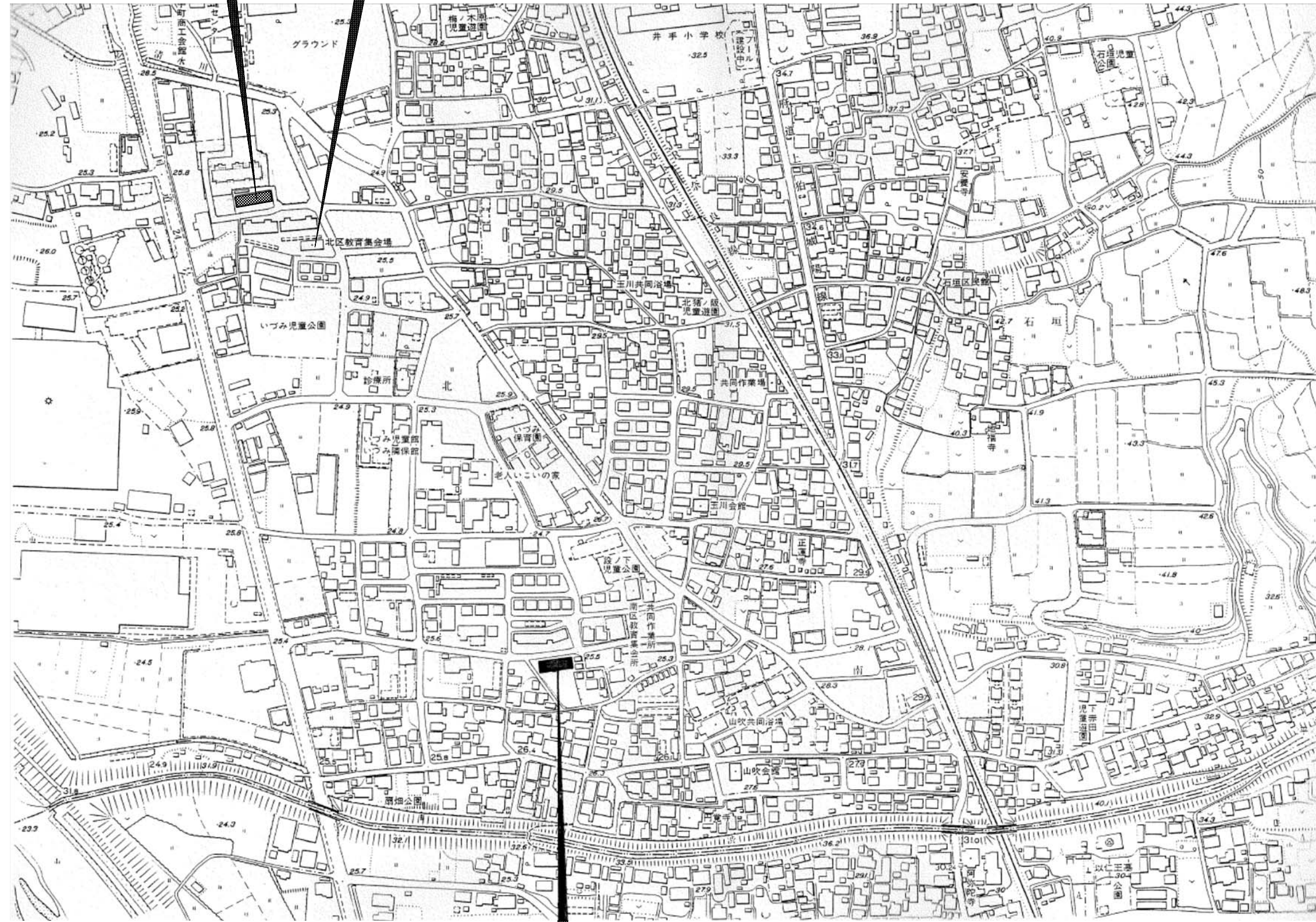
8-2 耐震補強工事(コンクリート工事)	7 コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.6)	※フレッシュコンクリートの試験 ※コンクリートの強度試験 ○材料試験 レディーミクストコンクリート施工の品質管理 ※スランプ試験、圧縮強度試験、空気量測定については、少なくとも一回以上、監督職員立会の上、実施しなければならない。ただし、やむを得ない場合は監督職員の承諾を受けた上で、請負者のみで実施してもよい。	8-4 耐震補強工事(鉄骨工事)	5 溶融亜鉛メッキ高力ボルト (8.2.8)	セットの種類 ○ 1類 (F8T) 摩擦面の処理 ○ プラスト処理 (表面粗度 5.0 μm Rz以上) ○ リン酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※ すべり耐力試験 試験方法等 ○ 図示による ○	8-14 耐震補強工事(鉄骨工事)	14 錆止め塗料 (7.3.2) (8.16.3)	塗料の種類 ○ 鉄鋼面の錆止め塗料 屋外 ○ 改修標仕7.3.2 表7.3.1 ※ A種 ○ () 屋内 ○ 改修標仕7.3.2 表7.3.1 ※ A種 ○ B種 ○ () ○ 垂鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ○ 改修標仕7.3.2 表7.3.1 ※ A種 ○ B種 ○ C種 ○ () 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ○ 改修標仕7.3.2 表7.3.1 ※ A種 ○ B種 ○ () 耐火被覆材の接着する面への塗装 ○ 行わない ○ 行う	8-7 耐震補強工事(鉄骨ブレース設置工事)	1 補強工法	○ 内側補強工法 ○ 枠付き鉄骨K型ブレース ○ 枠付き鉄骨X型ブレース ○ 枠付き鉄骨箱柱付ブレース ○ 枠付き鉄骨マンサード型ブレース ○ 枠付き有開口鉄板パネル ○ 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 () ○ 外側補強工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース直付け工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース架橋増設工法 製造所及び専門業者 ()
	8 高い強度のコンクリート (8.9.3) (8.9.8)	混和材料 混和剤 ※ AE減水剤標準形若しくは遅延型又は高性能AE減水剤標準形若しくは遅延型(JIS A 6204) ○ 型枠の存置期間 ○		6 鉄骨の工作図 (8.1.6)	原寸図 ○ 作成する ○ 作成しない 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)		1 グラウト材 (8.2.10)	グラウト材 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ 無収縮モルタルの調合 ※ 製造所で調合されたプレミックスタイプ ○ 現場調合形 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 (N/mm ²) ※ 30以上 ○ ※ 一般部コンクリートと同等以上の強度 (鉄筋コンクリート壁増設工事の壁頭部) コンパクションJ140値(秒) ※ 6~10 ○ 乾燥収縮 (10 ⁻⁴) ※ 0 ○ ※ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 ※ 行う ○ 行わない コンシステンシー試験 ※ 行う ○ 行わない 無収縮モルタル材 ○ 使用する ○ 使用しない		2 既存部分の撤去 (8.20.2)	既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示 ※ 本特記仕様書8-6-2による。
8-3 耐震補強工事(あと施工アンカー工事)	9 軽量コンクリート (8.10.1)	常時土あるいは水に直接接する部分の使用 ○可 ○不可 種別 ○ 1種 ○ 2種 施工箇所 所要気乾単位容積質量 (kg/m ³)	9 溶接接合 (8.14.7) (8.14.11)	8 溶接作業における技能資格者 (8.14.3)	溶接作業者の技量付加試験 ※ 行わない ○ 行う 試験の要領 ○ 図示による ○	8-5 耐震補強工事(グラウト)	2 柱底等の均しモルタル (8.2.10)	無収縮モルタル材 ○ 使用する ○ 使用しない	8-8 耐震補強工事(柱補強工事)	1 補強工法	○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 ()
	1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.11.2)	○ 金属系アンカー 引張り耐力 () せん断耐力 () 径 () 埋込み深さ () セット方式 ※ 本体打込み式 接合筋 種類 () 長さ () 径 () ○ 接着系アンカー 引張り耐力 () せん断耐力 () 種類 ※ カプセル型 ○ アンカー筋 ※ 改修標仕表8.2.1の異形棒鋼 径 () 埋込み深さ () 新設壁内への定着長さ () 埋め込み配管等の調査 範囲 ※ あと施工アンカー施工部分全て ○ 図示 方法 ※ 鉄筋探知機(金属探知機)により調査し、鉄筋、配管類の位置に 墨出しを行う。 ○ 図示		10 溶接部の試験 (8.14.11)	○ 浸透探傷試験 (JIS Z 2343-1) ○ 磁粉探傷試験 (JIS Z 2320-1) ※ 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 4.0% ○ 2.5% 検査水準 ※ 第6水準 ○ 第 水準 現場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 4.0% ○ 2.5%		1 補強工法 (8.19.3)	目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2~5(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となる よう全体にわたって付ける。 ○ 図示 壁(増打ち壁増設の場合) ※ 平均深さ2~5(max:5mm)程度の凹面を全体の10~15%の面積となる よう全体にわたって付ける。 ○ 図示			
8-4 耐震補強工事(鉄骨工事)	2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.11.5)	性能確認試験 ※ 行わない ○ 行う 施工確認試験 ※ 行う (引張試験機による引張試験 確認強度 ()) ○ 行わない	11 耐火被覆 (8.17.2) ~ (8.17.8)	10 溶接部の試験 (8.14.11)	○ 浸透探傷試験 (JIS Z 2343-1) ○ 磁粉探傷試験 (JIS Z 2320-1) ※ 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 4.0% ○ 2.5% 検査水準 ※ 第6水準 ○ 第 水準 現場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 4.0% ○ 2.5%	8-6 耐震補強工事(現場打ちRC壁の増設工事)	4 鉄筋の加工及び組立て (8.19.6)	割製補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ※ 17号筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示 開口付増設壁の開口端部鉄筋及び増設で壁の端部横筋 ※ ダブル配筋=閉鎖型配筋、シングル配筋=フック(3d)付き ○ 図示	3 既存部分の処理 (8.21.3)	目荒し程度 (連続繊維補強工法以外) ※ 平均深さ2~5(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となる よう全体にわたって付ける。 ○ 図示 柱の成型 (連続繊維補強工法) ※ 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面 に成型する。(※30()) ○ 図示	
	1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)	○ 監督職員の承諾する工場 ※ 建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として 認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構 (旧(社)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める 「(O S O H O M O R O J)」グレードとして、国土交通大臣から 認定を受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場		12 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3)	適用 ○ 構造用アンカー 材質 ○ SNR400B ○ () アンカーフレームの形状及び寸法 ※ 図示による () ○ () ○ 建方用アンカー 材質 ○ SS400 ○ () アンカーボルトの保持及び埋め込み方法 種別 ○ A種 ○ B種 ○ C種 柱底均しモルタルの厚さ ○ 5.0mm ○ 3.0mm		4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 (8.21.5)	柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ ○ mm 打込みの工法 ○ 流込み工法 ○ 圧入工法			
2 施工管理技術者 (8.1.5)	※ 適用する ○ 適用しない	11 耐火被覆 (8.17.2) ~ (8.17.8)	種別 種 別 材 料 ・ 工 法 適用箇所 (部 位 ・ 部 分) ○ 耐火材吹付け ○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○ ○ 耐火材張り ○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○ ○ 耐火材巻付け ○ 高断熱ロックウール ○ ○ 双張り砂り塗り -	5 コンクリートの打込み工法 (8.19.8)	※ 流込み工法 ○ 圧入工法	5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.21.6)	鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合の隅部剥離防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板歯加工				
3 鋼材の種類 (8.2.7)	種類の記号 使用箇所 規格等 SS400 JIS G 3101 SN400A JIS G 3106 SM400A JIS G 3136	12 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3)	性能 種 別 適用箇所 (部 位 ・ 部 分) ○ 30分耐火 ○ 1時間耐火 ○ 2時間耐火 ○ 3時間耐火	6 既存構造体との取合い (8.19.9)	※ 8.19.9の方法による他、以下に注意する ※ 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋を フレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 ※ 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋を フレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚く配筋の場合) ※ 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示		グラウト材 グラウト材の仕様 ※ 本特記仕様書8-5-1による ○ グラウト材の厚さ ○ 20mm ○ mm				
4 高力ボルト (8.2.8) (8.13.2) (8.13.7)	ボルトの種類 ※ トルシア形高力ボルト(建築基準法の認定品) セットの種類 ○ 2種 (S10T) ○ JIS形高力ボルト(JIS B 1186) セットの種類 ○ 2種 (S10T) ボルト径 ○ すべり係数試験 ※ 行わない ○ 行う 試験方法等 ○ 図示による 本締め JIS型高力ボルトのナット回転法 ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量 ○	9 柱底均しモルタル (7.2.9)	モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ○ ()	7 仕上げ (8.19.10)	※ 図示 ○						

8-8	耐震補強工事(柱補強工事)	6 連続繊維補強工法 (8.2.11)	工法 ※(財)建築防災協会の評価を受けた工法 ○ 材料 ※炭素繊維 ○アラミド繊維 ○ガラス繊維 性能 _____ 製造所 _____ 製品名 _____ 柱隅角部の面取りの大きさ 炭素繊維シート ※20mm以上 ○ アラミド繊維シート ※10mm以上 ○ 仕上げモルタルの除去 ※構造体まで除去する ○モルタル除去は行わない ひび割れ部改修 ○行う (○樹脂注入工法 ○Uカット材充填工法) ○ノリ工法 ○ 炭素繊維の目付量 ※図示 ○ 炭素繊維シートの巻数 ※図示 ○ 引張り試験 ※行う 判定基準 () ○行わない 付着試験 ※行う 判定基準 () ○行わない	8-10	耐震補強工事(免震改修)	4 仕上げ (8.23.13) ※図示 ○	5 耐火被覆 (8.23.14) 仕様 _____	6 エキスパンジョイント (8.23.15) 仕様 _____ 工法 _____	7 検査 (8.23.16) 項目 _____ 数量 _____	8 維持管理要領 (8.23.17) 維持管理要領に記載する項目 ※維持管理の目的 ※点検種別(○定期点検 ○応急点検 ○詳細点検) ※点検の実施時期 ※点検項目 ※統括管理体制 ※点検・検査結果の保管 ○ 維持管理要領に必要な計測機器の設置 ○地震計 (仕様 _____) ○下げ振り (仕様 _____) ○けがき板 (仕様 _____) ○別置き試験体 (仕様 _____) ○ _____ (仕様 _____)	9	ユニット及びその他の工事	1 家具、ユニット等の揮発性有機化合物対策 収納家具その他ユニットに使用する材料で、合板、化粧合板、MDF等のホルムアルデヒド等の放散量 JASで定める ※F☆☆☆☆ ○F☆☆☆ ○ 収納家具その他ユニットに使用する合板等の接着材ホルムアルデヒド等の放散量 JISで定める ※F☆☆☆☆ ○F☆☆☆ ○ 接着剤に含まれる可塑剤 ※70%以上含有を有しない、難燃性のもの ○	9	ユニット及びその他の工事	11 ブラインド (20.2.12) ※建設技術評価制度「耐震型ブラインド」の開発の技術評価を取得した製品とする。 ○パネル構造 施工箇所 設定高さ(mm) 地震時水平力 床仕上げ ○1.0 G ※タイルカーペット ○0.6 G ○帯電防止ビニル床タイル ○清掃法 施工箇所 設定高さ(mm) 地震時水平力 床仕上げ ○1.0 G ※タイルカーペット ○0.6 G ○帯電防止ビニル床タイル ※表面仕上げ材の品質、規模等は、標仕18章内装工事による。 スロープ及びボーダー ※製造所の標準仕様 ○図示 コンセント等の取付け ※製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設備工事) 配線用取出し用開口 ※対応品又は工場加工品 (施工箇所は図示) 空調用吹出しパネル ○あり (※固定式 ○可変式 施工箇所は図示)	12 ロールスクリーン (20.2.13) 操作方法 ○スプリング式 ○チェーン式 幅及び高さ スクリーンの材質 ○布製 ○ガラス繊維製 ○木製 品質・規格 _____	13 カーテン (20.2.14)	14 カーテンレール (20.2.14) 材質 ※アルミニウム製 ○ステンレス製 ○ 形式 ○片引き ○引分け (暗幕用は300mm以上の召合せの重ね掛けとする。) 形状 ○C型 ○D型 ○角型	15 ブラインドボックスカーテンボックス (20.2.14) ○図示 ○市販品(アルミニウム製 押出し型材) 仕様等 清幅×深さ(mm) ※90×150 ○150×80 ○120×80 ○ 表面処理 ○C-1(無着色) ○C-2(着色)	16 くつふきマット 材質 ○塩化ビニル製(コイル状 ステンレス製(SUS304)受枠) ○硬質アルミニウム合金(受枠とも) ○ステンレス製(SUS304)(受枠とも) ○ゴム製(ステンレス製(SUS304)受枠)	17 鋼製書架及び棚 品質・規格 _____	18 収納家具(木製) 品質・規格 _____	19 掲示板	20 カウンター 品質・規格 _____	21 洗面カウンター 材質 ○メラミン樹脂化粧板張り(芯材:集成材) ○人工大理石(品質 図示) 奥行き(mm) ○約450 ○約600 ○	22 流し台ユニット	23 非常用救助袋等 ※垂直降下式緩下機は消防法に基づく国家検定に合格したものとす。 形式 ○傾斜式 ○垂直式 品質・規格 _____	24 鍵箱 市販品 形式 ※釣下式 ○差込式 (○30 ○60 ○120 ○) 組用 () 個	25 車止め	26 フェンス
		7 仕上げ (8.21.8) ※図示 ○	1 耐震スリット新設工事 (8.22.2)			8-11	耐震補強工事(制振改修)	1 既存部分の撤去 (8.24.2) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。	2 既存部分の処理 (8.24.3) 既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去 範囲 ※図示 ○ 方法 ※図示 ○ 既存鉄骨の処置方法 _____	3 減衰材 (8.24.4) 減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 設置位置の寸法許容差 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 ※「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スパイラル筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○図示 既存部分が鉄骨造の場合 割製補強筋 ※以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に 縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチ の1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○図示			3 可動間仕切 (20.2.3) 種類 _____ パネル内に取付ける建具 構造形式 構成基材 表面仕上 遮音性 寸法・形状 ○パネル式 ※メラミン樹脂又は ○スタッド式 アクリル樹脂鏡付 ○スライド式 ○			4 移動間仕切 (20.2.4) パネル操作方法による種類 パネル表面材・仕上 パネル圧接装置の操作方法 遮音性能 あと施工アンカー 材質 () 寸法 () 引抜耐力試験 ※行う	5 トイレブース (20.2.5) 表面材 ※メラミン樹脂系化粧板 ○ポリエステル樹脂系化粧板 (※標準色、アルミ製コーナーエッジ付き) () 脚部 ※幅木型 ○足金物付 ヒンジ ※グレビティヒンジ	6 階段滑り止め (20.2.6) 材質 ※ステンレス製(SUS304) 幅 ※約35mm 形状 ※ビニルタイヤ入り 両端フラット ※あり(※ビニル ○SUS304) 取付工法 ※接着工法 ○埋込み工法	7 階段手すり ○ステンレス製(SUS304) 径 mm ※HL程度 ○鏡面程度 ○集成材クアラッカー仕上げ 径 mm ○ビニル製ハンドレール ※丸型 径 mm ○平型 幅 mm	8 黒板及びホワイトボード (20.2.8) 種類 _____ 寸法(mm) _____ 色彩 _____ 備考 _____ ○黒板 ※焼付け ○ ※緑 ○曲面 ○スクリーン付引分け ○約450mm ※ほうろう ○ ※白 ○曲面 ○スクリーン付引分け 額縁金属 ※アルミ製(表面処理の種別 ※B-2 ○B-1) 品質・規格 _____	9 鏡 (20.2.9) 厚さ(mm) ※5 ○	10 表示・標識 (20.2.10) 衝突防止表示 ※図示(市販品 ※ステンレス製 径30mm ○) ○なし 法令に基づく表示 ※非常用出入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。 室名札 厚さ(mm) 材質 色 書体 印刷等の種類 取付け形式 ※5 ※アクリル板 ※角太ゴシック ※シルク印刷 ○平付型 ○アルミ板 ○丸 ○ ○持出型 外国語表現 ○行う(○英語 ○) 寸法(mm) ○50×250 ○60×250 ○図示 ピクトグラフ(便所、車いす、階段等) 厚さ(mm) 材質 印刷等の種類 取付け形式 備考 ※5 ※アクリル板 ※シルク印刷 ※平付型 ○アルミ板 ○ ○持出型 寸法(mm) ○150×150 ○図示	11 プラインド (20.2.12) ※建設技術評価制度「耐震型ブラインド」の開発の技術評価を取得した製品とする。 ○パネル構造 施工箇所 設定高さ(mm) 地震時水平力 床仕上げ ○1.0 G ※タイルカーペット ○0.6 G ○帯電防止ビニル床タイル ○清掃法 施工箇所 設定高さ(mm) 地震時水平力 床仕上げ ○1.0 G ※タイルカーペット ○0.6 G ○帯電防止ビニル床タイル ※表面仕上げ材の品質、規模等は、標仕18章内装工事による。 スロープ及びボーダー ※製造所の標準仕様 ○図示 コンセント等の取付け ※製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設備工事) 配線用取出し用開口 ※対応品又は工場加工品 (施工箇所は図示) 空調用吹出しパネル ○あり (※固定式 ○可変式 施工箇所は図示)	12 ロールスクリーン (20.2.13) 操作方法 ○スプリング式 ○チェーン式 幅及び高さ スクリーンの材質 ○布製 ○ガラス繊維製 ○木製 品質・規格 _____	13 カーテン (20.2.14)	14 カーテンレール (20.2.14) 材質 ※アルミニウム製 ○ステンレス製 ○ 形式 ○片引き ○引分け (暗幕用は300mm以上の召合せの重ね掛けとする。) 形状 ○C型 ○D型 ○角型	15 ブラインドボックスカーテンボックス (20.2.14) ○図示 ○市販品(アルミニウム製 押出し型材) 仕様等 清幅×深さ(mm) ※90×150 ○150×80 ○120×80 ○ 表面処理 ○C-1(無着色) ○C-2(着色)	16 くつふきマット 材質 ○塩化ビニル製(コイル状 ステンレス製(SUS304)受枠) ○硬質アルミニウム合金(受枠とも) ○ステンレス製(SUS304)(受枠とも) ○ゴム製(ステンレス製(SUS304)受枠)	17 鋼製書架及び棚 品質・規格 _____	18 収納家具(木製) 品質・規格 _____	19 掲示板

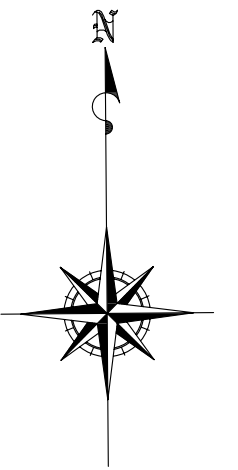
章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
10 排水工事	<p>① 排水管 (21.2.1) (21.2.3)</p> <p>② 側溝、排水樹及びふた (21.2.2)</p> <p>③ コンクリート側溝 (22.9.2)</p>	11 舗装工事	<p>6 透水性舗装 (22.7.3) ~ (22.7.6)</p> <p>7 排水性舗装 (22.8.3) ~ (22.8.6)</p> <p>⑧ ブロック系舗装 (22.9.3)</p> <p>⑨ 縁石 (22.10.2)</p> <p>10 砂利敷き (22.11.1)</p> <p>⑪ 白線引き</p>	12 環境配慮改修工事	<p>3 アスベスト粉じん濃度測定 (9.1.1)</p> <p>4 アスベスト含有吹付け材の除去 (9.1.3)</p> <p>5 アスベスト含有保温材の除去 (9.1.4)</p> <p>6 アスベスト含有成形板の除去 (9.1.5)</p>	12 環境配慮改修工事	<p>7 外断熱改修工事 (9.3.2) ~ (9.3.4)</p> <p>8 断熱・防露改修工事 (9.5.2) ~ (9.5.3)</p> <p>9 屋上緑化 (9.6.2) ~ (9.6.4)</p>
11 舗装工事	<p>① 路床 (22.2.3) (22.2.5)</p> <p>② 路盤 (22.3.3) (22.3.5)</p> <p>③ アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)</p> <p>④ コンクリート舗装 (22.5.2) ~ (22.5.6)</p> <p>5 カラー塗装 (22.6.3) ~ (22.6.6)</p>	12 環境配慮改修工事	<p>1 一般事項 (9.1.1)</p> <p>2 施工調査等 (9.1.1)</p>				

北団地2号棟

仮設駐車場



南団地2号棟



企業組合
一級建築士事務所 **ひと・まち** 設計

一級建築士登録第187741号 石上圭介
一級建築士事務所登録(22A) 第00282号

特記

工事名称 4同人第3号
井手町営住宅北団地2号棟、南団地2号棟耐震補強工事
図面名称 付近見取図

DATE H24. 10.
SCALE --

Check
Charge Dr

D. C.
E. M.
No. D-09 / 26

北団地2号棟

外部仕上表							屋 外
項 目	腰	壁 (柱、梁型を含む)	軒 天	屋 根	バルコニー (1~3階)	そ の 他	
現 況 ・ 撤 去	モルタル金コテ押え 一部 撤去	モルタル金コテ押え (複層仕上塗材) 一部 撤去	モルタル金コテ押え (薄付仕上塗材) 一部 撤去	塔屋 目隠し壁一部撤去	縦樋: VP100φ 一部撤去 フロアドレイン: 鋳鉄製一部撤去		インターロッキングブロック一部撤去 コンクリート縁石一部撤去 雨水排水樹・排水管一部撤去
改 修	外フレーム設置 (耐震補強) 素地のまま	外フレーム設置 (耐震補強) 防水系複層塗材E	スラブ設置 (耐震補強) 外装薄塗材E	塔屋 目隠し壁切断部 アルミ笠木設置	縦樋: VP100φ 新設 ベランダスラブ穿孔の上 鋳鉄製中継ドレイン設置100φ ベランダ排水勾配改修	TVアンテナ移設 耐震補強スラブにフロアドレイン65φ設置 呼び樋VP65φ設置	インターロッキングブロック舗装 コンクリート縁石設置 雨水排水樹・管新設 汚水・雑排水管盛り替え改修 電気設備配線・配管盛り替え改修 仮設駐車場の整備 (位置は付近見取り図による)

南団地2号棟

外部仕上表							屋 外
項 目	腰	壁 (柱、梁型を含む)	軒 天	屋 根	バルコニー (2階)	そ の 他	
現 況 ・ 撤 去	モルタル金コテ押え	モルタル金コテ押え (複層仕上塗材)	モルタル金コテ押え (薄付仕上塗材)	塔屋 目隠し壁一部撤去	モルタル金コテ押え (複層仕上塗材) 一部 撤去 モルタル金コテ押え (薄付仕上塗材) 一部 撤去		
改 修				塔屋 目隠し壁切断部 アルミ笠木設置	袖壁補強設置 (耐震補強)	TVアンテナ移設	



企業組合
一級建築士事務所 **心とま** 設計

一級建築士登録第187741号 石上圭介
一級建築士事務所登録(22A) 第00282号

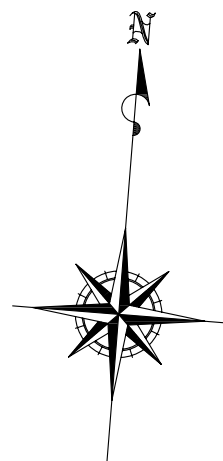
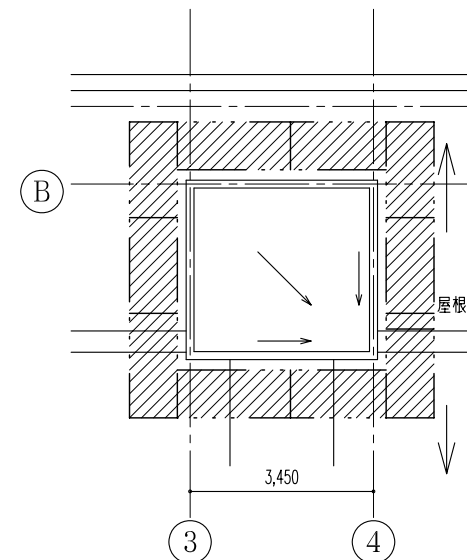
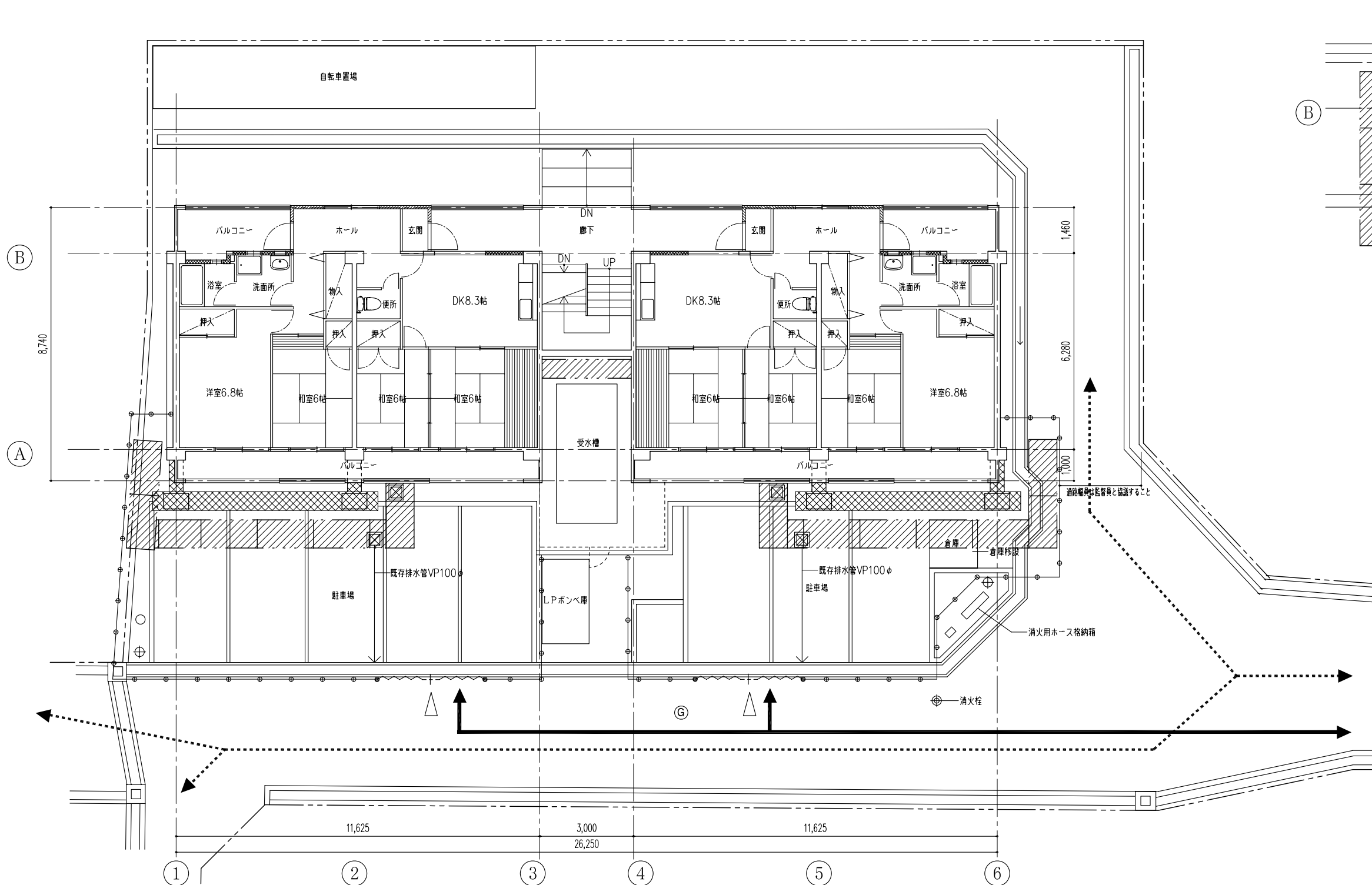
特 記

工事名称 4 同人第3号
井手町宮住宅北団地2号棟、南団地2号棟耐震補強工事
図面名称 改修仕上表

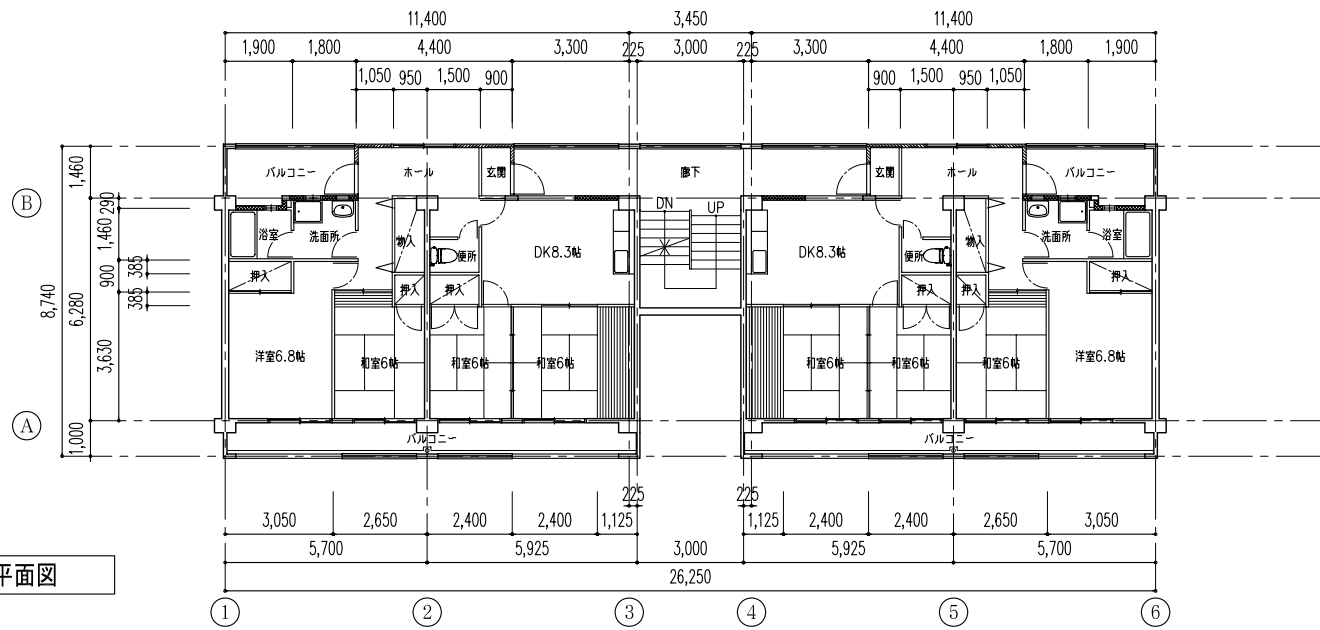
DATE H24. 10.
SCALL --

Check
Charge Dr

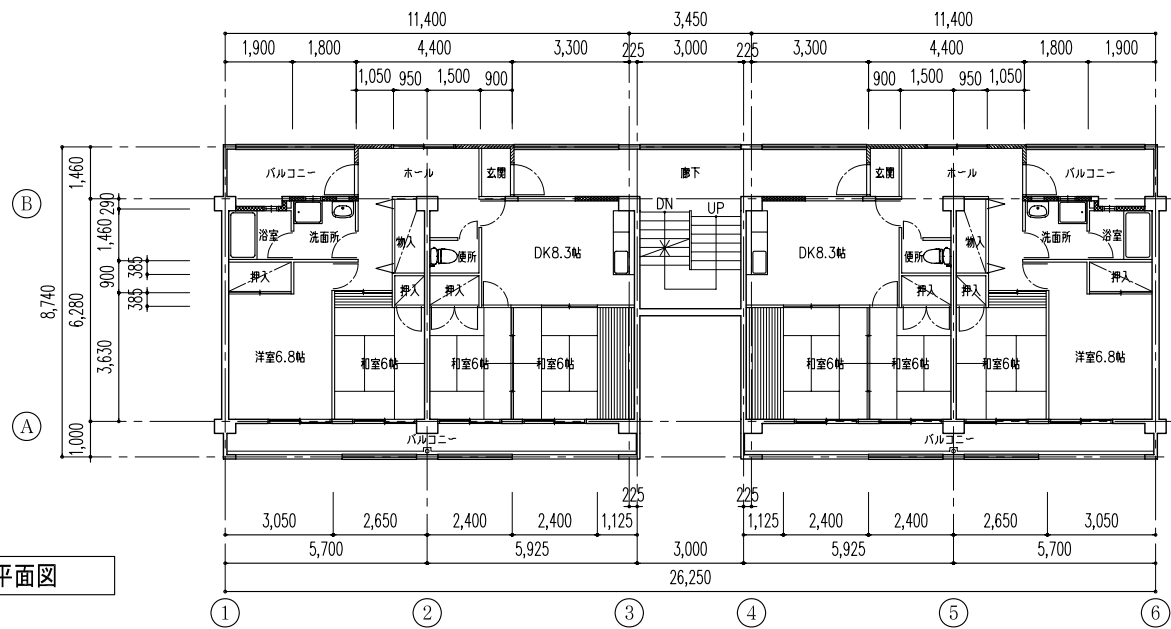
D. C. / E. M. / No. D-10 / 26



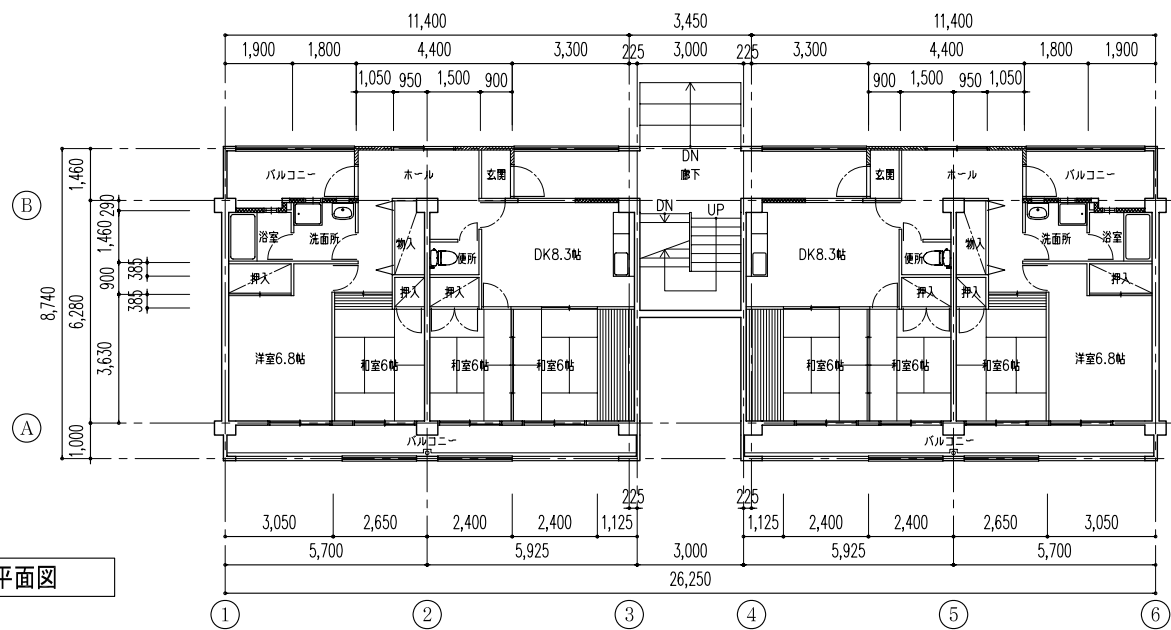
凡 例	
	鋼製足場 (W900 養生シート張り) を示す
	フェンスバリアード (H1800, 目隠しシート) 設置を示す。
	キャスターゲート (W3M×H1.8M基礎支柱なし) を示す
	工事関係者進入口を示す。
	工事搬出入車両通路を示す。
	交通整備員の配置を示す。
	居住者等通路を示す。
注記 仮設位置は監督職員との打合せにより決定すること。	



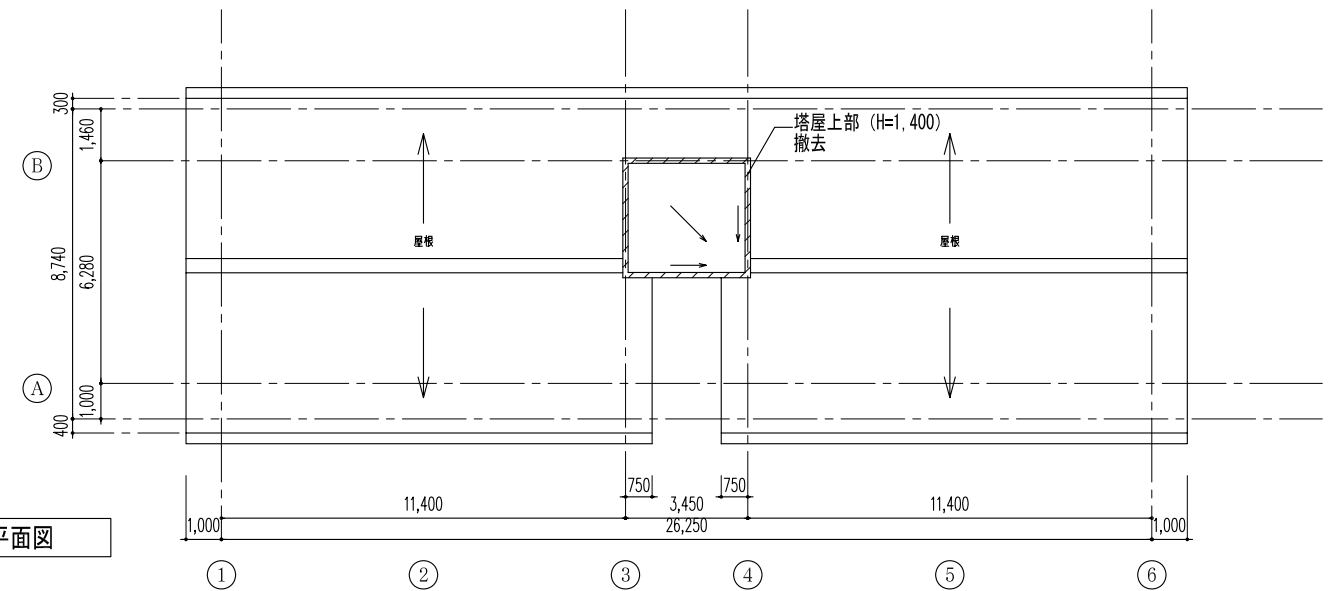
3階現況平面図



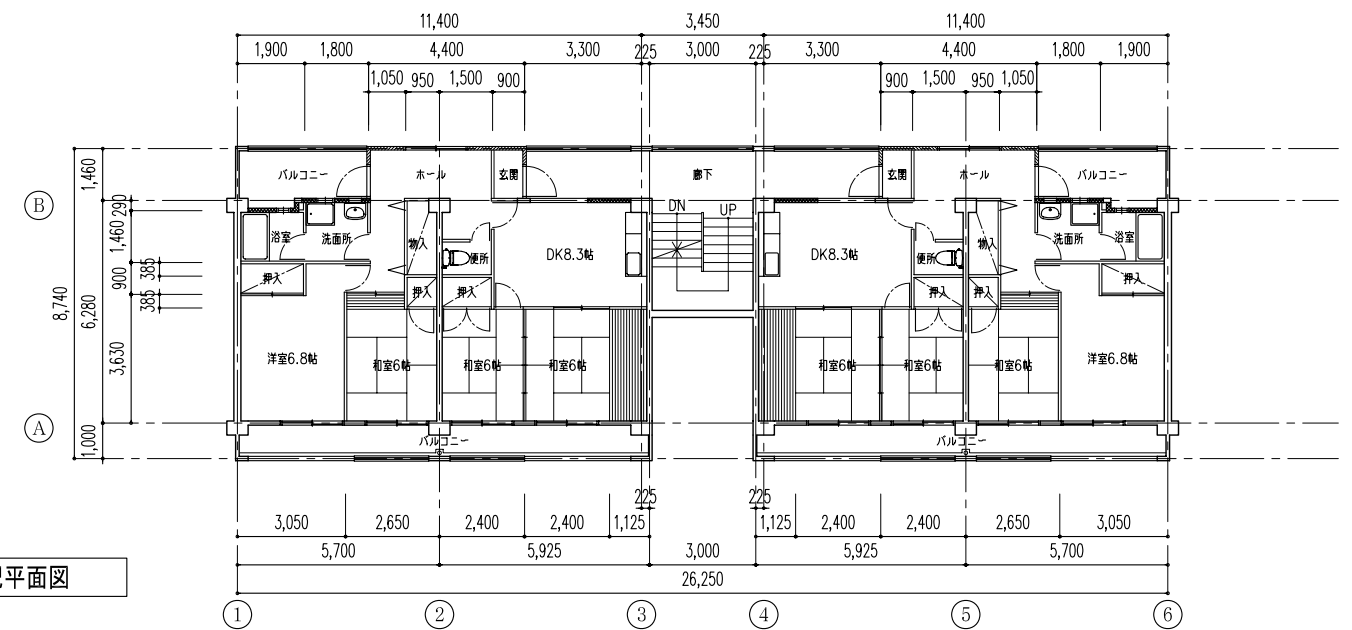
2階現況平面図



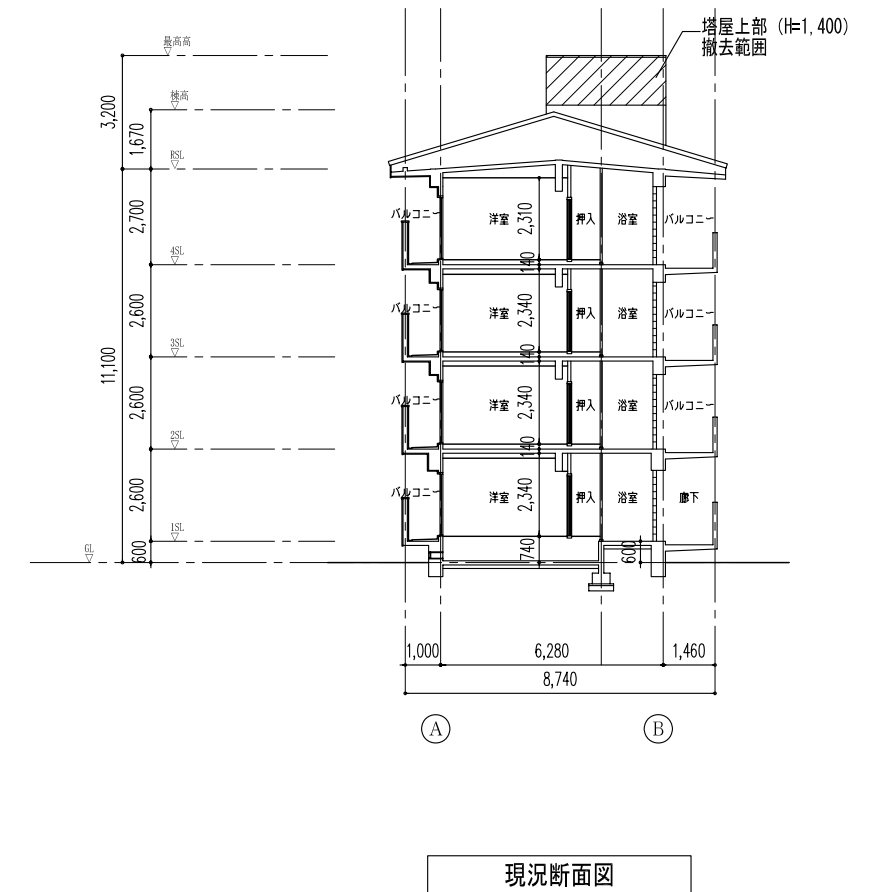
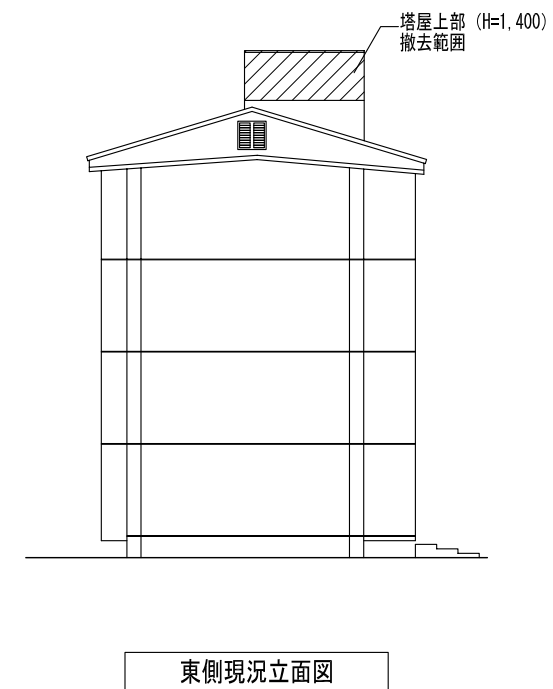
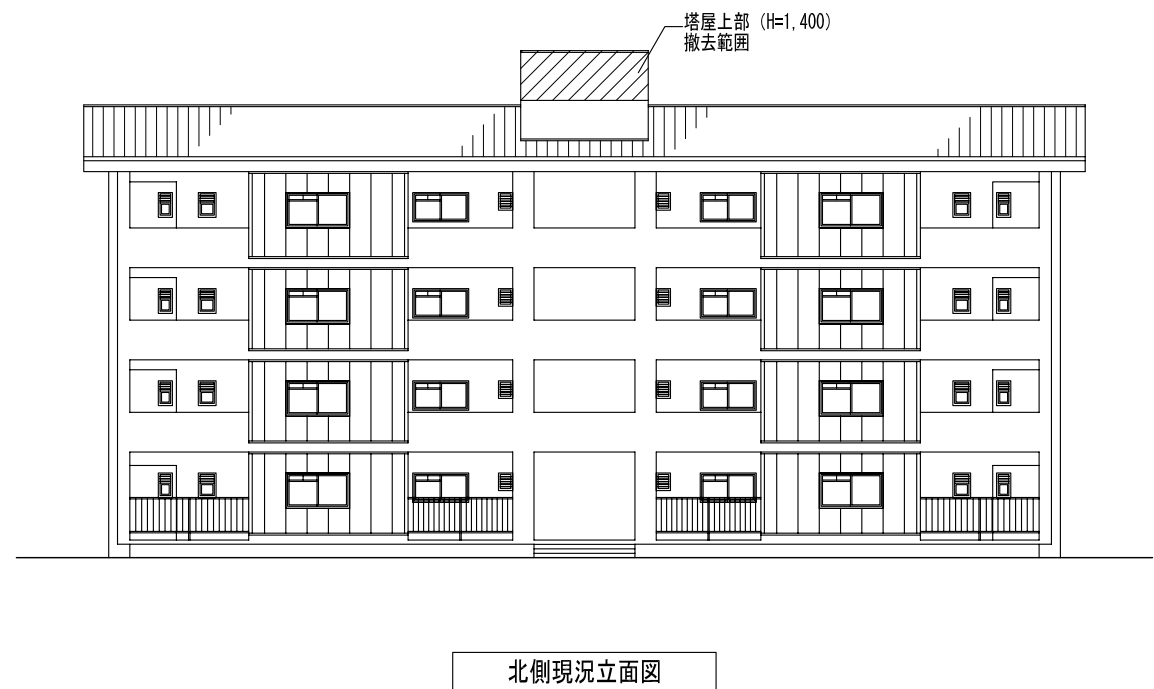
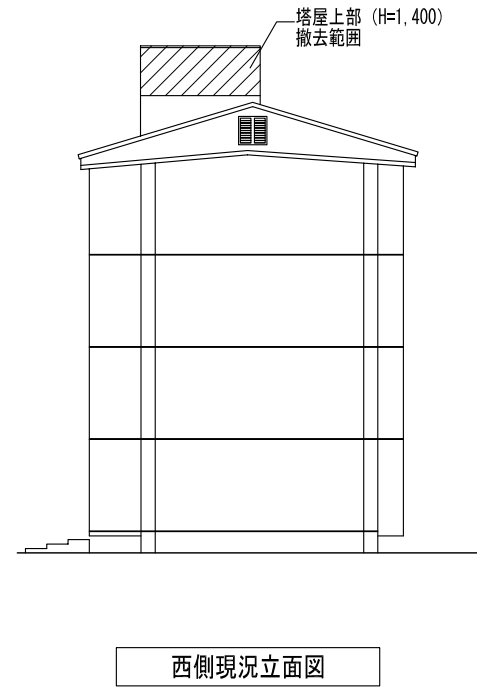
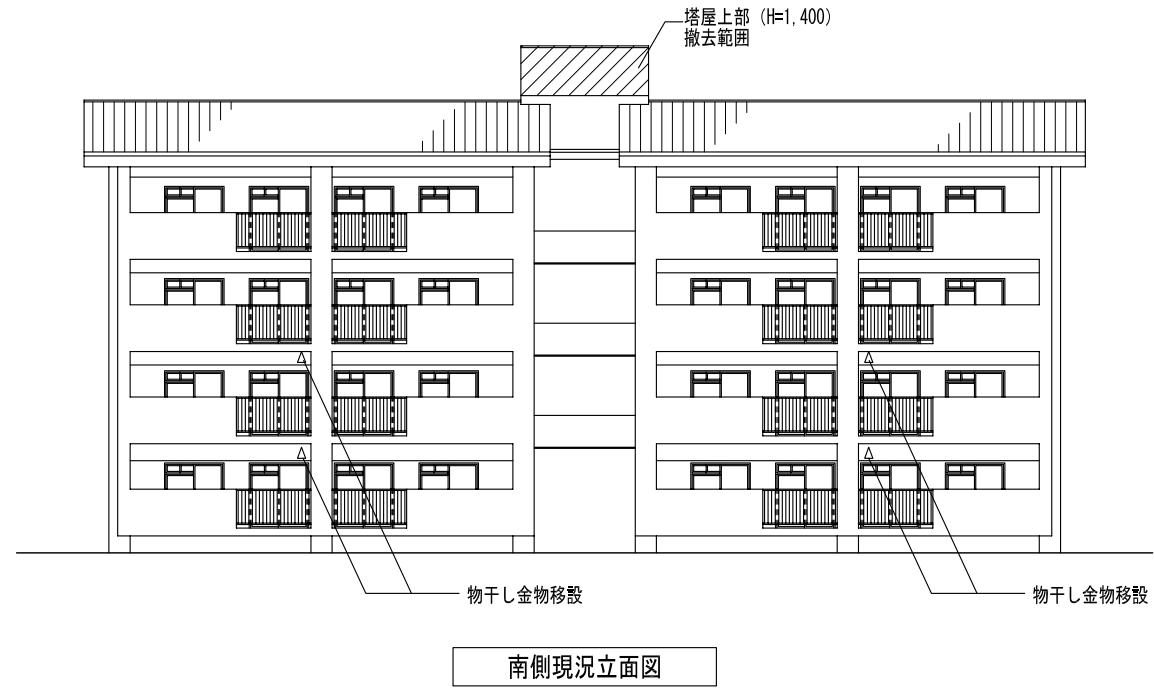
1階現況平面図



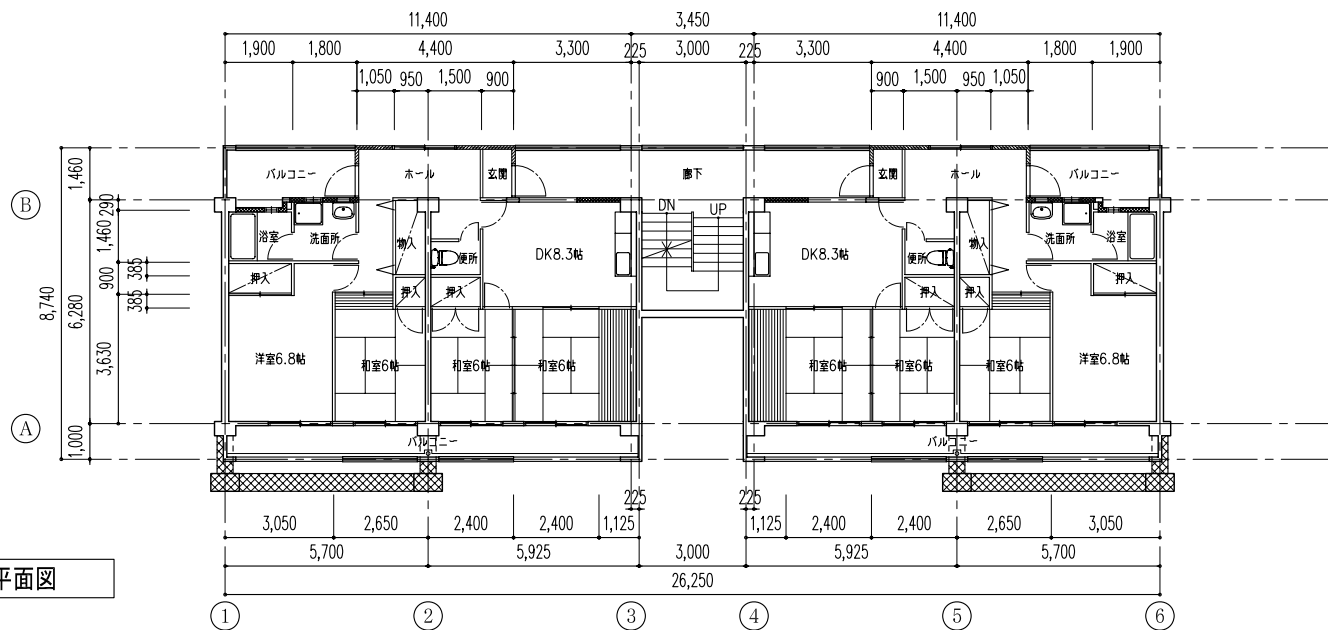
R階現況平面図



4階現況平面図

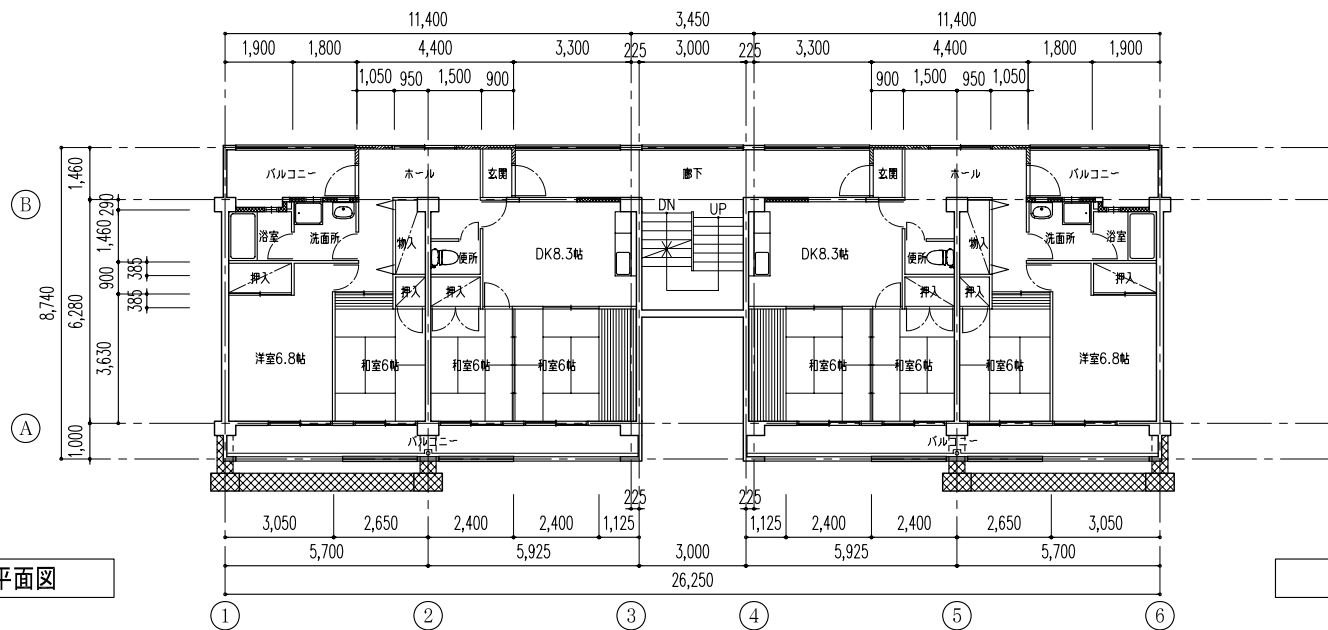


3階改修平面図

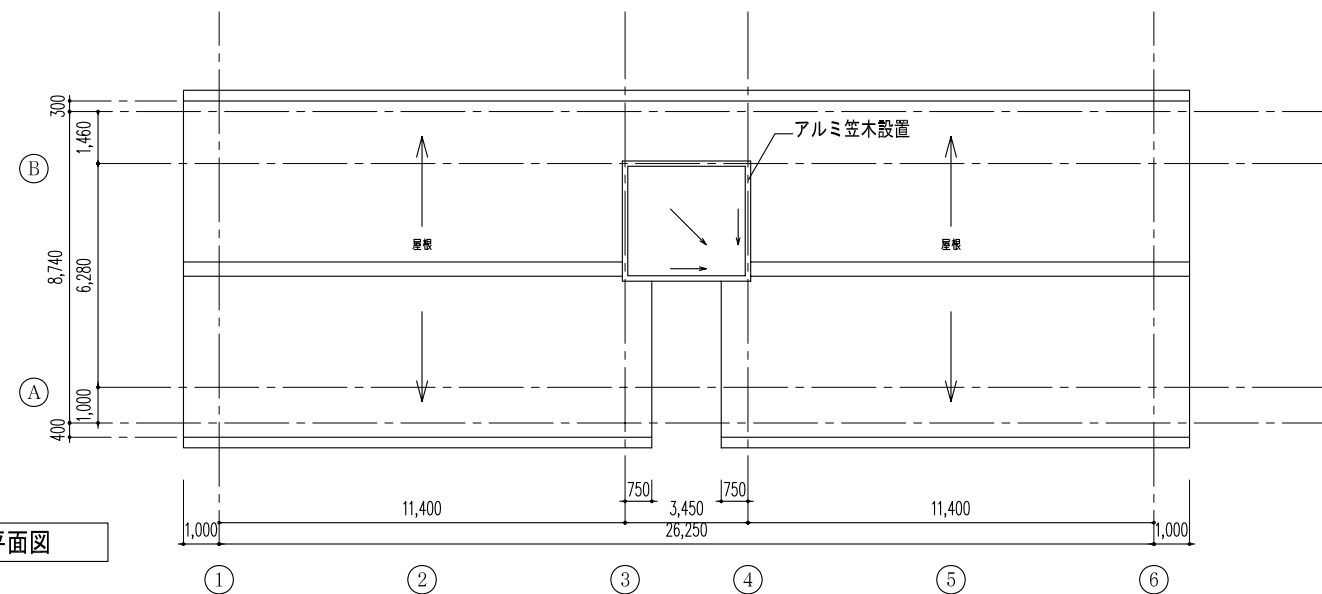


凡例・注記
 耐震フレーム設置を示す

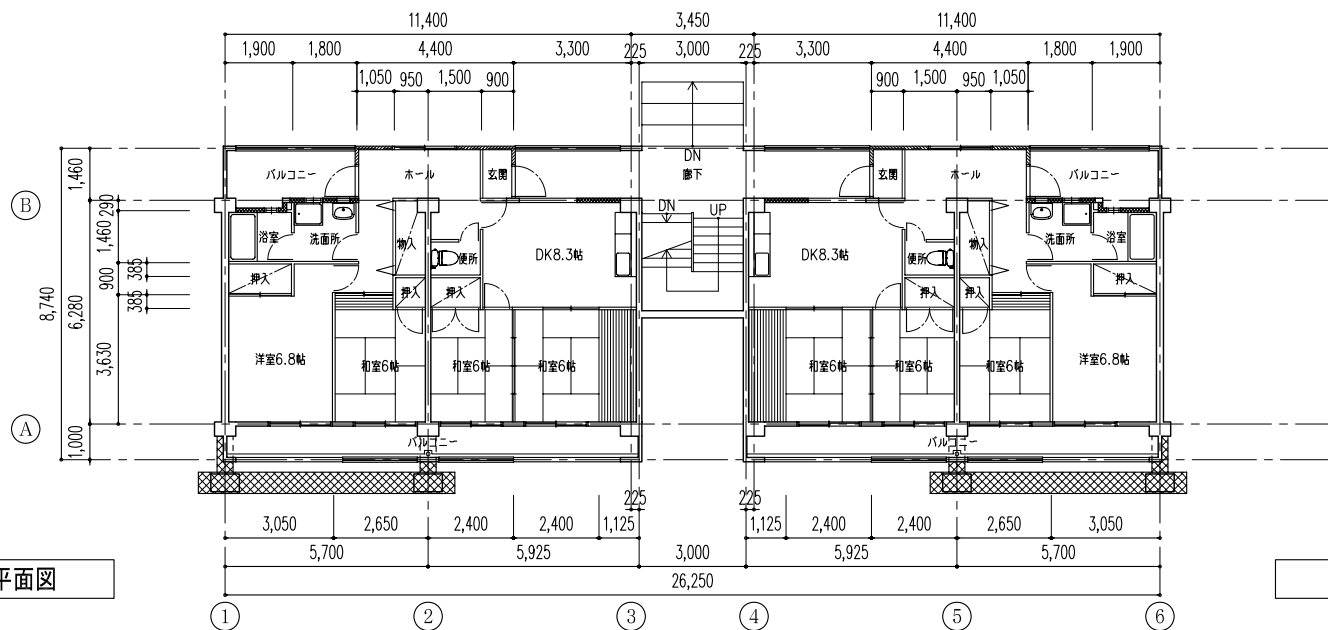
2階改修平面図



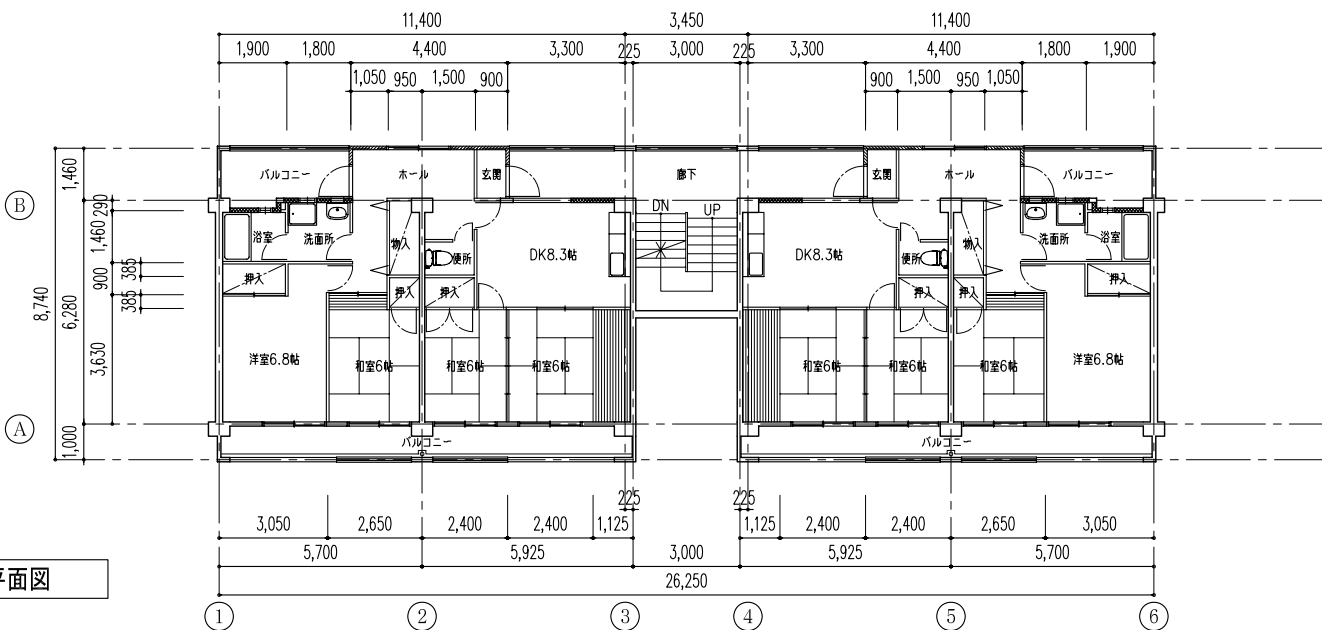
R階改修平面図

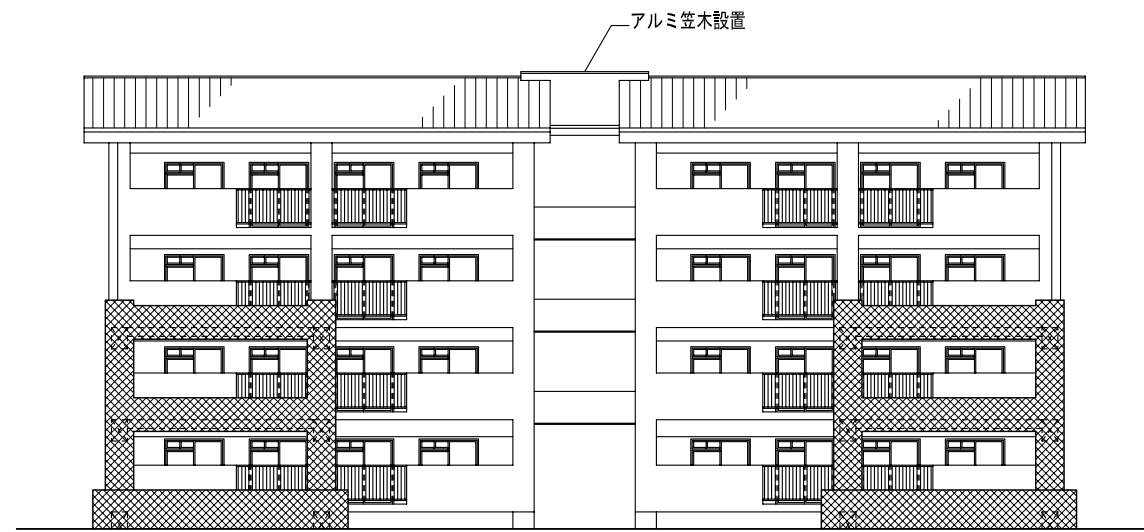


1階改修平面図

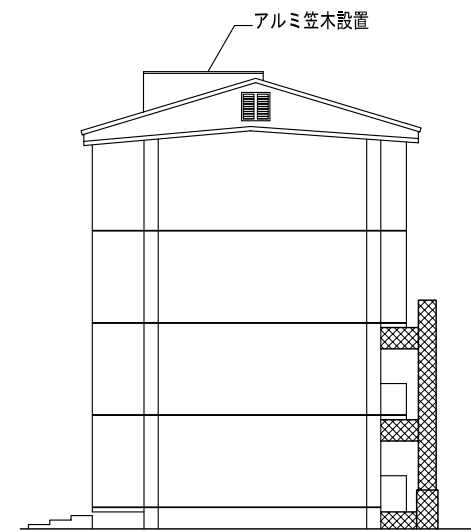


4階改修平面図





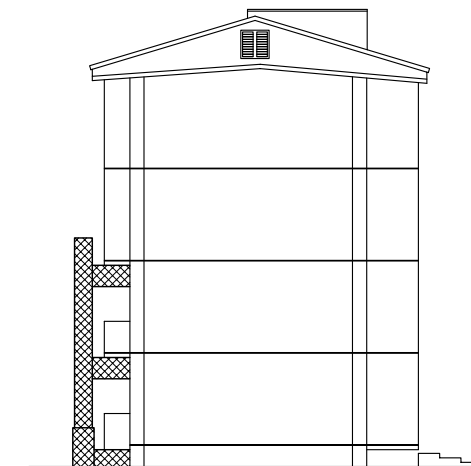
南側改修立面図



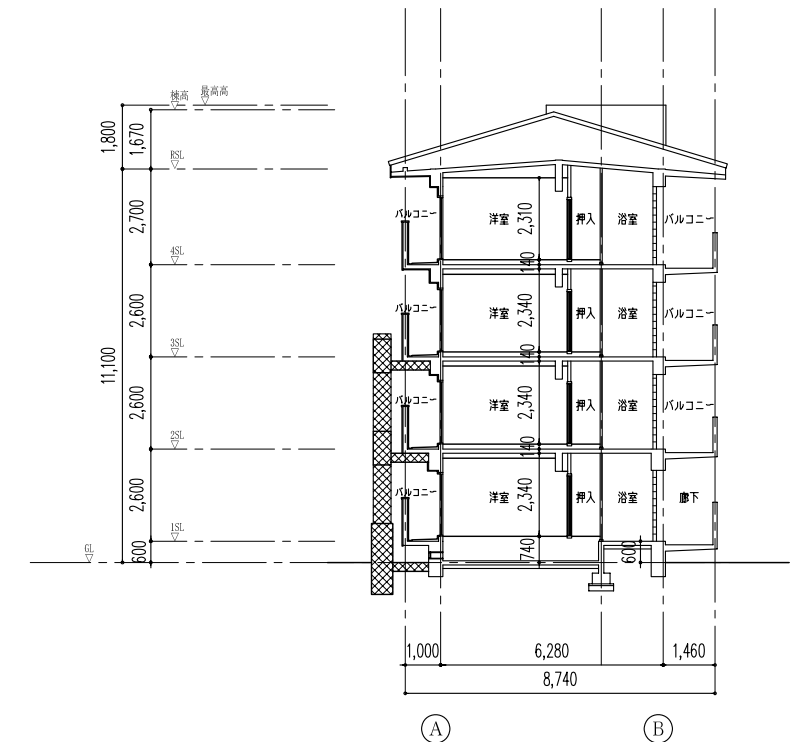
西側改修立面図



北側改修立面図



東側改修立面図



改修断面図

凡例・注記
 耐震フレーム設置を示す



企業組合
 一級建築士事務所 **心と村** 設計

一級建築士登録第187741号 石上圭介
 一級建築士事務所登録(22A) 第00282号

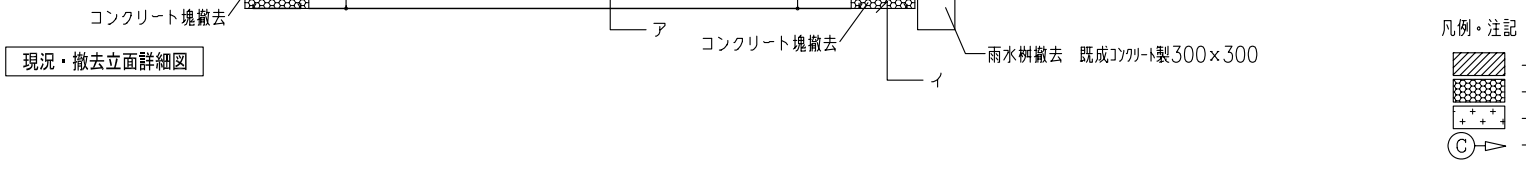
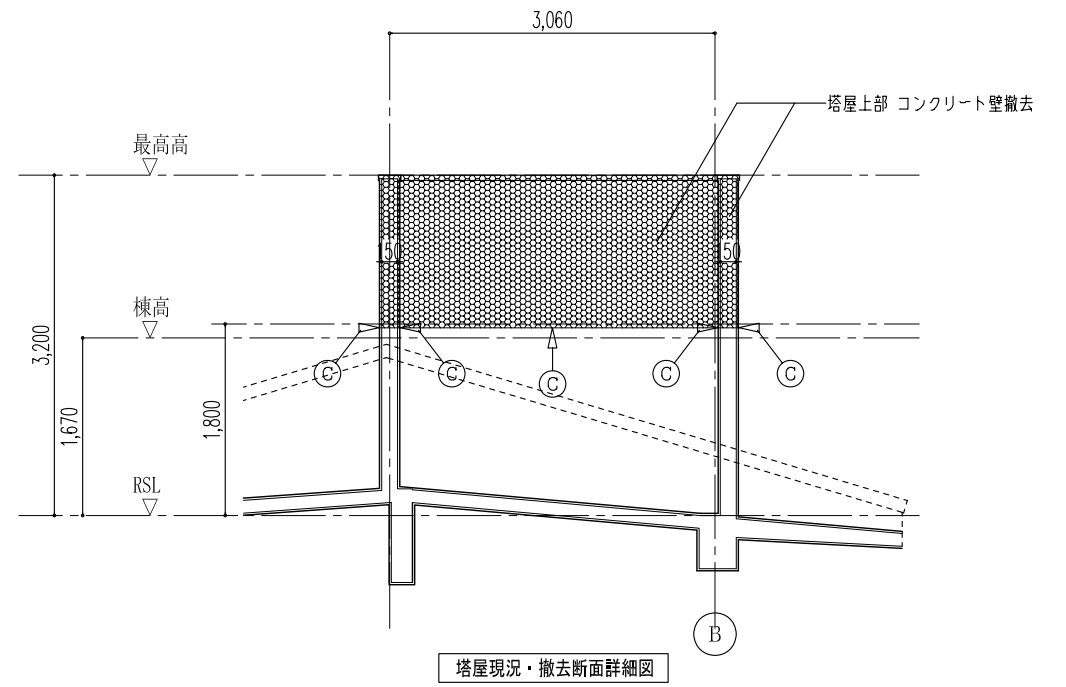
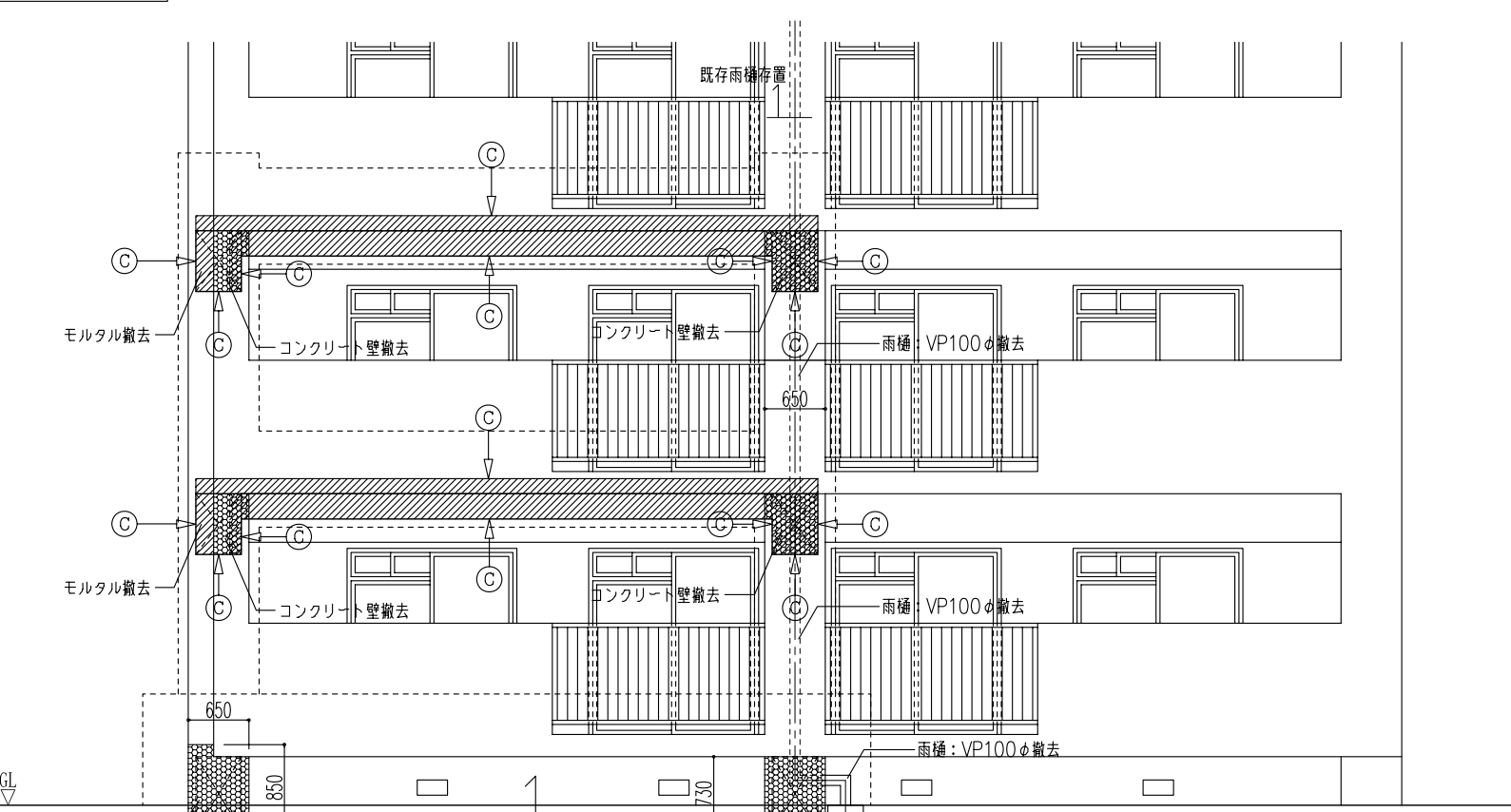
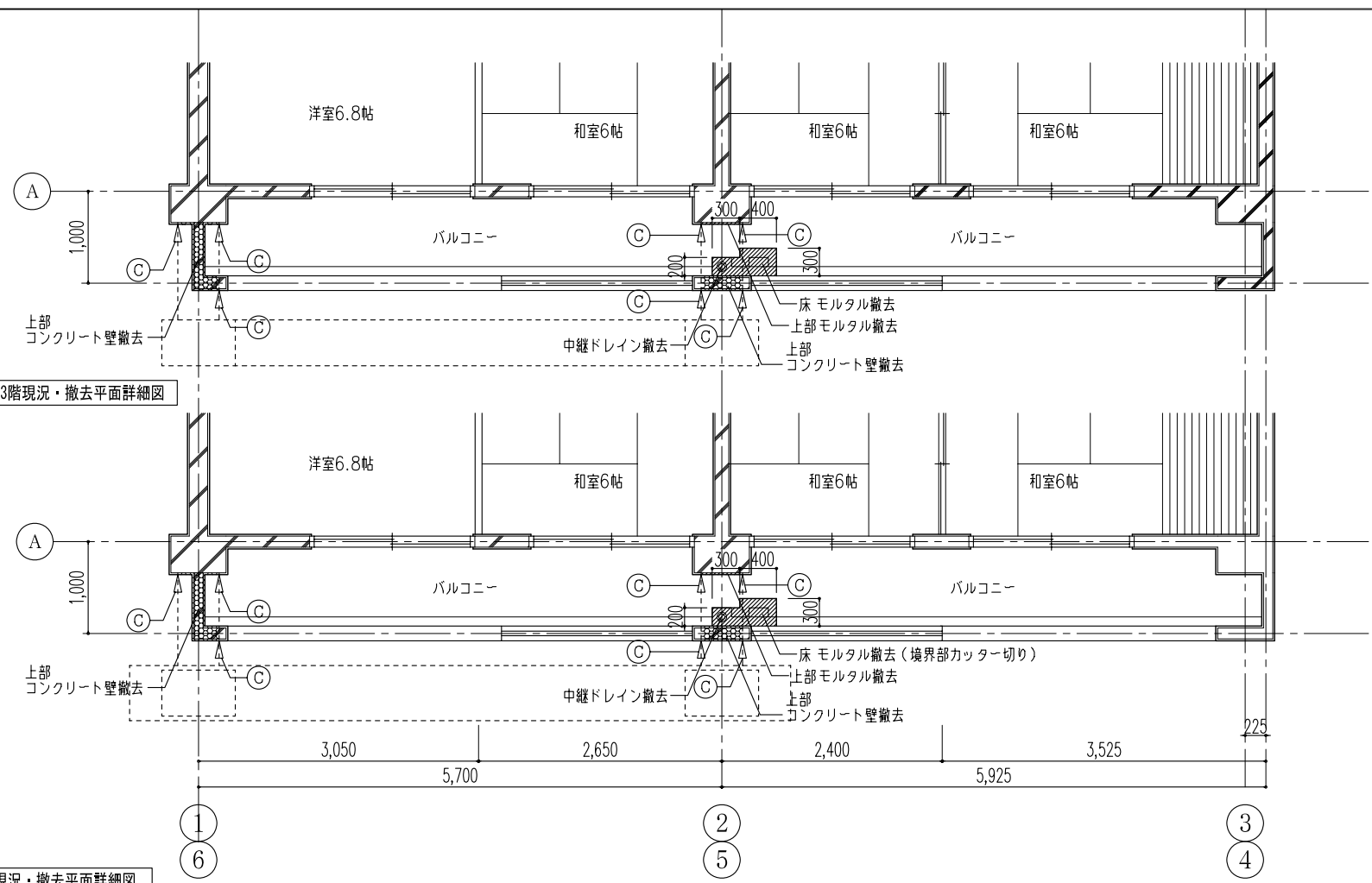
特記

工事名称 4 同人第 3 号
 井手町営住宅北団地 2 号棟、南団地 2 号棟耐震補強工事
 図面名称 北団地 2 号棟 改修立面図・断面図

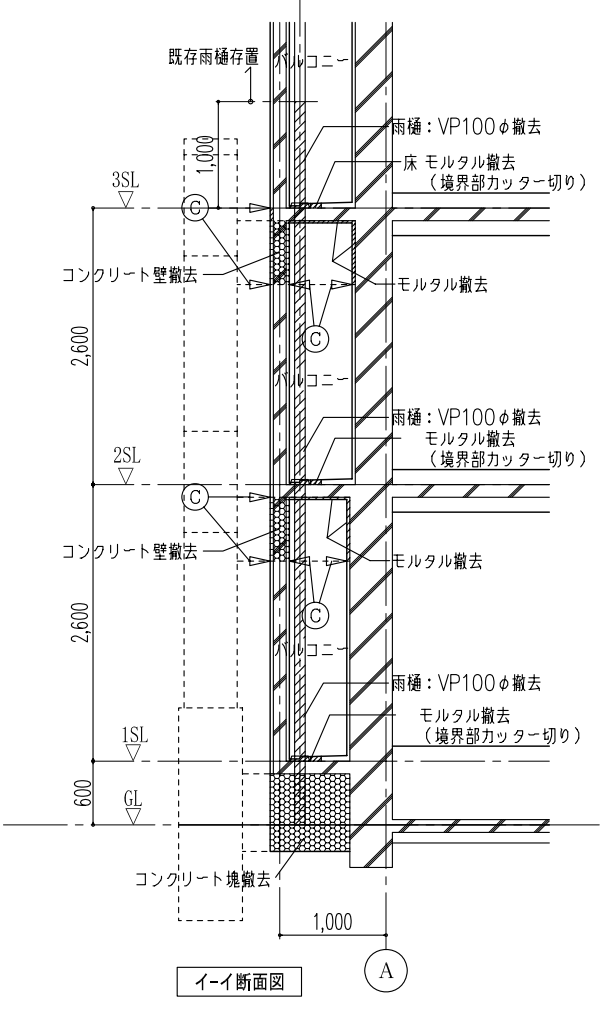
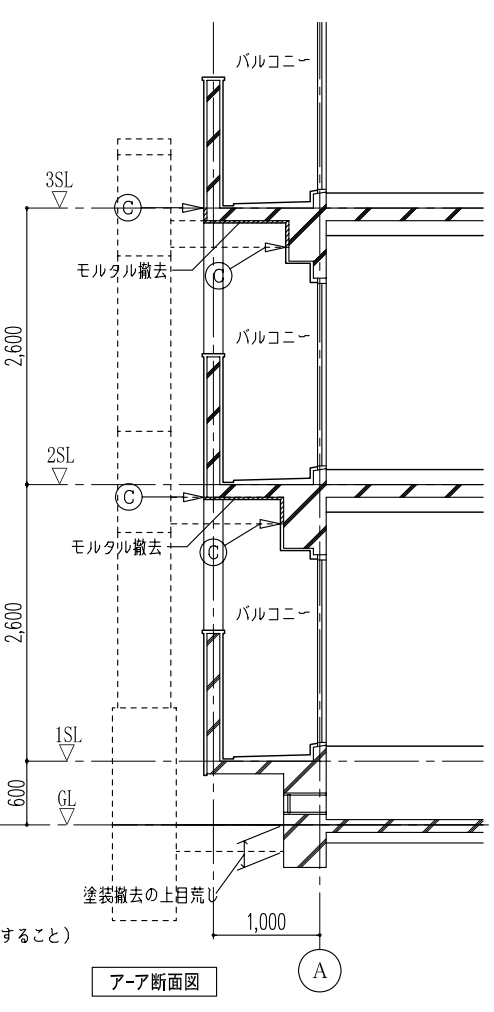
DATE H24. 10.
 SCALE 1/150

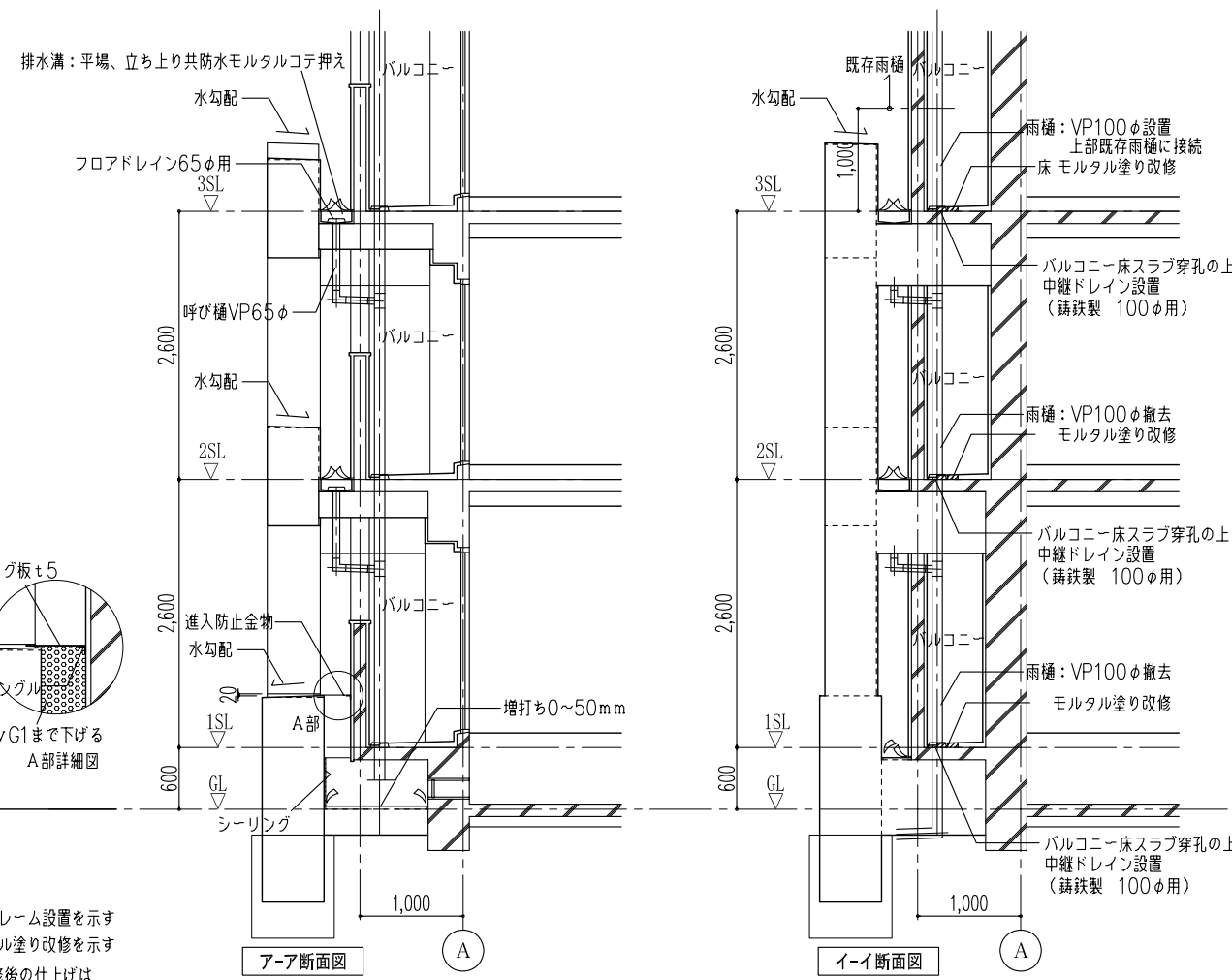
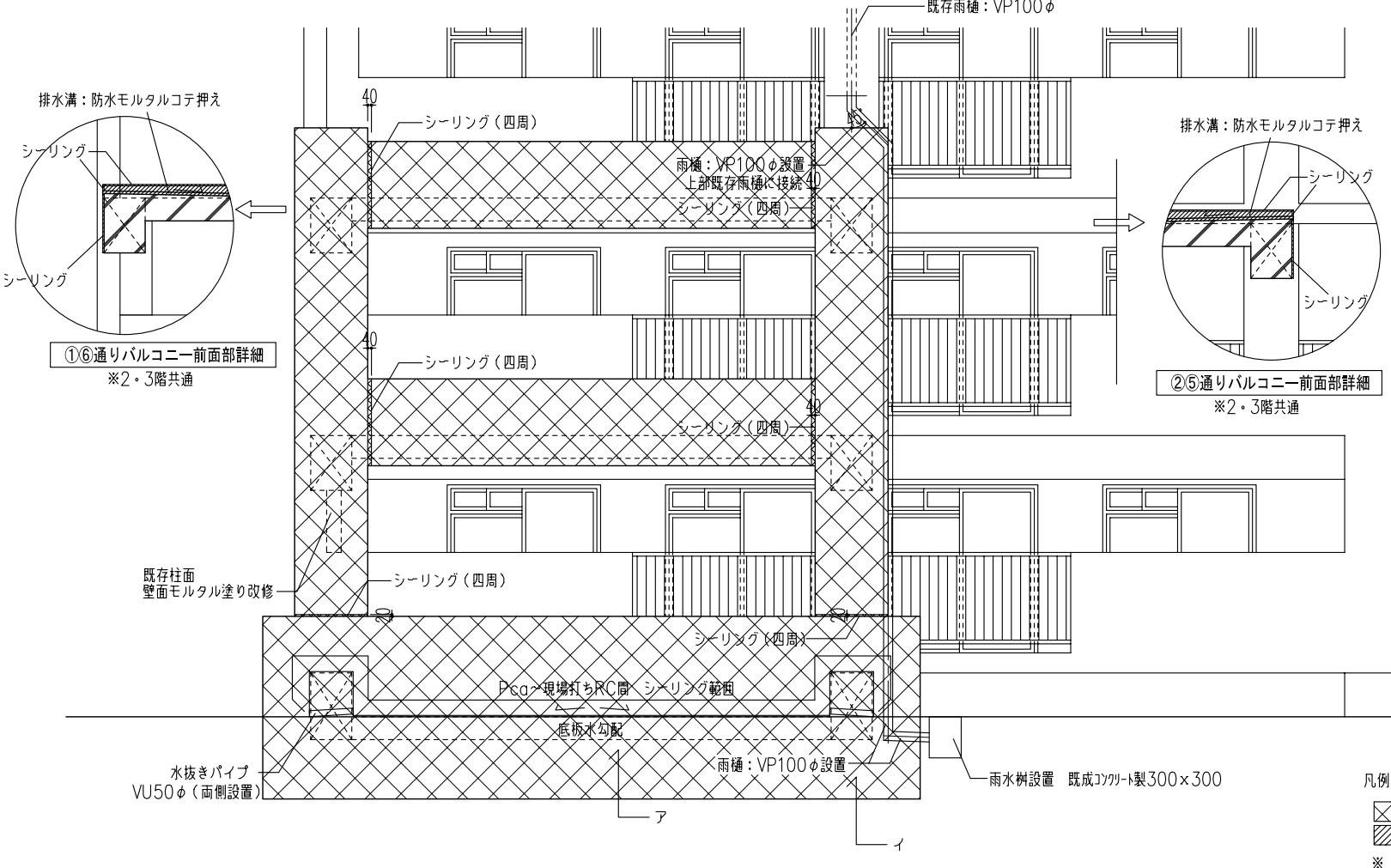
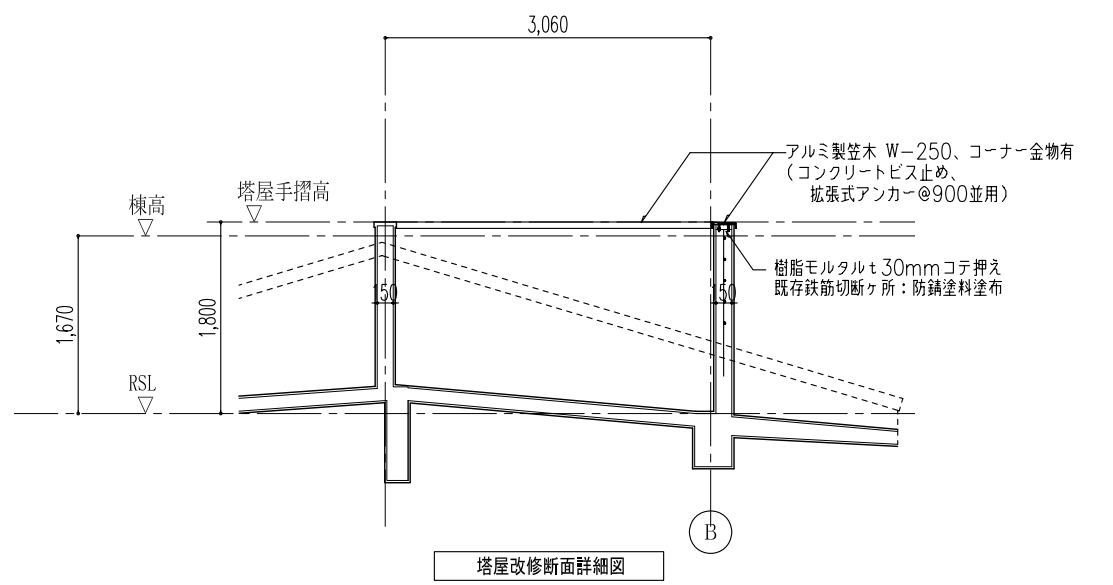
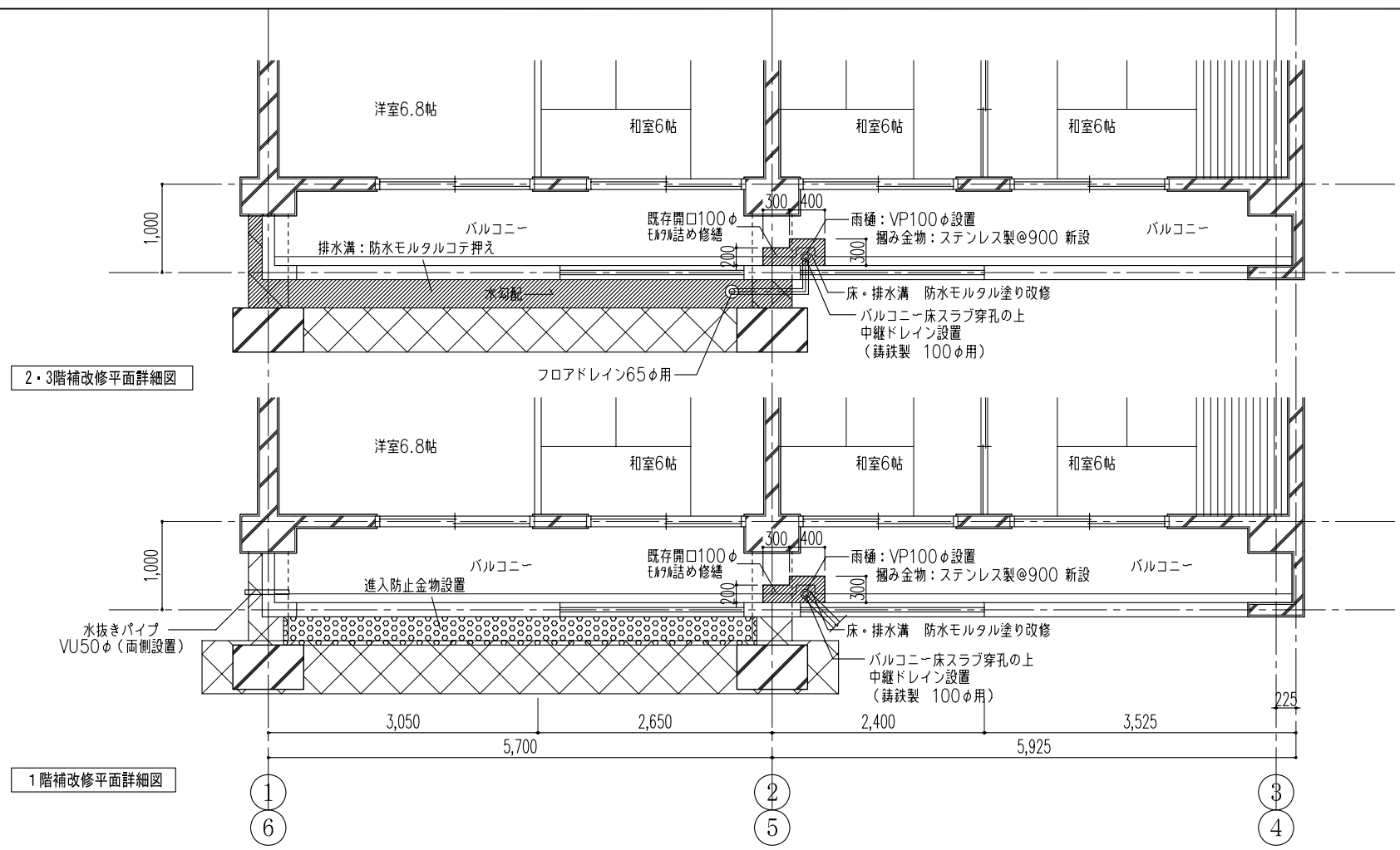
Check
 Charge Dr

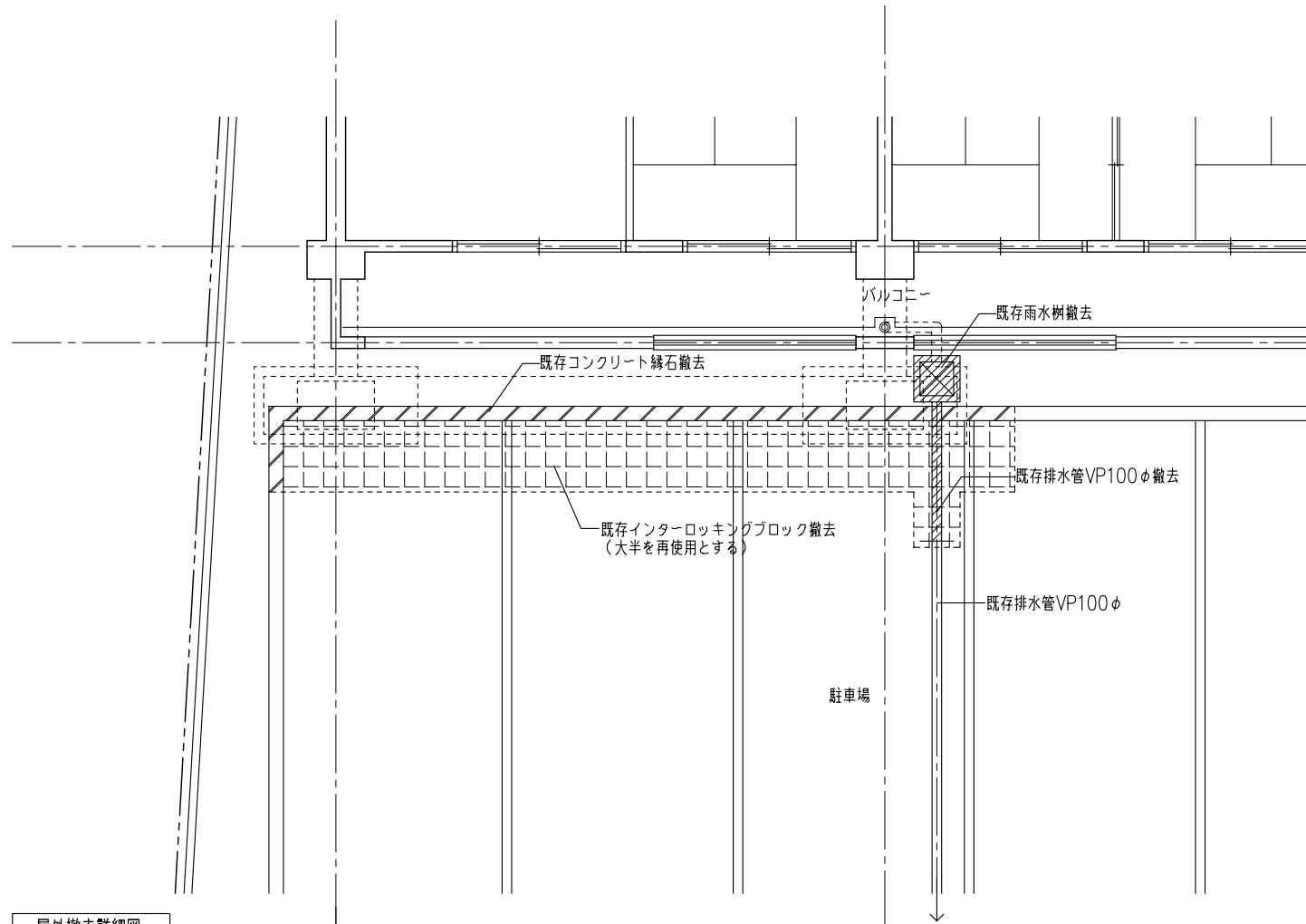
D. C.
 E. M.
 No. D-15 / 26



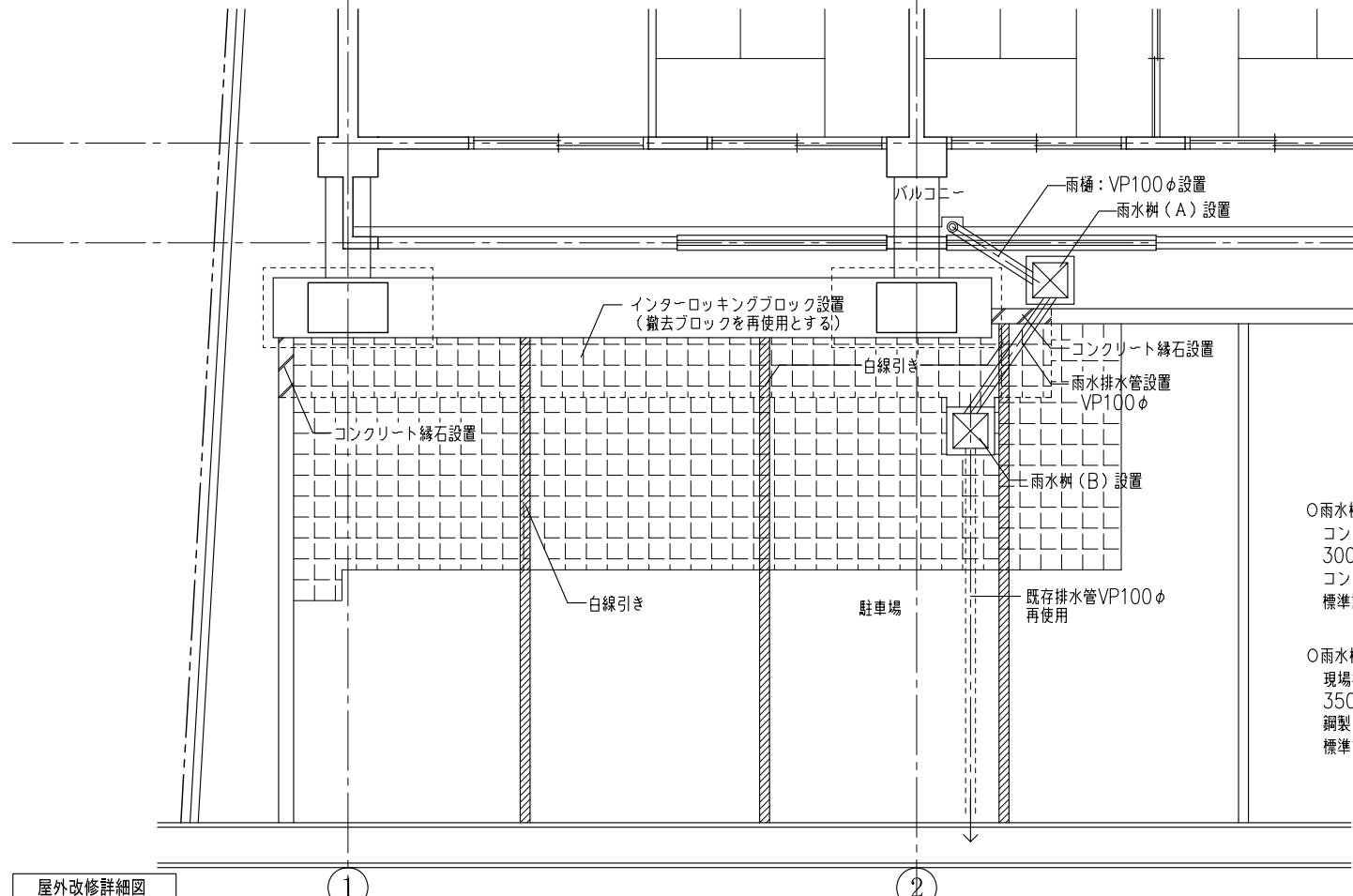
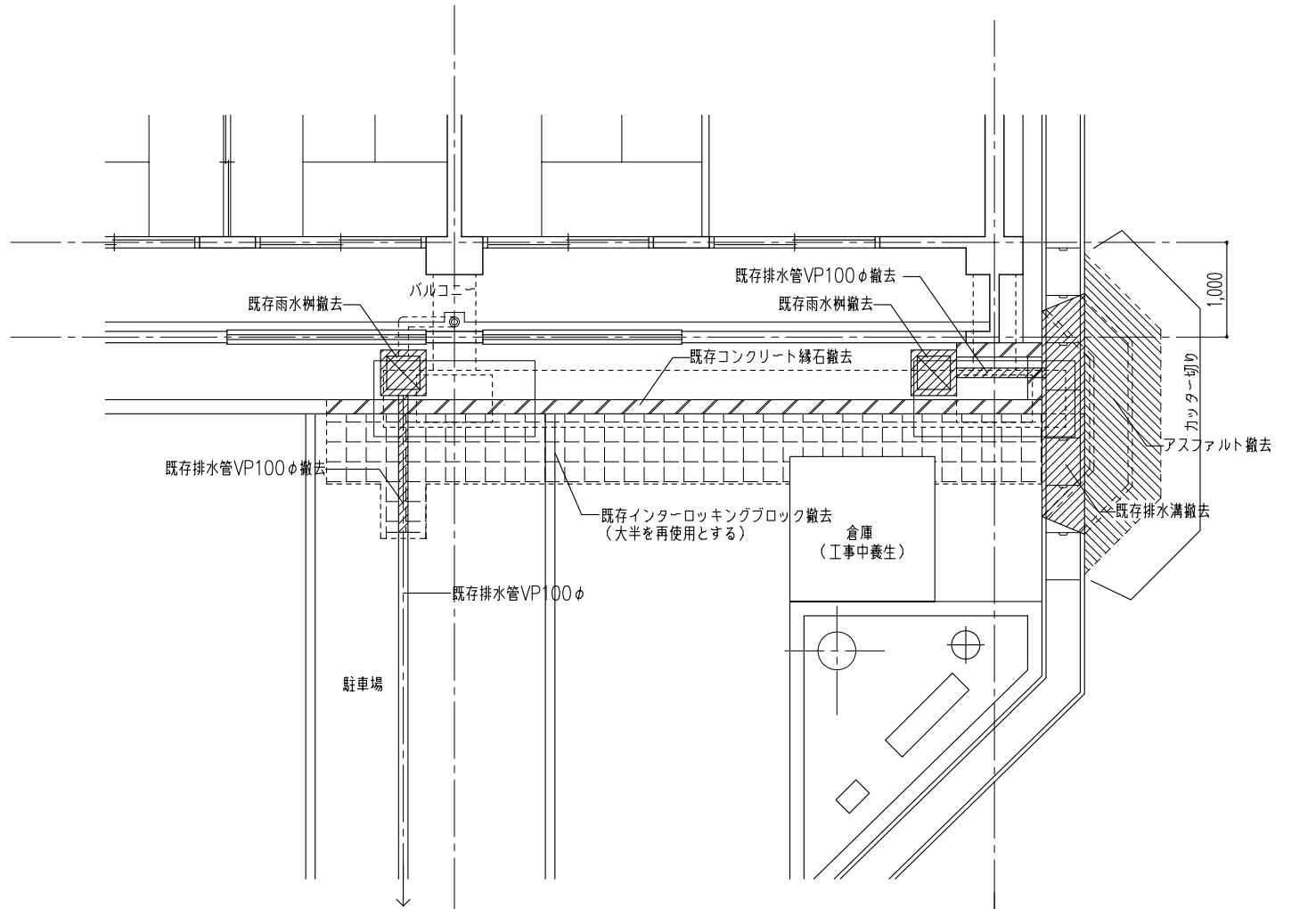
- 凡例・注記
- モルタル撤去を示す
 - コンクリート壁等撤去を示す (鉄筋は存置すること)
 - 塗装撤去の上目荒し
 - カッター切りを示す



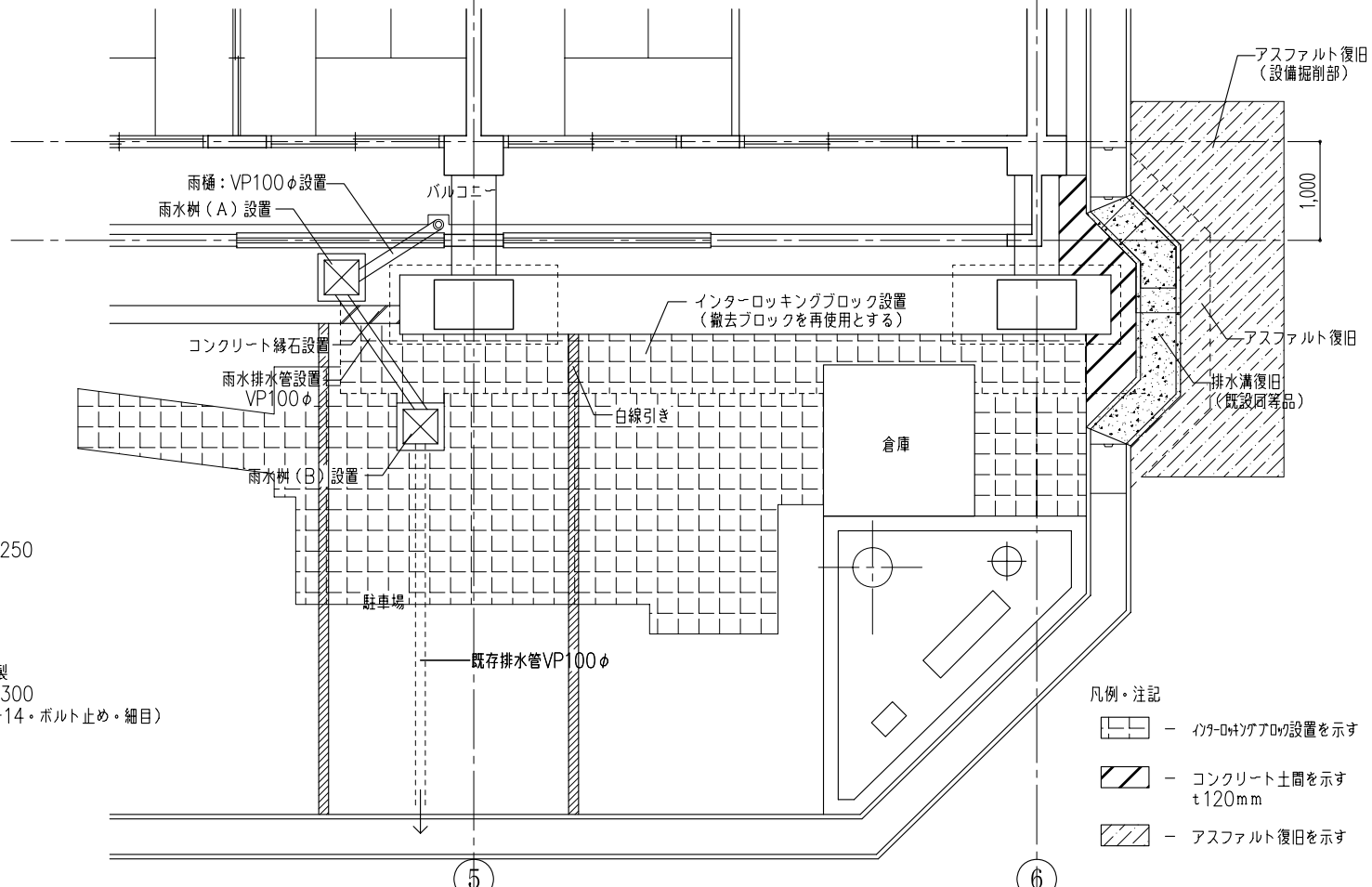




屋外撤去詳細図



屋外改修詳細図



- 雨水樹(A)
 コンクリート既製品
 300角、流出管底H-250
 コンクリート既製品
 標準詳細図9-14-1
- 雨水樹(B)
 現場打ちコンクリート製
 350角、流出管底H-300
 鋼製グレーチング(T-14・ボルト止め・細目)
 標準詳細図9-14-4

- 凡例・注記
- インターロッキングブロック設置を示す
 - コンクリート土間を示す t120mm
 - アスファルト復旧を示す

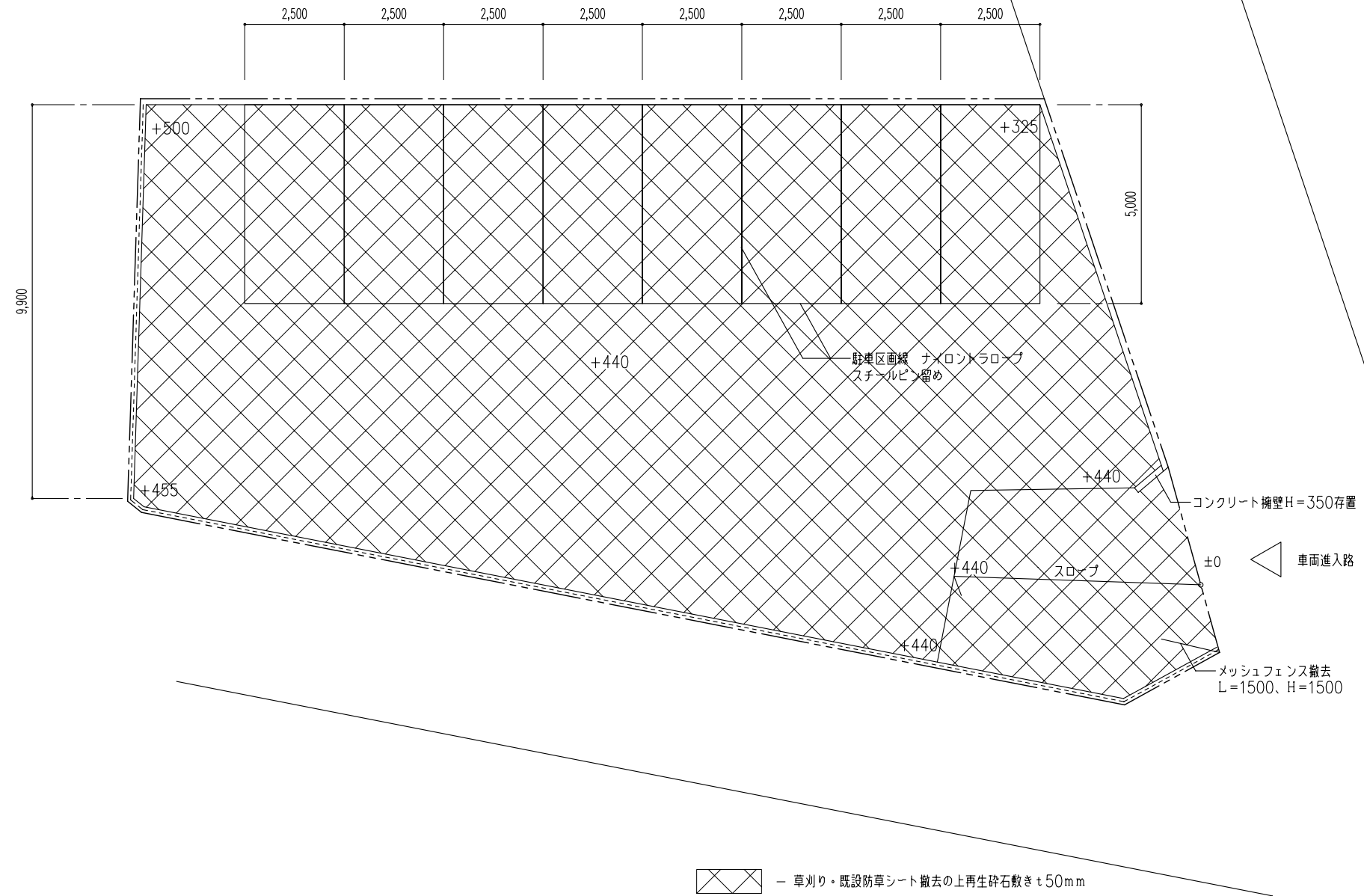
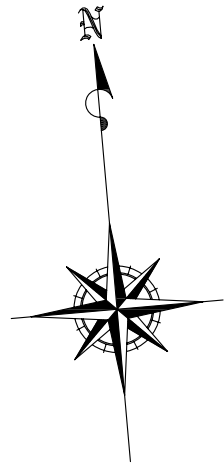
特記

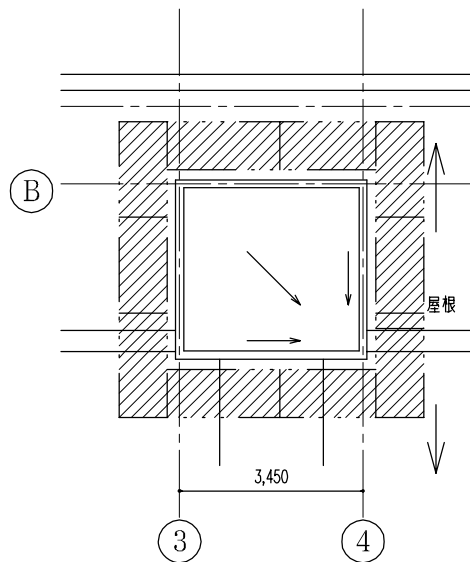
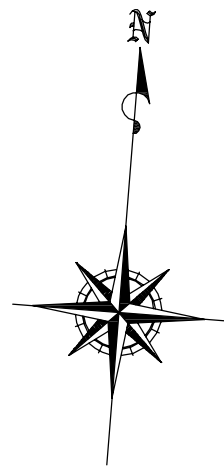
一級建築士登録第187741号 石上圭介
 一級建築士事務所登録(22A) 第00282号

工事名称 4号人第3号
 井手町営住宅北団地2号棟、南団地2号棟耐震補強工事
 図面名称 北団地2号棟 屋外撤去・改修詳細図

DATE H24. 10.
 SCALL 1/50

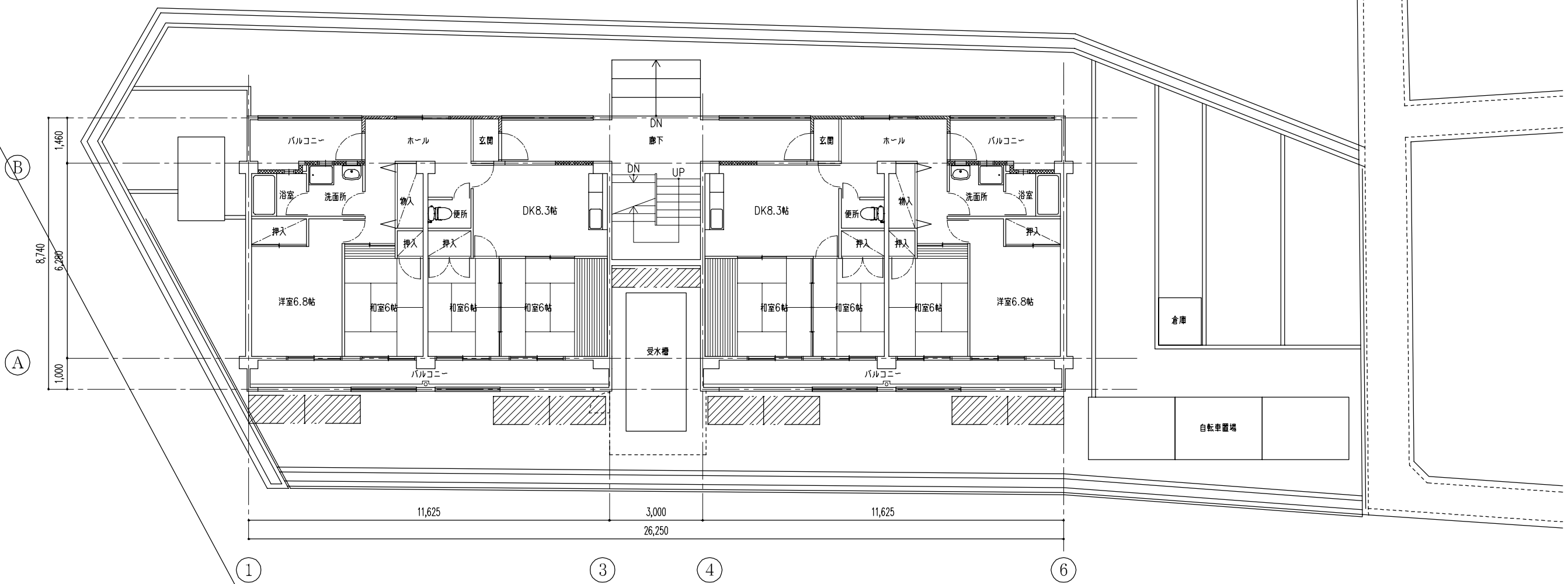
Check
 Charge Dr
 No. D-18/26



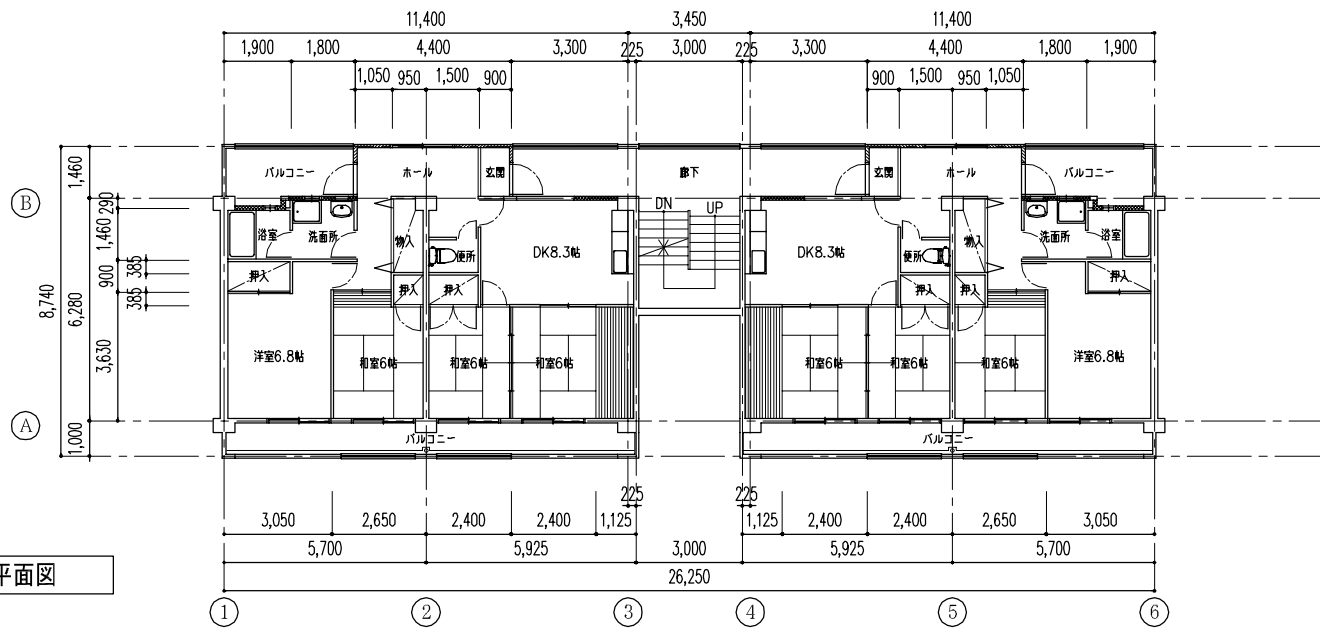


塔屋足場位置を示す

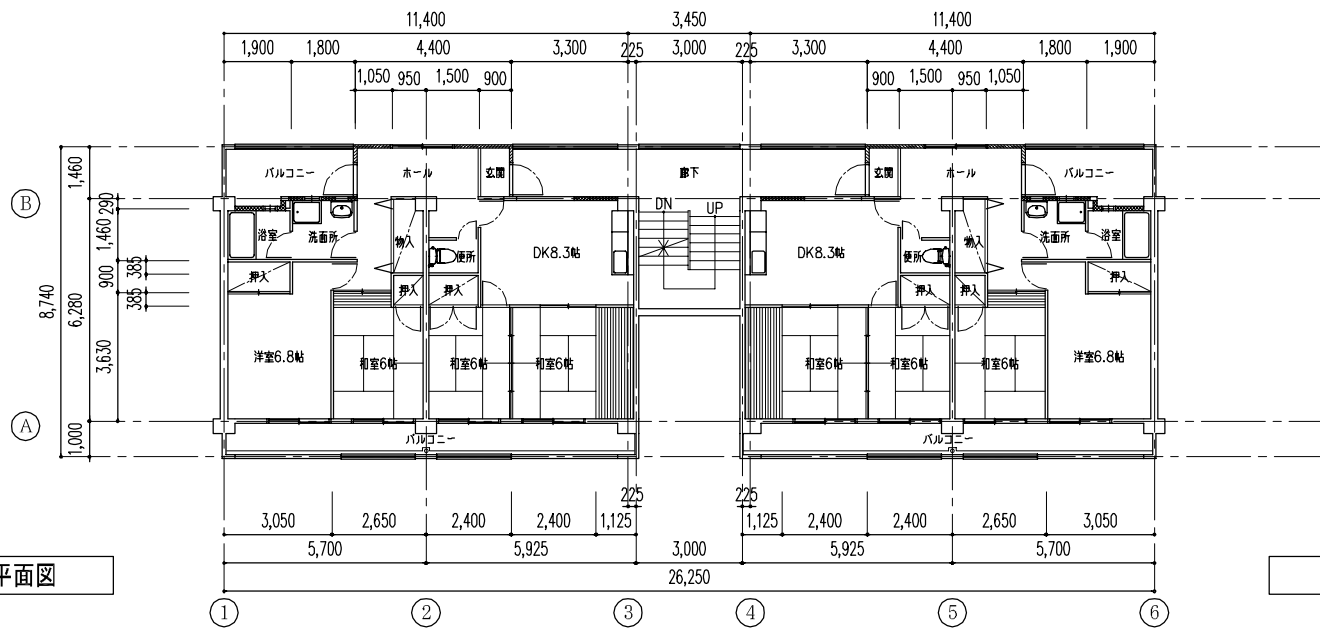
凡 例	
	鋼製足場 (W900 養生シート張り) を示す
注記 仮設位置は監督職員との打合せにより決定すること。	



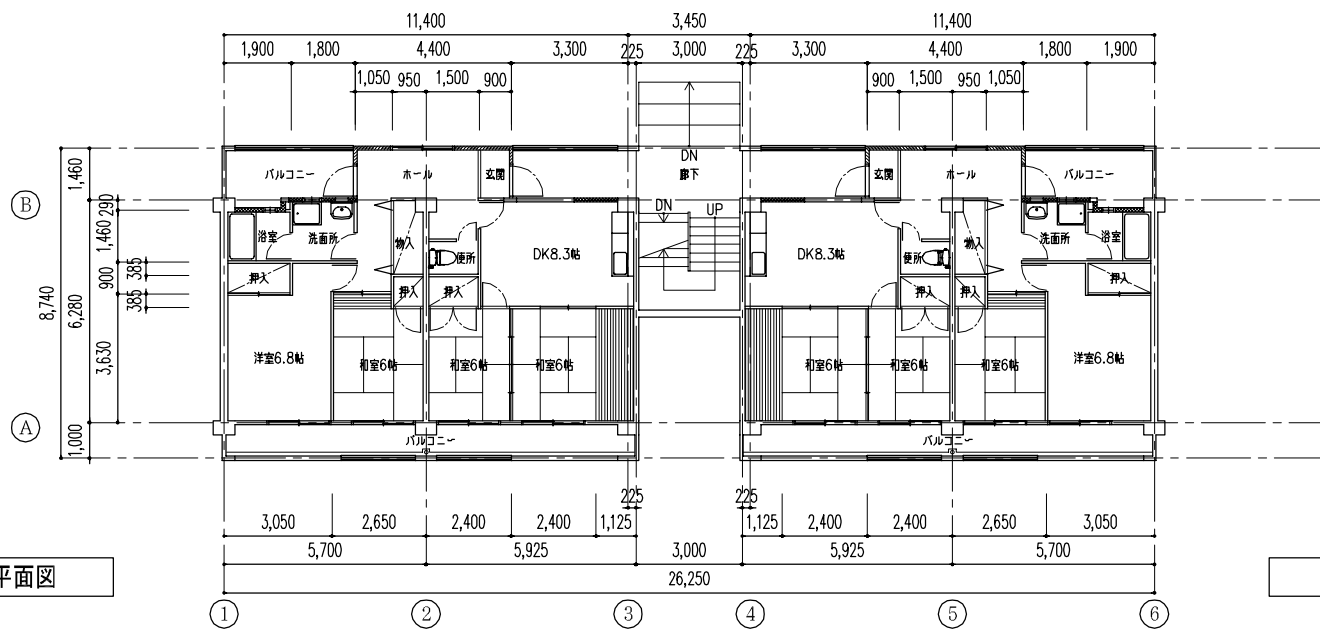
3階現況平面図



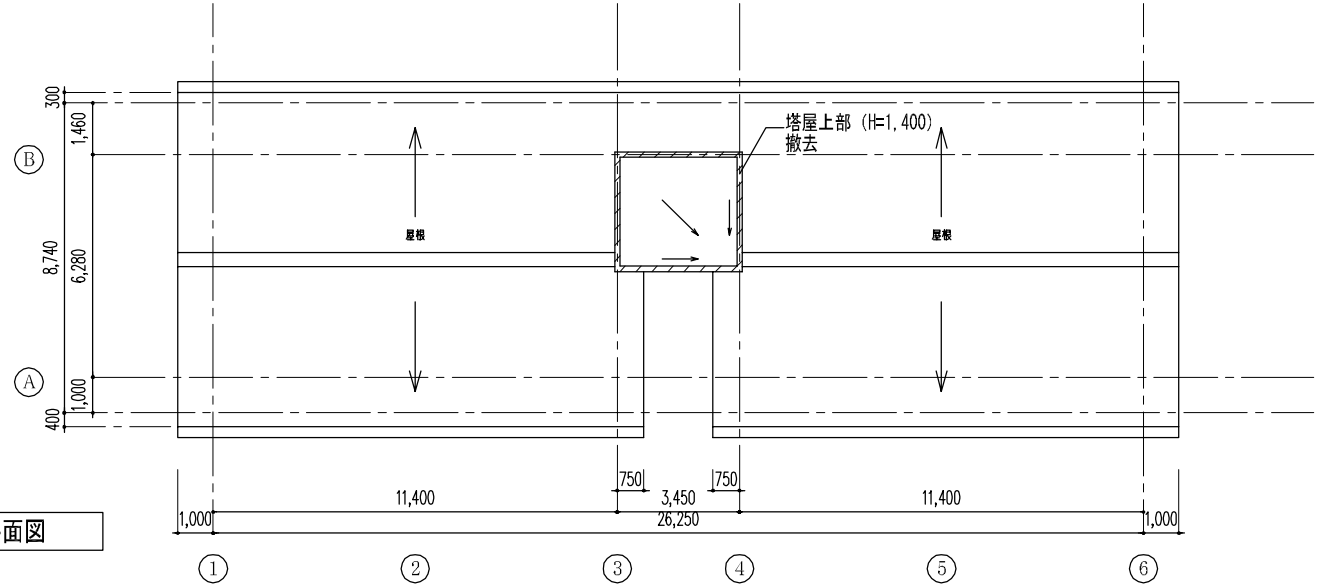
2階現況平面図



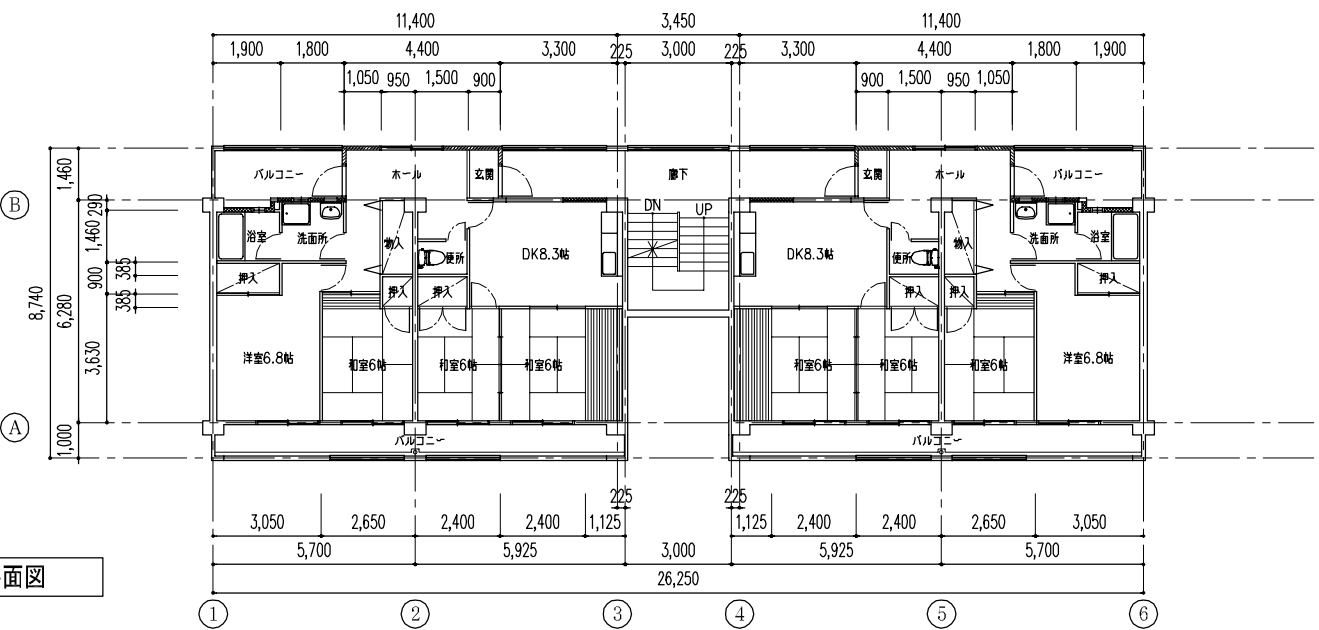
1階現況平面図

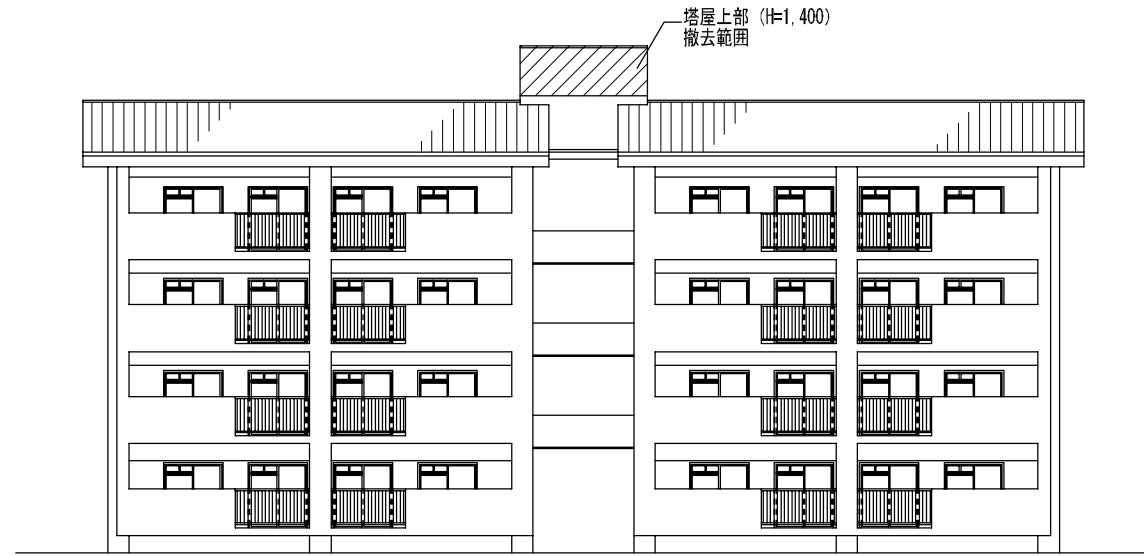


屋階現況平面図

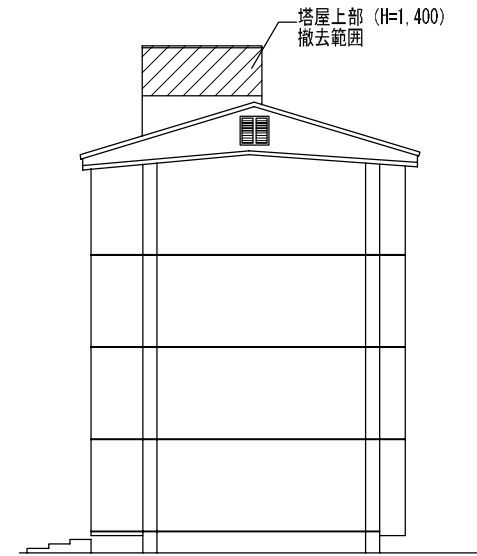


4階現況平面図

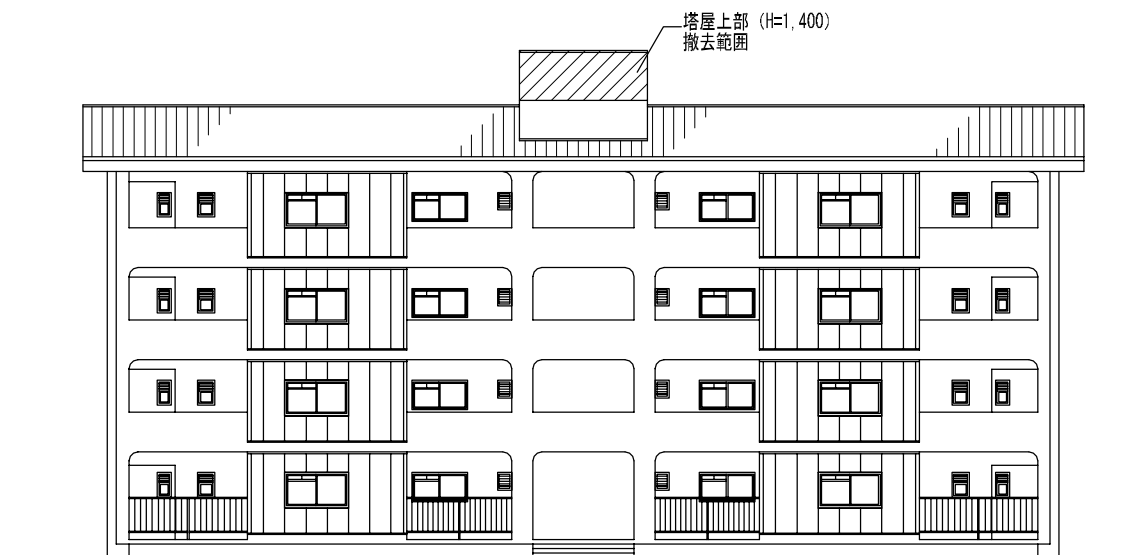




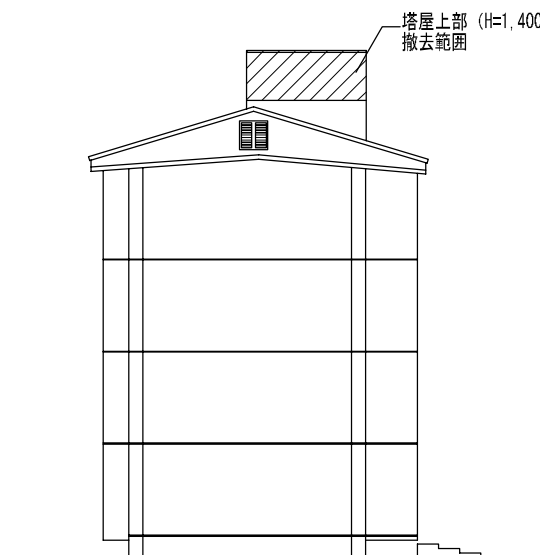
南側現況立面図



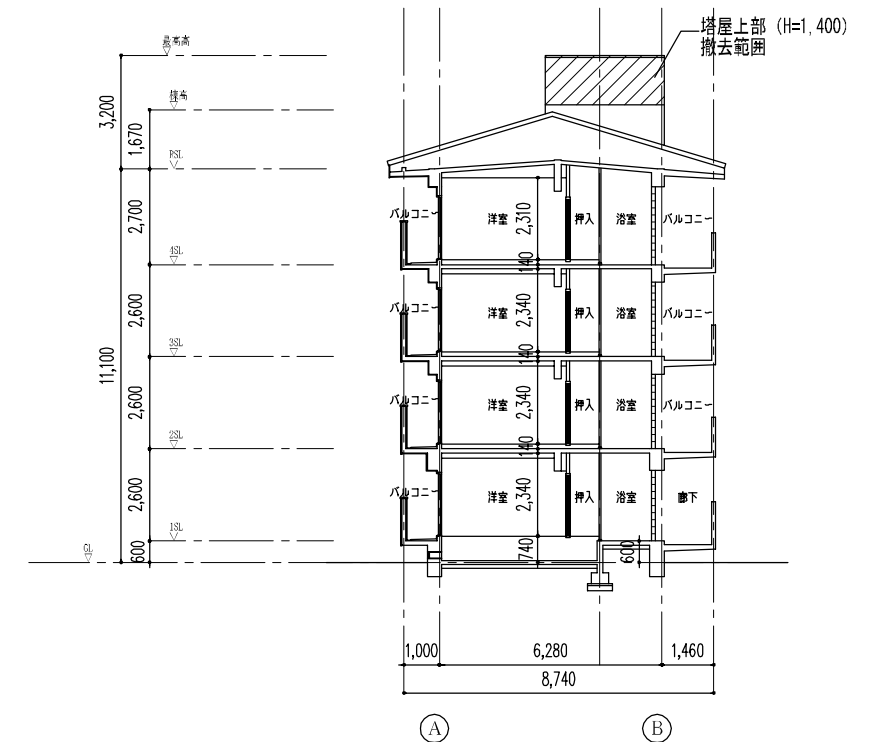
西側現況立面図



北側現況立面図



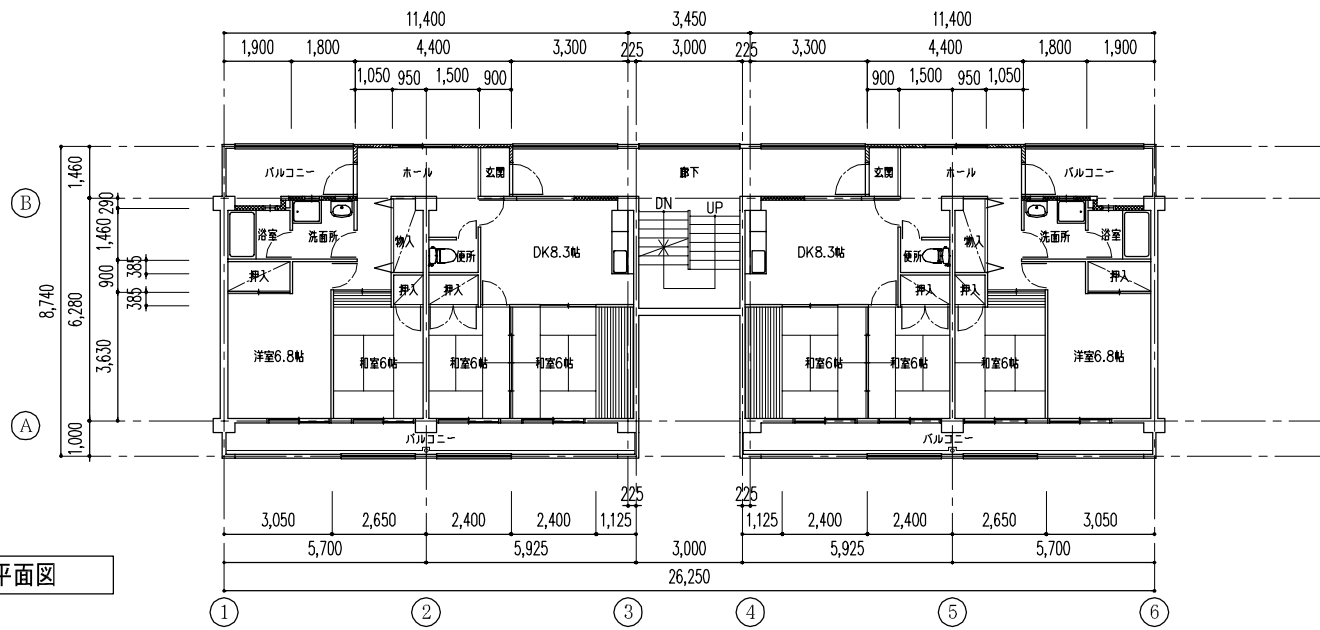
東側現況立面図



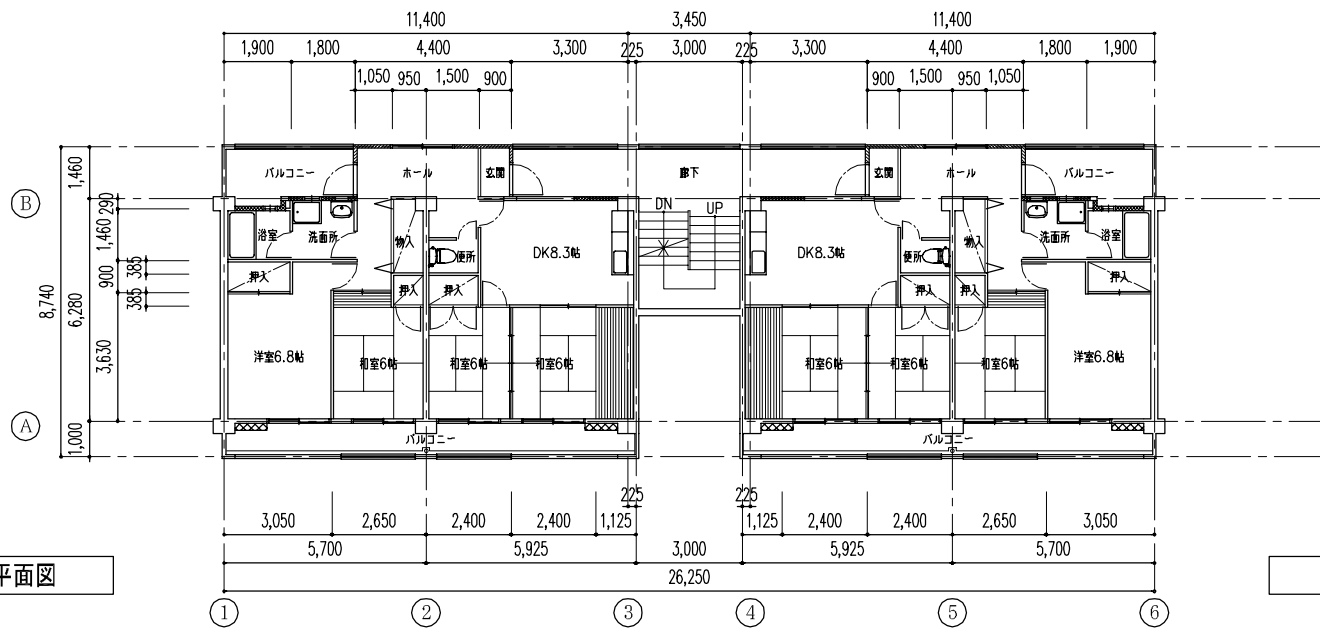
現況断面図



3階改修平面図

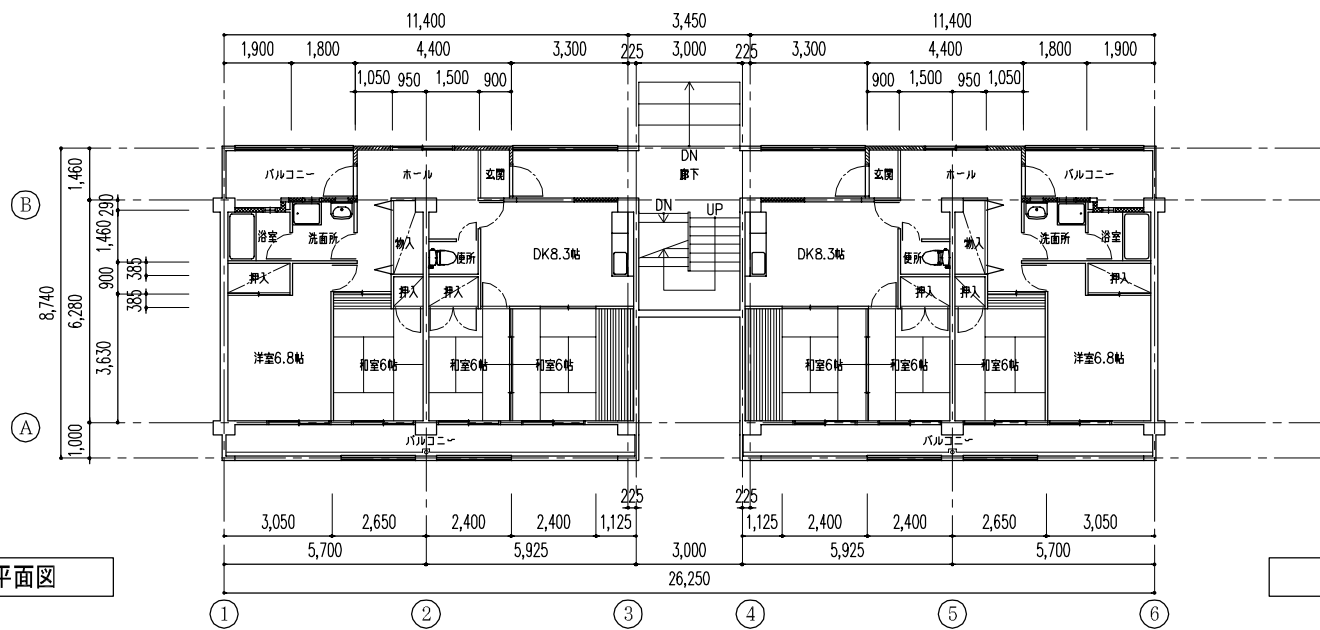


2階改修平面図

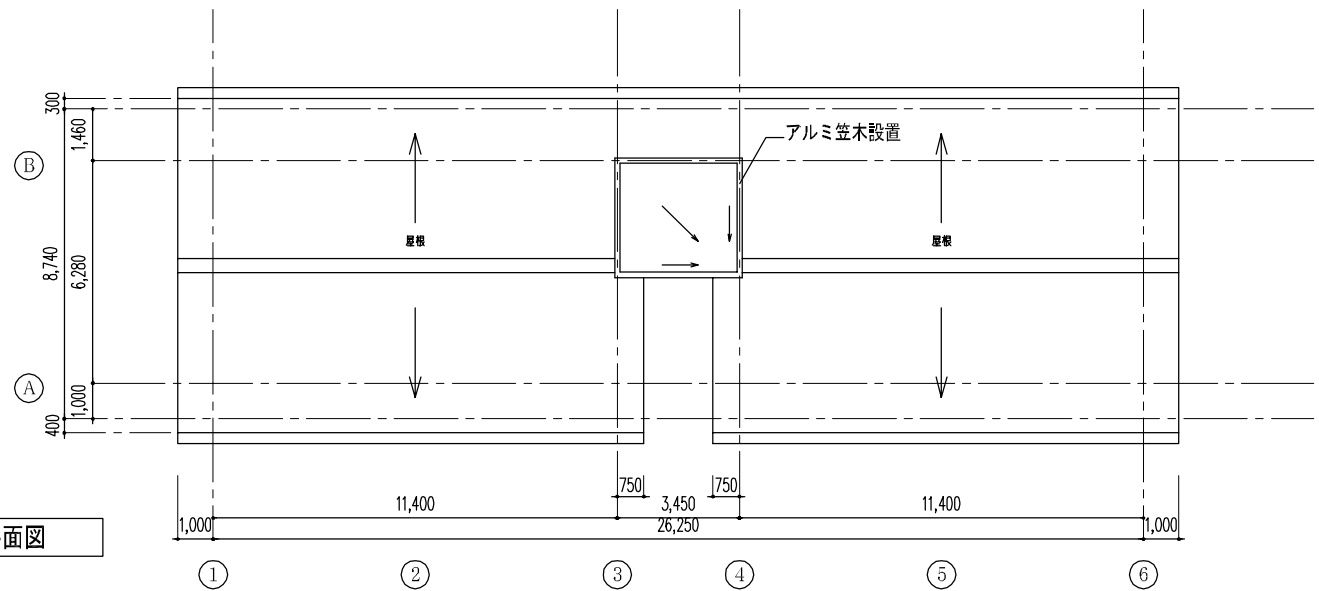


凡例・注記
 〰 補壁補強を示す

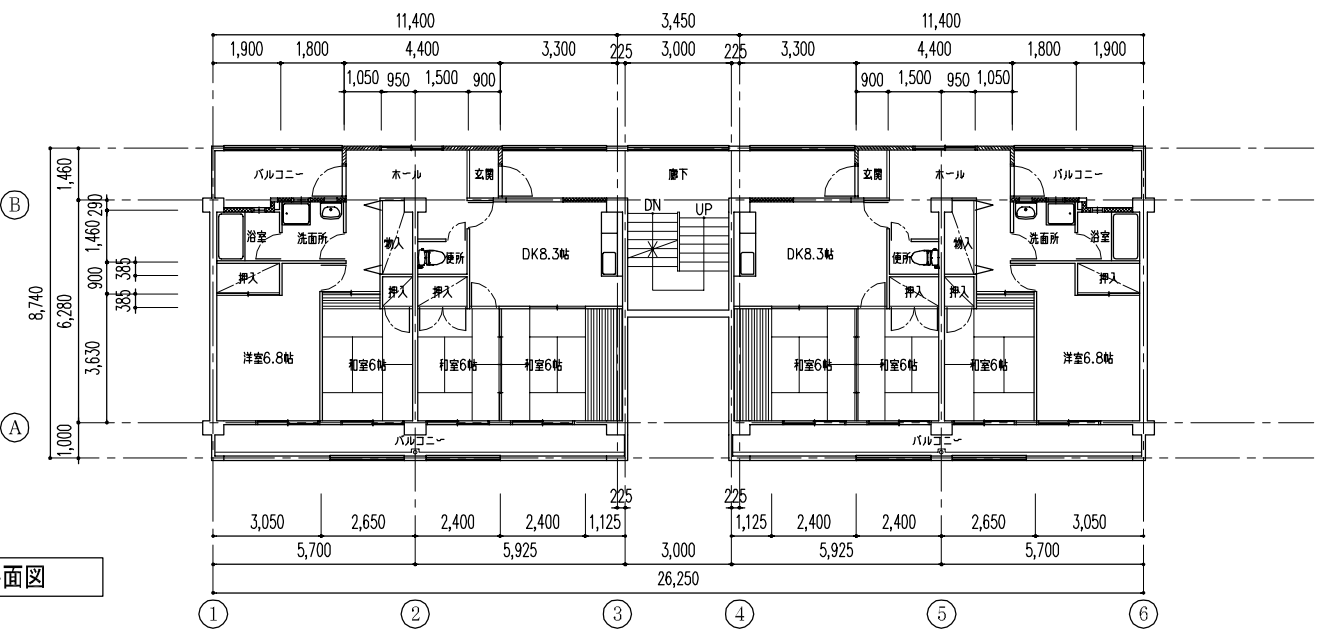
1階改修平面図

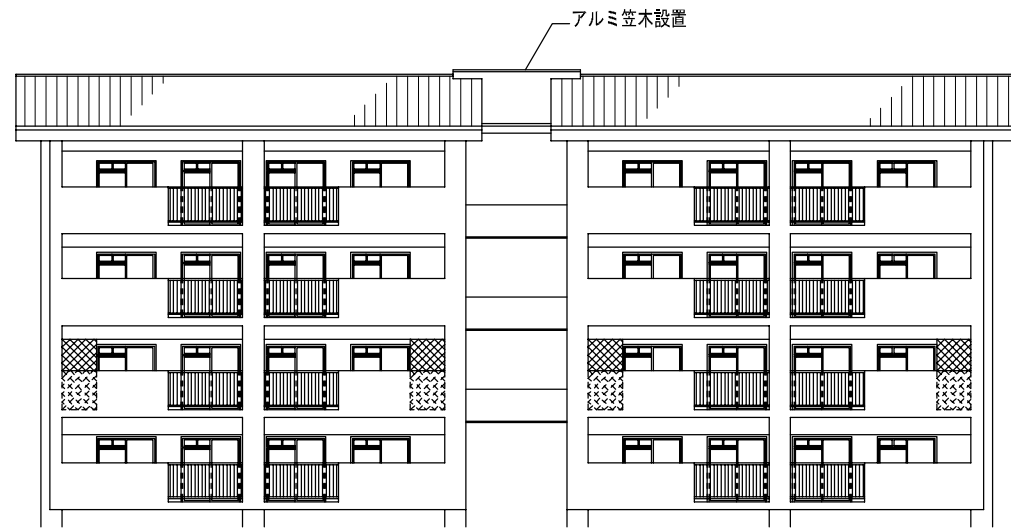


屋階改修平面図



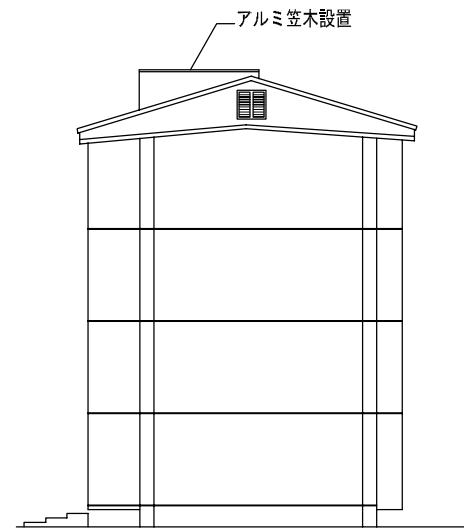
4階改修平面図



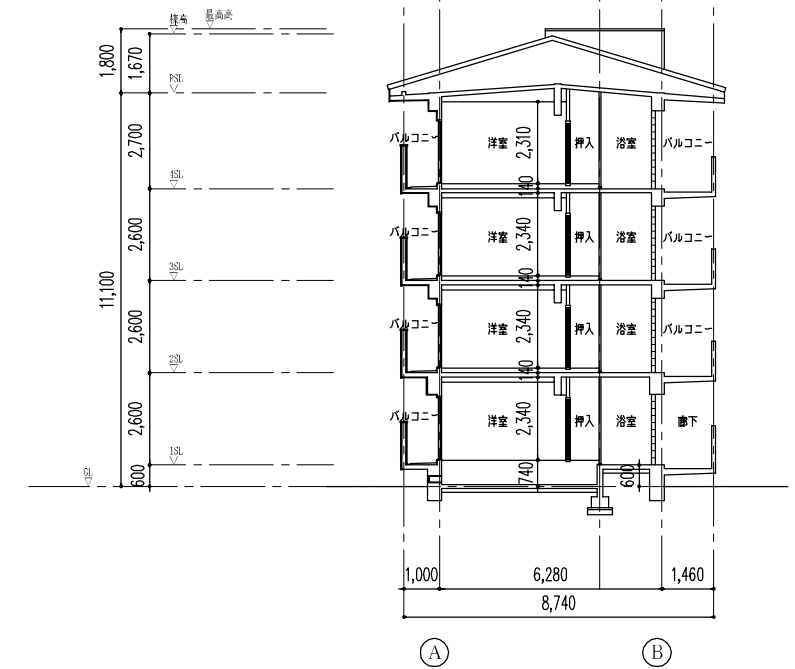


南側改修立面図

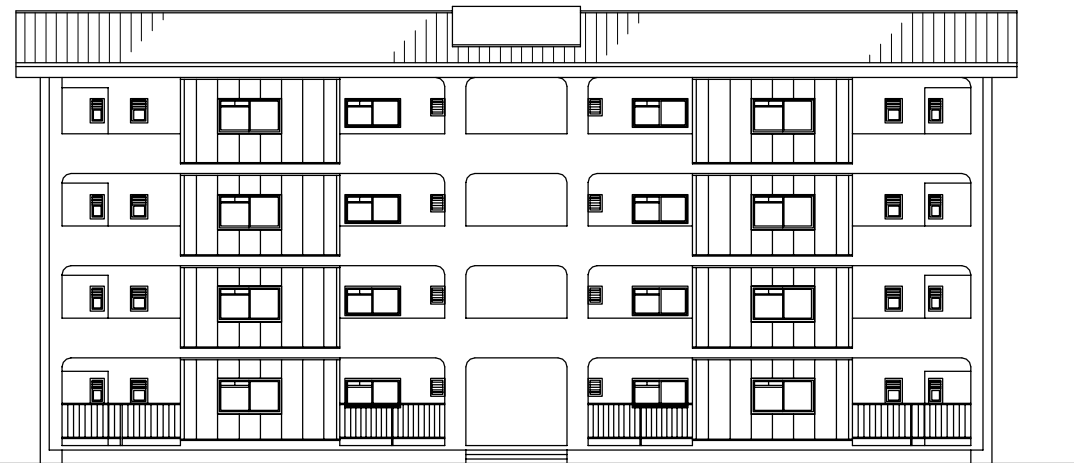
凡例・注記
 [Hatched Box] - 補強補強を示す



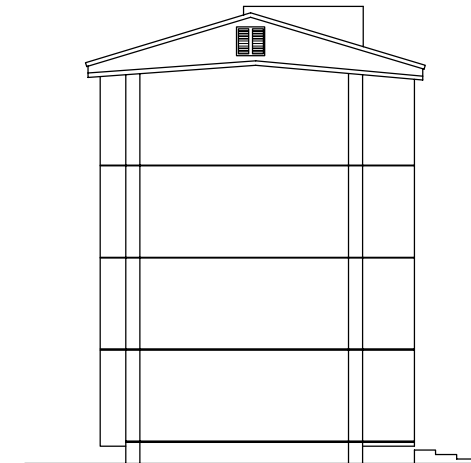
西側改修立面図



改修断面図

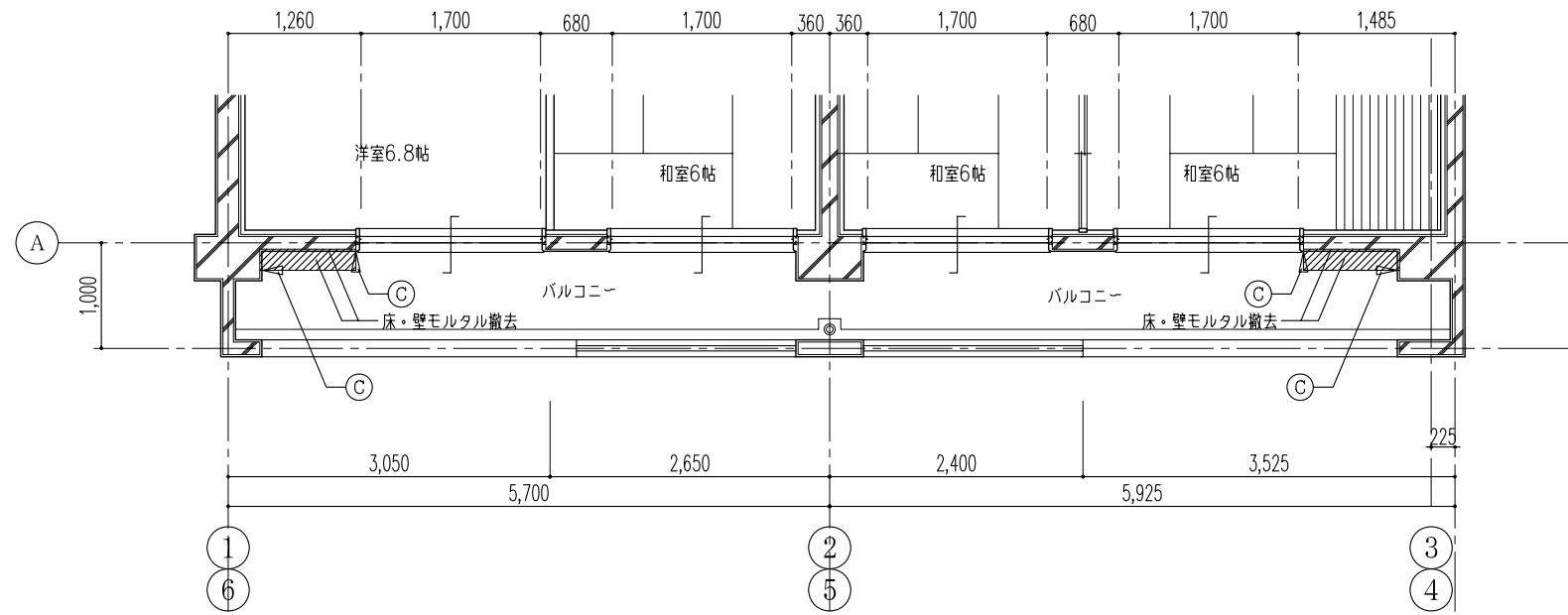


北側改修立面図

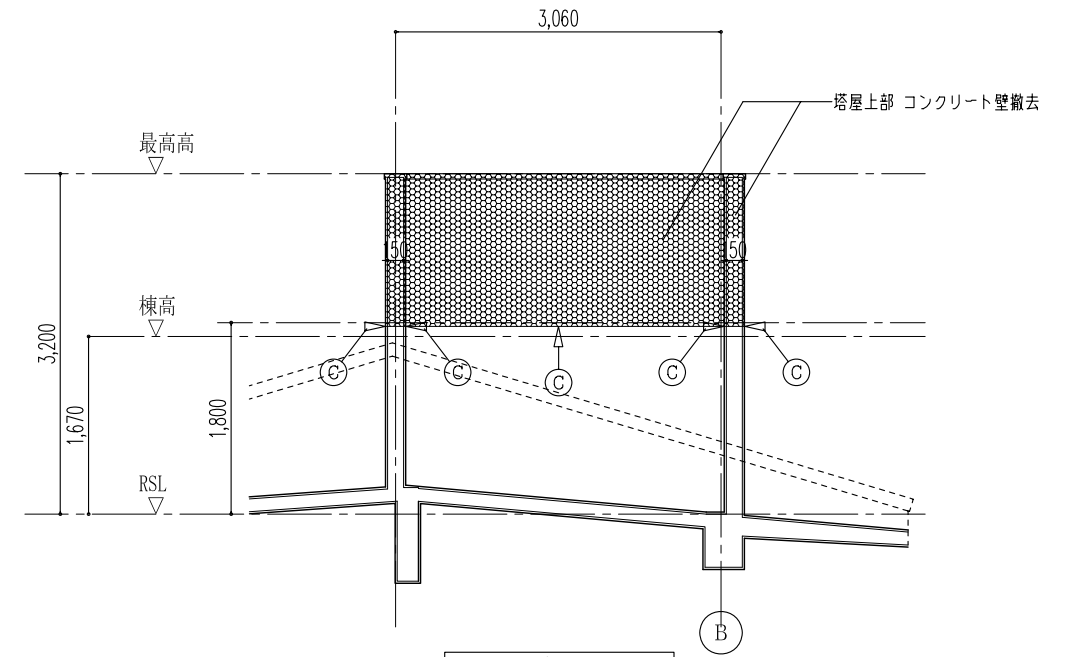


東側改修立面図

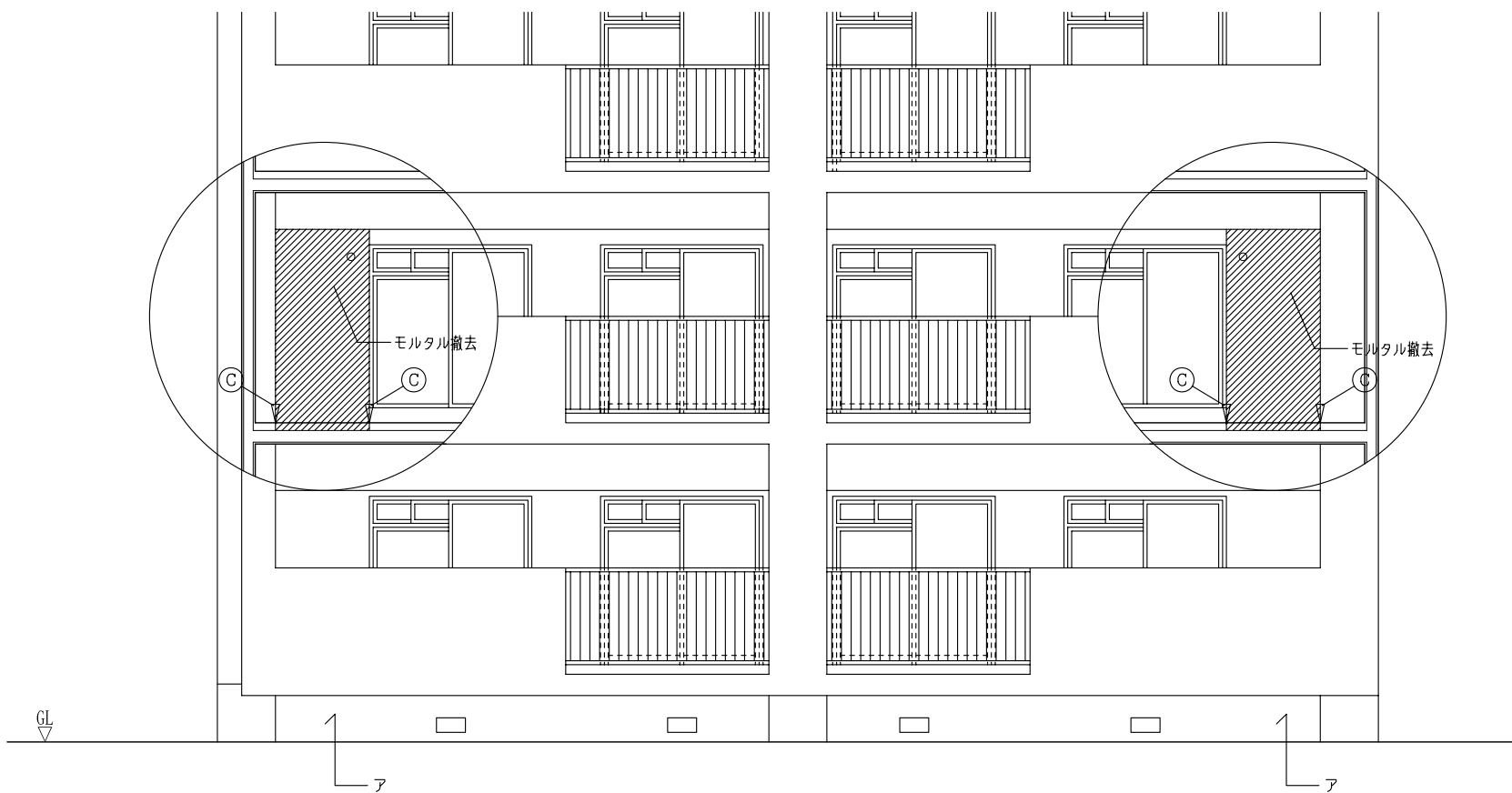




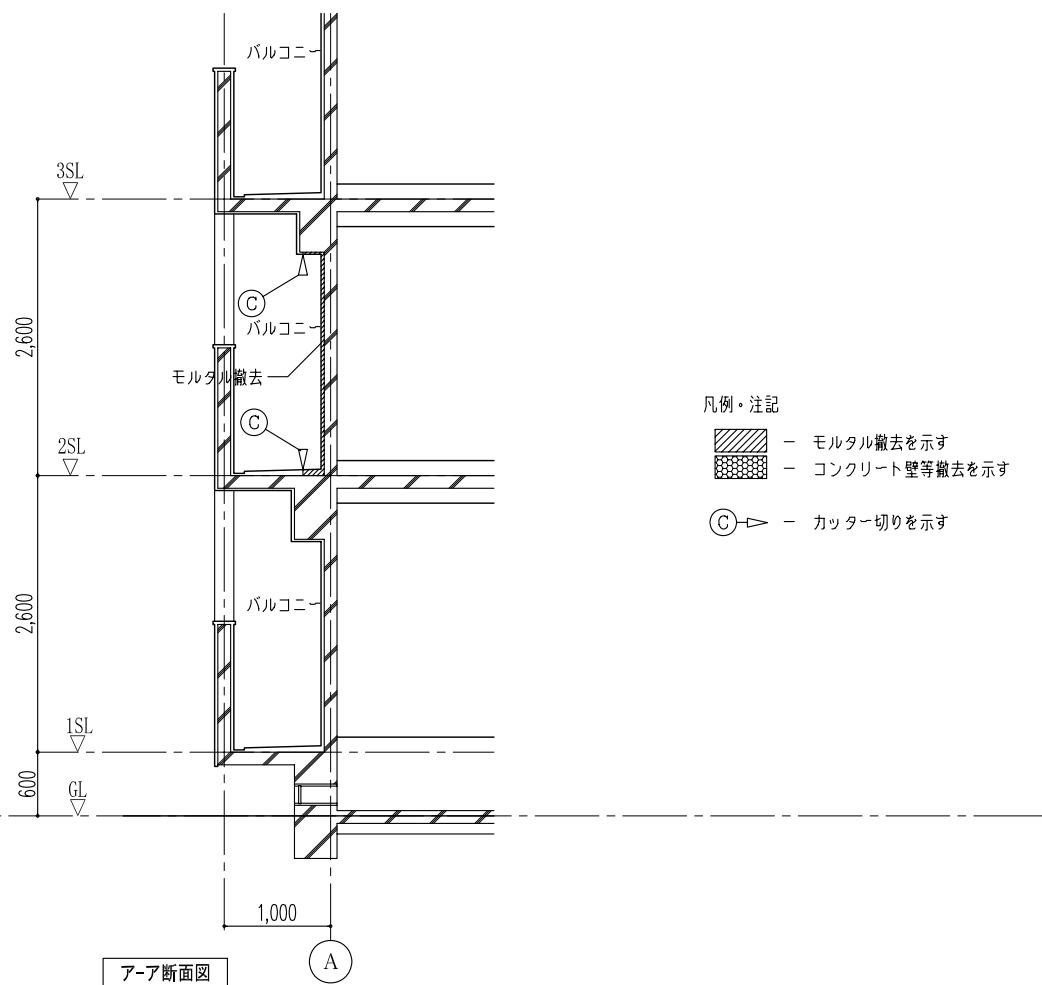
2階現況・撤去平面詳細図



塔屋現況・撤去断面詳細図

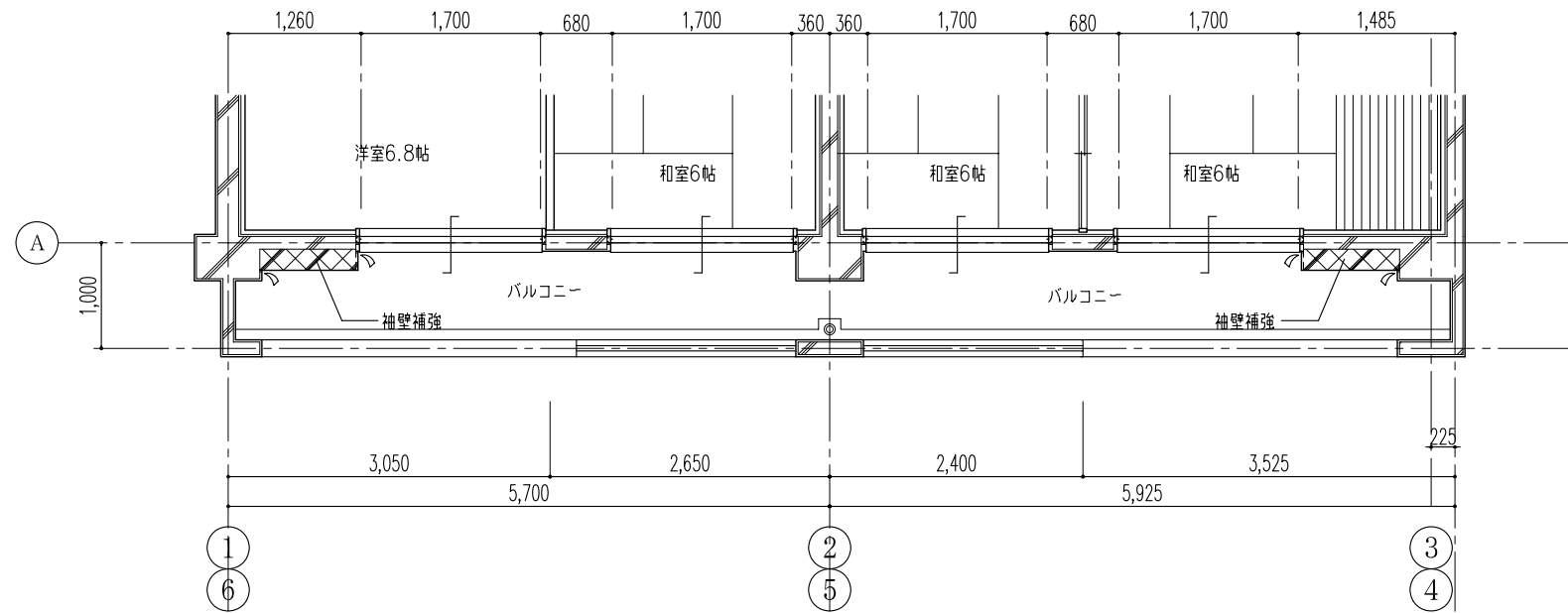


現況・撤去立面詳細図

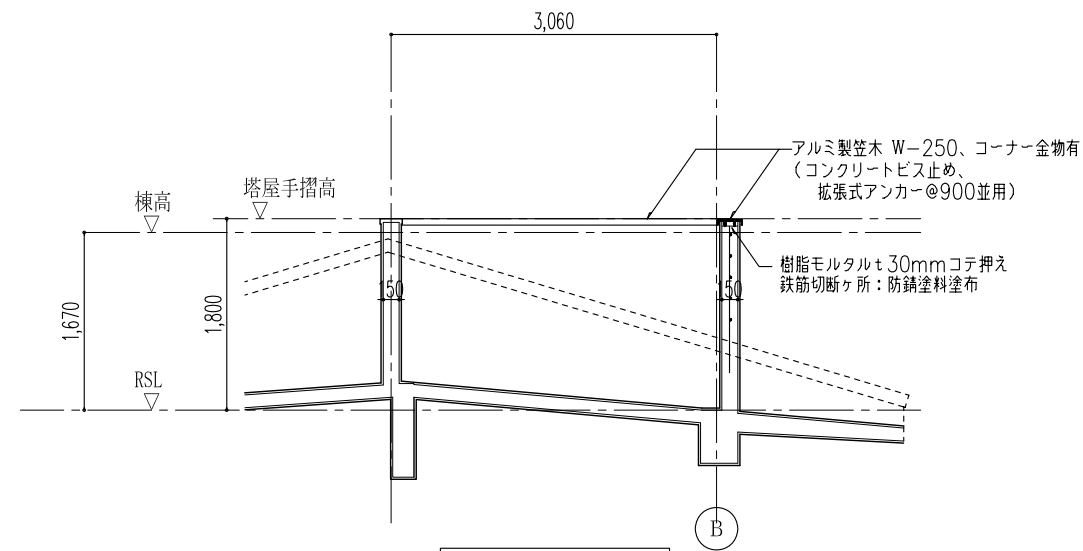


ア-ア断面図

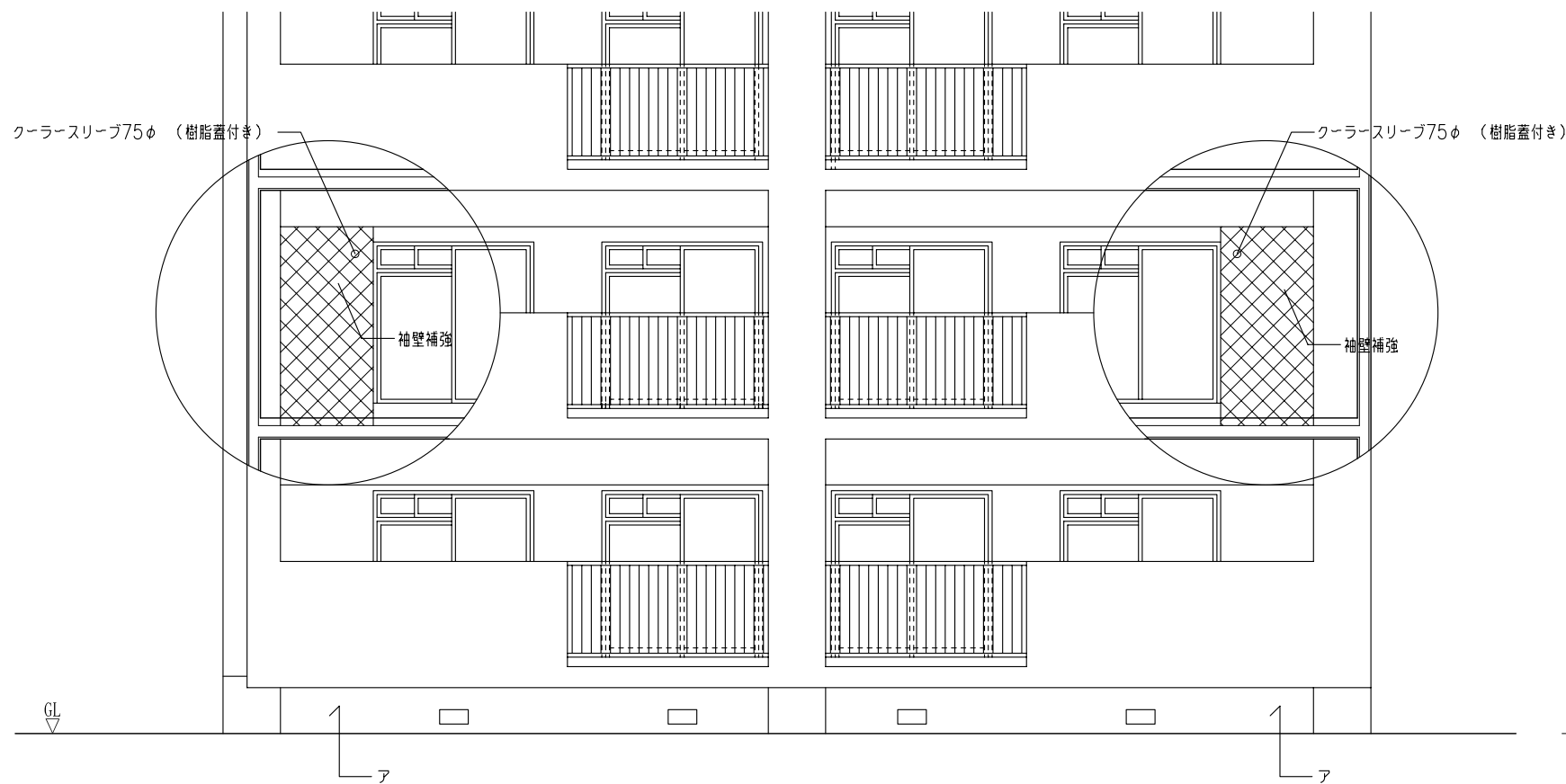




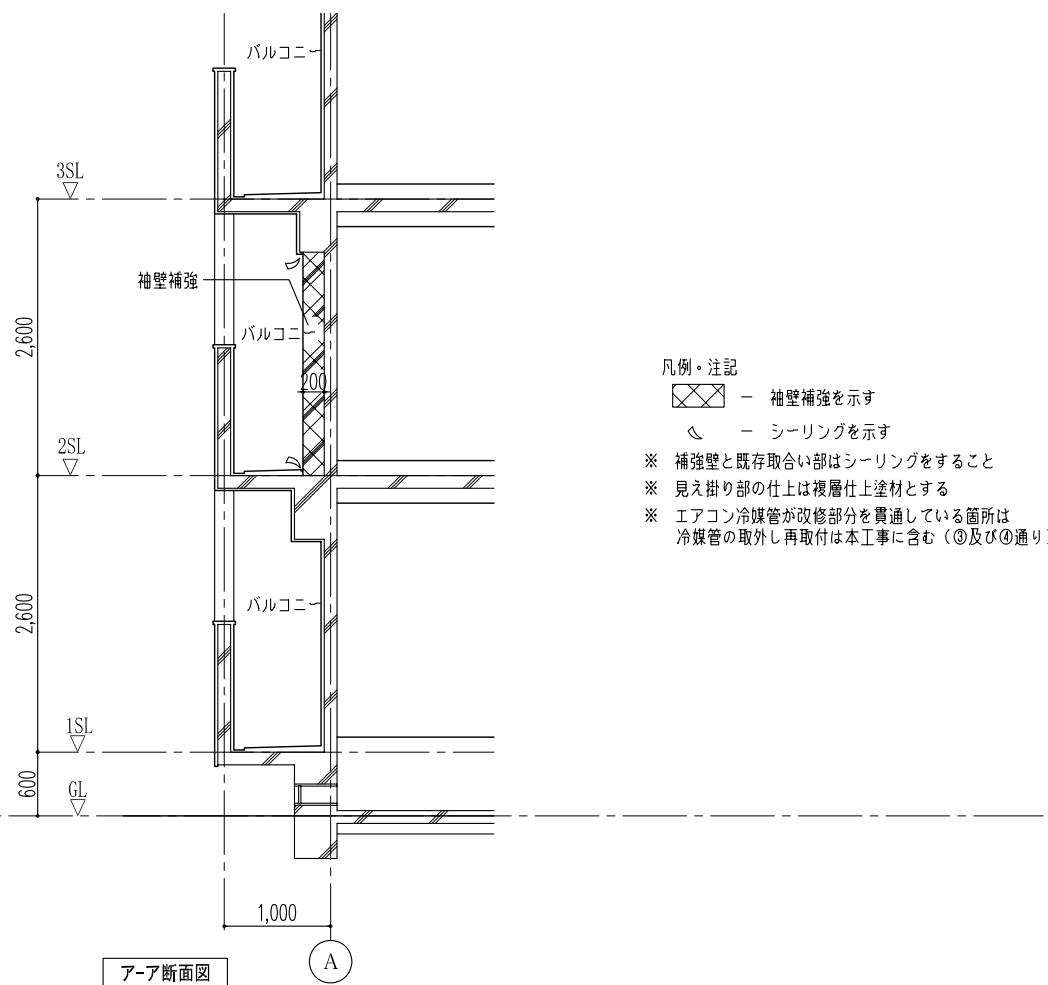
2階現況・撤去平面詳細図



塔屋改修断面詳細図



現況・撤去立面詳細図



ア-ア断面図

